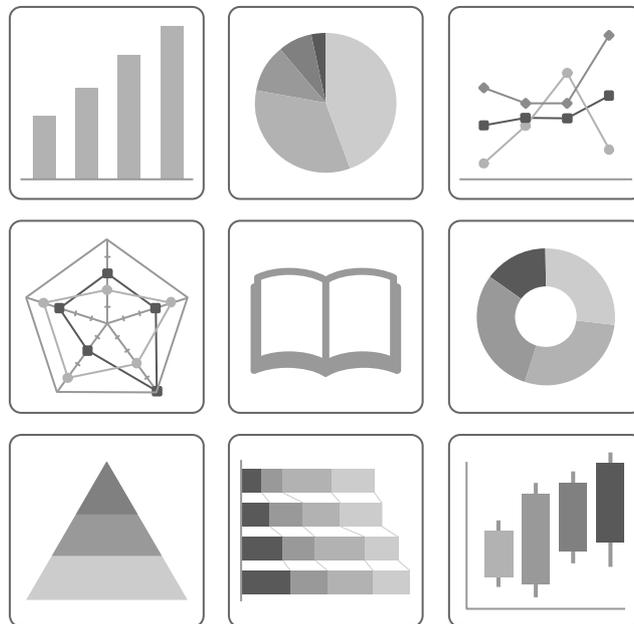


笛吹市
障害者基本計画の策定のための
アンケート調査
調査結果報告書



令和2年12月

笛 吹 市

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収状況	1
6	調査結果の表示方法	1
II	調査結果	2
1	回答者属性	2
2	心身の状況について	5
3	生活や介助のことについて	10
4	外出のことについて	20
5	障害福祉サービスのことについて	28
6	仕事のことについて	36
7	教育や保育のことについて	42
8	困った時の相談について	47
9	「障がい」への地域の理解について	54
10	災害時の対応について	64

I 調査の概要

1 調査の目的

障がい者の生活状況や福祉サービスの利用状況、利用意向、意見などを聞き、第4次笛吹市障害者基本計画策定の基礎資料として、調査を実施するものです。

2 調査対象

笛吹市在住の75歳未満の身体・精神・療育の手帳所持者のうち1,000人を無作為抽出

3 調査期間

令和2年8月

4 調査方法

郵送による配布・回収

5 回収状況

配布数	有効回答数	有効回答率
1,000通	564通	56.4%

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを■で網かけをしています。（無回答を除く）
- ・回答者数が1桁の場合、回答件数による表記としています。
- ・平成28年度調査との比較においては、複数回答の設問の場合、平成28年度集計と対比させるため、回答総数に対する割合で集計しています。

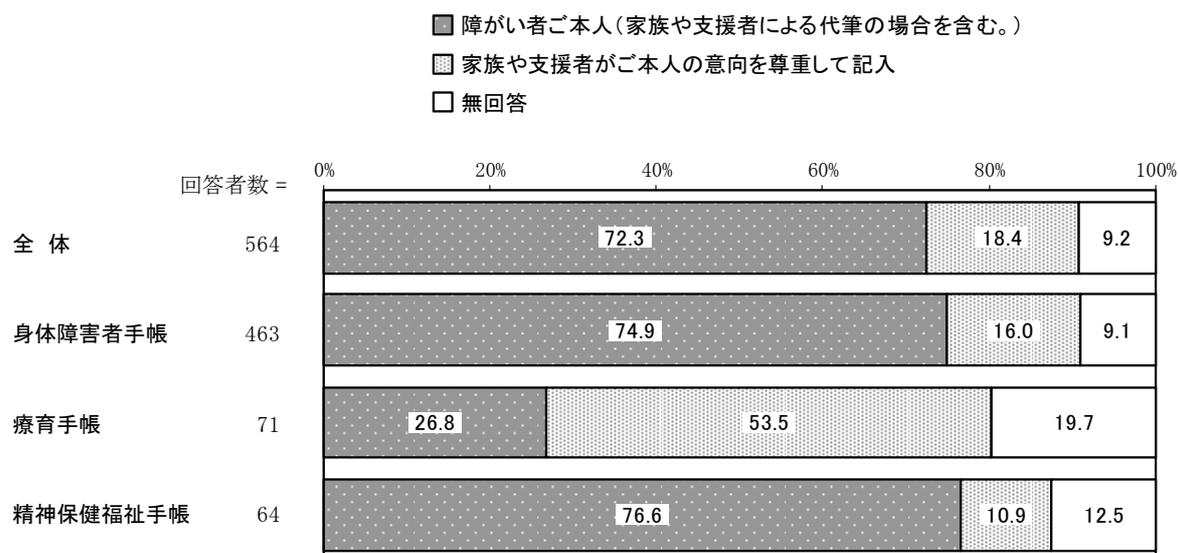
II 調査結果

1 回答者属性

問1 このアンケートにお答えいただくのは、どなたですか。(〇は1つだけ)

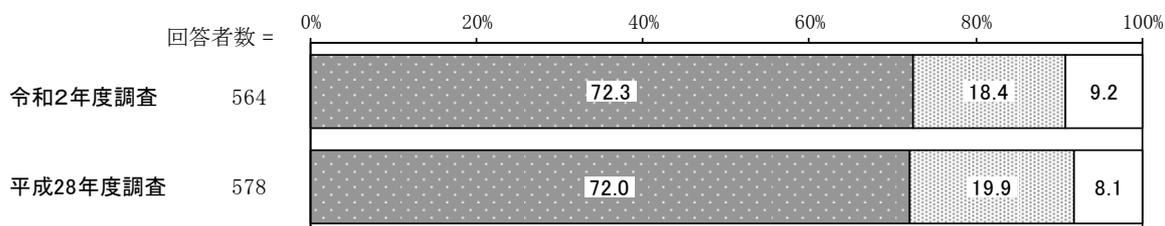
「障がい者ご本人(家族や支援者による代筆の場合を含む。)」の割合が72.3%、「家族や支援者がご本人の意向を尊重して記入」の割合が18.4%となっています。

所持手帳別で見ると、他に比べ、身体障害者手帳で「障害者ご本人」の割合が、精神保健福祉手帳で「障害者ご本人」の割合が高くなっています。また、療育手帳で「家族や支援者がご本人の意向を尊重して記入」の割合が高くなっています。



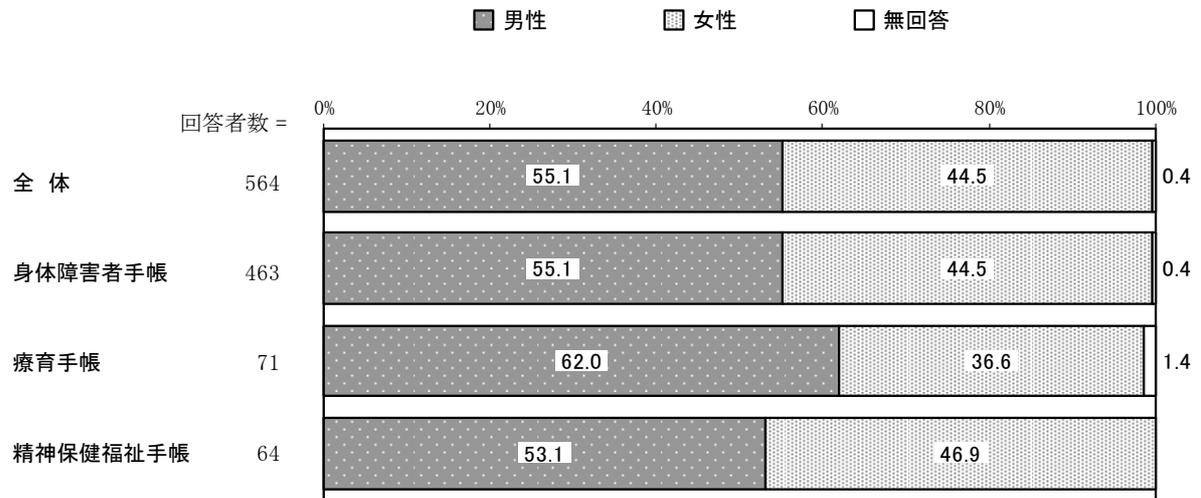
【平成28年度調査との比較】

平成28年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問2 あなた（障がい者ご本人）の性別は、次のうちどれですか。（○は1つだけ）

「男性」の割合が55.1%、「女性」の割合が44.5%となっています。
所持手帳別で見ると、他に比べ、療育手帳で「男性」の割合が高くなっています。



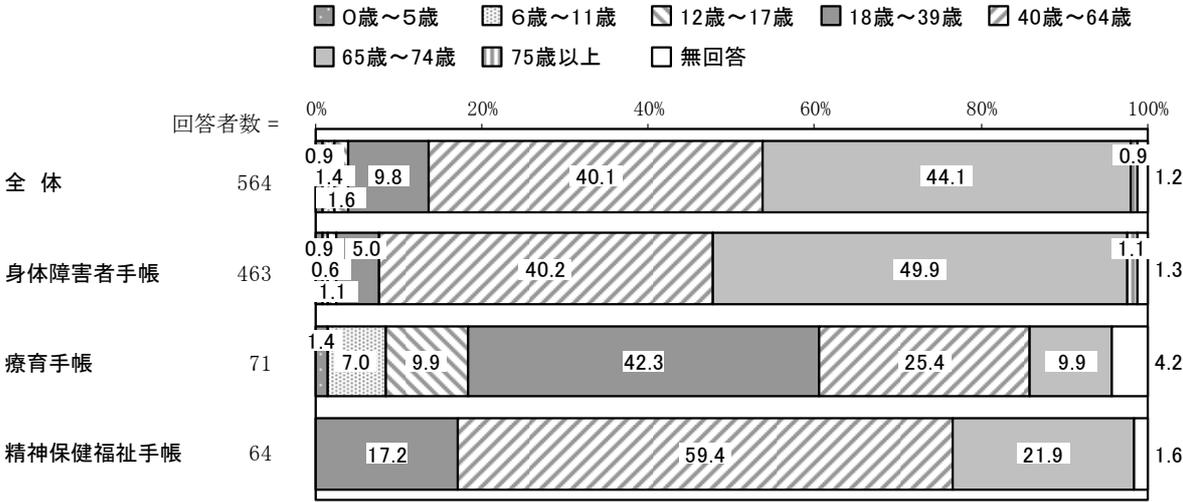
【平成28年度調査との比較】

平成28年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問3 あなた（障がい者ご本人）の年齢は、何歳ですか。年齢を記入してください。※令和2年4月1日現在の年齢でお答えください。

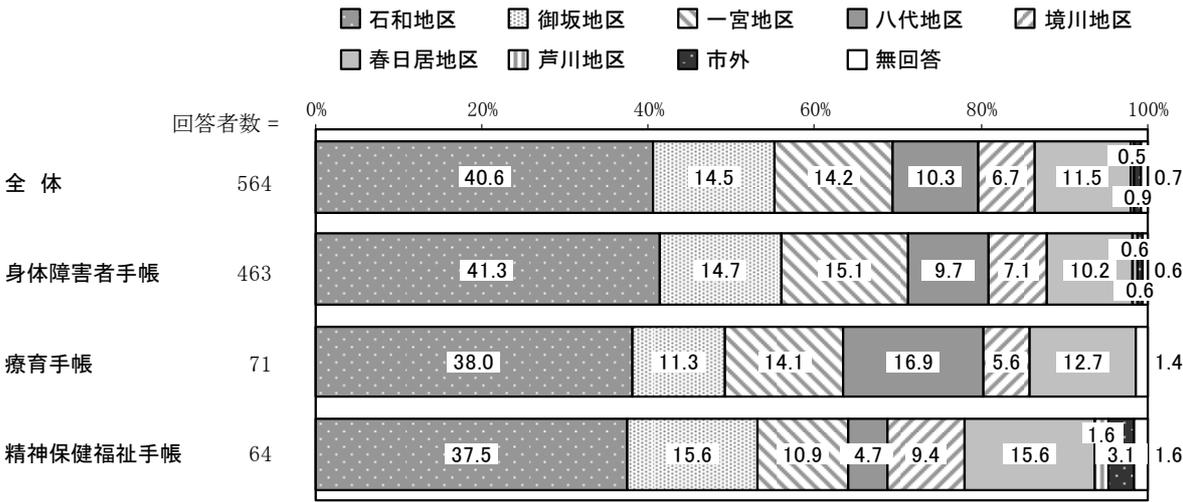
「65歳～74歳」の割合が44.1%と最も高く、次いで「40歳～64歳」の割合が40.1%となっています。所持手帳別でみると、他に比べ、身体障害者手帳で「18歳～39歳」の割合が、精神保健福祉手帳で「75歳以上」の割合が高くなっています。



問4 あなた（障がい者ご本人）がお住まいの地区は どちらですか。（○は1つだけ）

「石和地区」の割合が40.6%と最も高く、次いで「御坂地区」の割合が14.5%、「一宮地区」の割合が14.2%となっています。

所持手帳別でみると、他に比べ、身体障害者手帳で「石和地区」の割合が高くなっています。

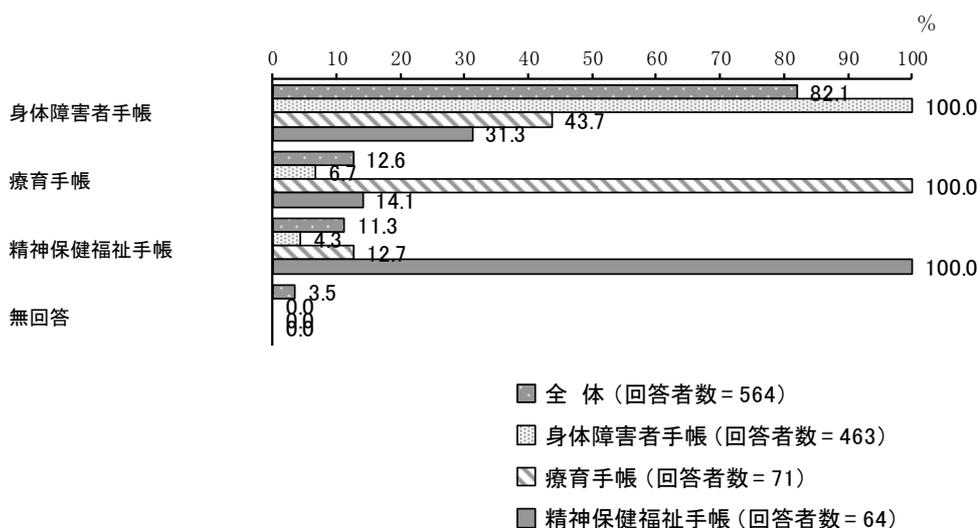


2 心身の状況について

問5 あなた（障がい者ご本人）がお持ちの障害者手帳はどれですか。手帳の等級もお答えください。身体障害者手帳の場合は、手帳に書いてある障がい名もお答えください。（〇はいくつでも）

「身体障害者手帳」の割合が82.1%と最も高く、次いで「療育手帳」の割合が12.6%、「精神保健福祉手帳」の割合が11.3%となっています。

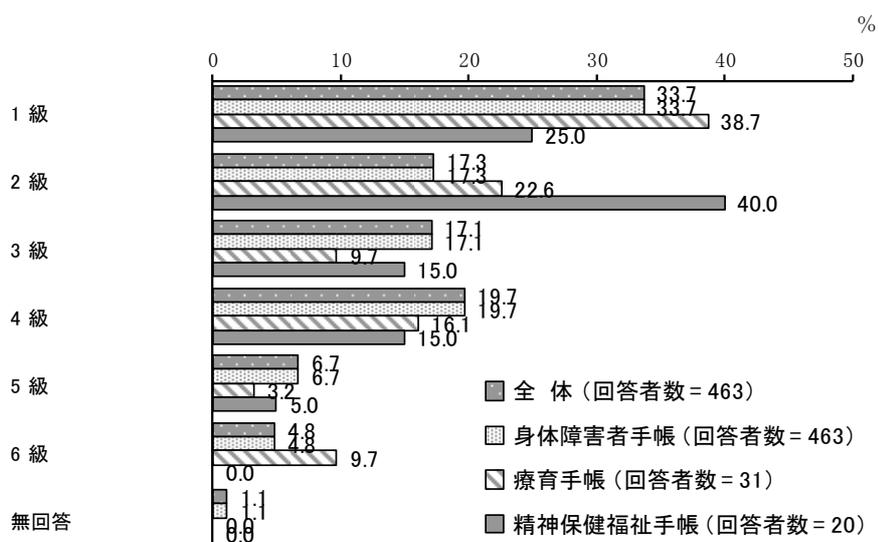
所持手帳別でみると、他に比べ、療育手帳で「身体障害者手帳」の割合が高くなっています。



身体障害者手帳 等級

「1級」の割合が33.7%と最も高く、次いで「4級」の割合が19.7%、「2級」の割合が17.3%となっています。

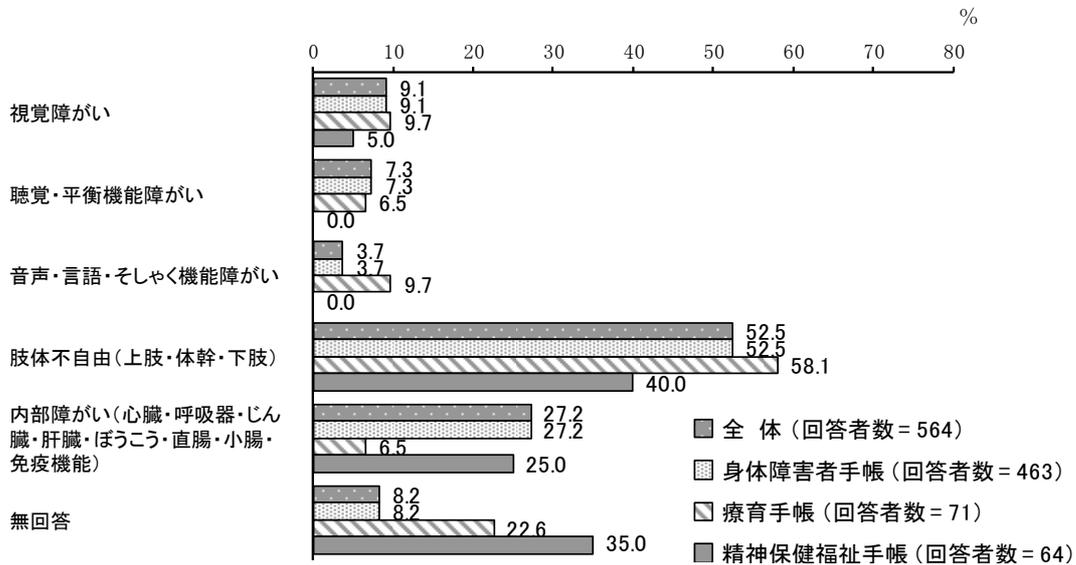
所持手帳別でみると、他に比べ、精神保健福祉手帳で「2級」の割合が、養育手帳で「1級」の割合が高くなっています。



身体障害者手帳 障がい

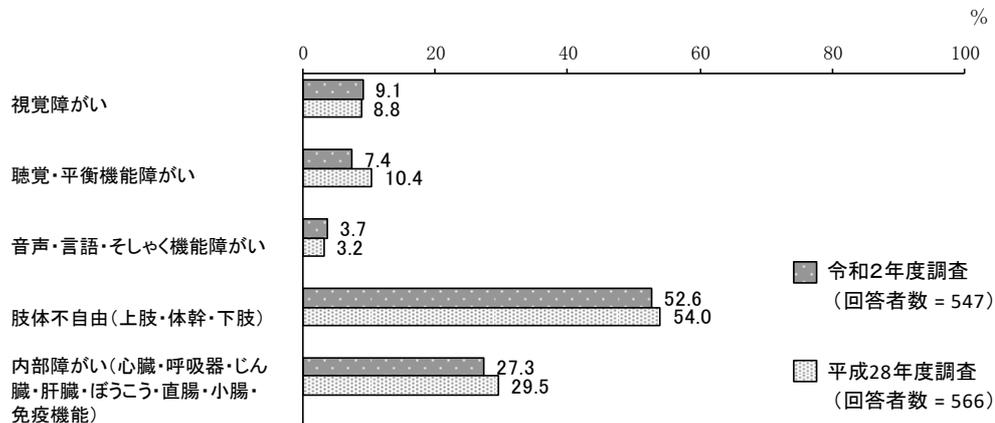
「肢体不自由（上肢・体幹・下肢）」の割合が52.5%と最も高く、次いで「内部障がい（心臓・呼吸器・じん臓・肝臓・ぼうこう・直腸・小腸・免疫機能）」の割合が27.2%となっています。

所持手帳別でみると、他に比べ、療育手帳で「肢体不自由（上肢・体幹・下肢）」の割合が高くなっています。



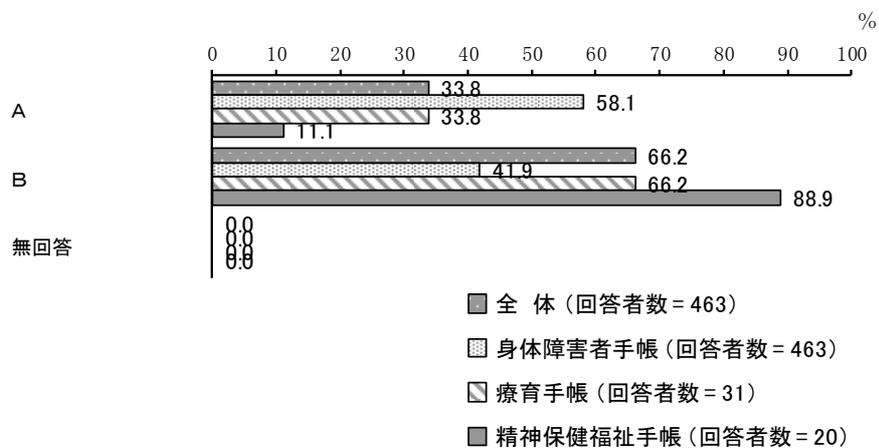
【平成 28 年度調査との比較】

平成 28 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



療育手帳 等級

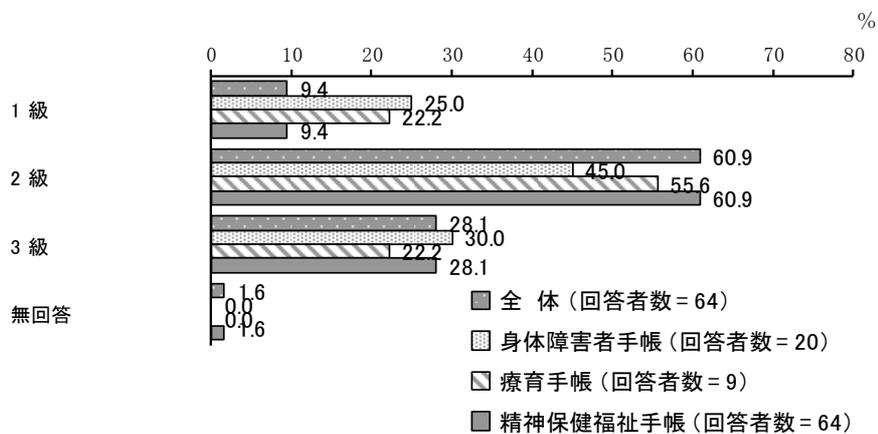
「A」の割合が33.8%、「B」の割合が66.2%となっています。
所持手帳別でみると、他に比べ、精神保健福祉手帳で「B」の割合が高くなっています。



精神保健福祉手帳 等級

「あてはまるものはない」の割合が49.5%と最も高く、次いで「介護保険のサービスを利用している」の割合が14.9%、「自立支援医療制度（精神通院）を利用している」の割合が11.2%となっています。

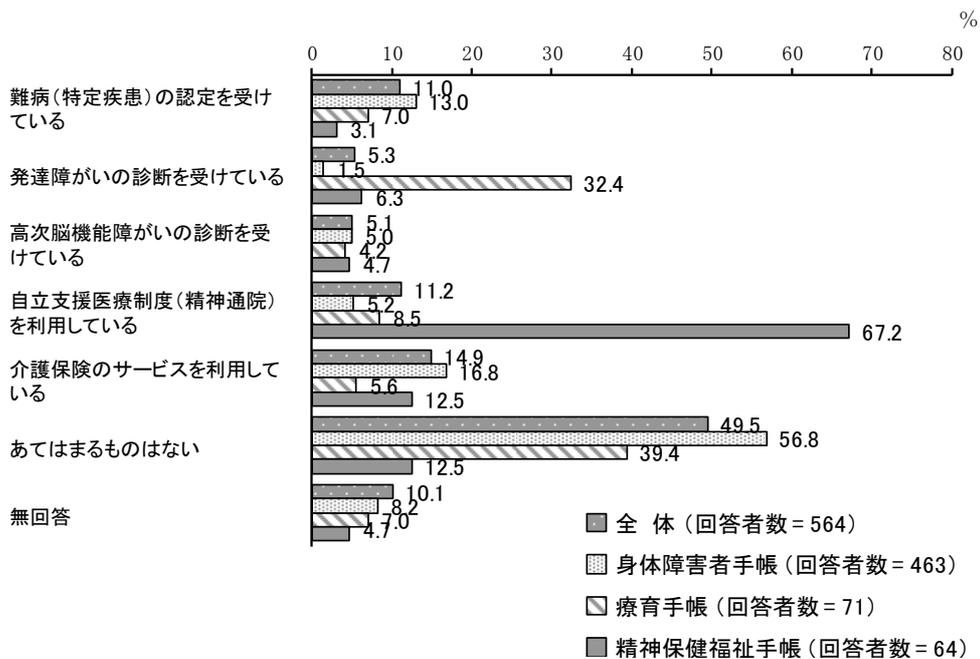
所持手帳別でみると、他に比べ、精神保健福祉手帳で「2級」の割合が高くなっています。



問6 あなた（障がい者ご本人）は、次のどれかにあてはまりますか。（〇はいくつでも）

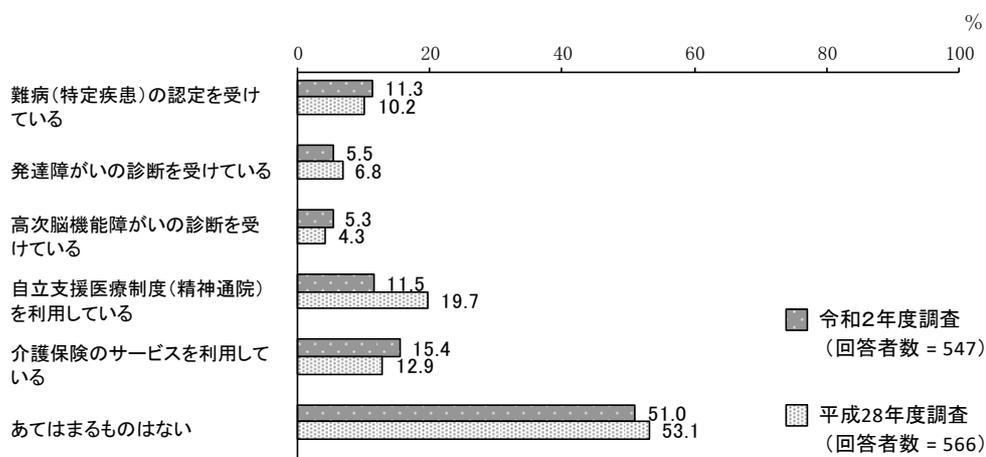
「あてはまるものはない」の割合が49.5%と最も高く、次いで「介護保険のサービスを利用している」の割合が14.9%、「自立支援医療制度（精神通院）を利用している」の割合が11.2%となっています。

所持手帳別でみると、他に比べ、精神保健福祉手帳で「自立支援医療制度（精神通院）を利用している」の割合が高くなっています。



【平成28年度調査との比較】

平成28年度調査と比較すると、「自立支援医療制度（精神通院）を利用している」の割合が減少しています。

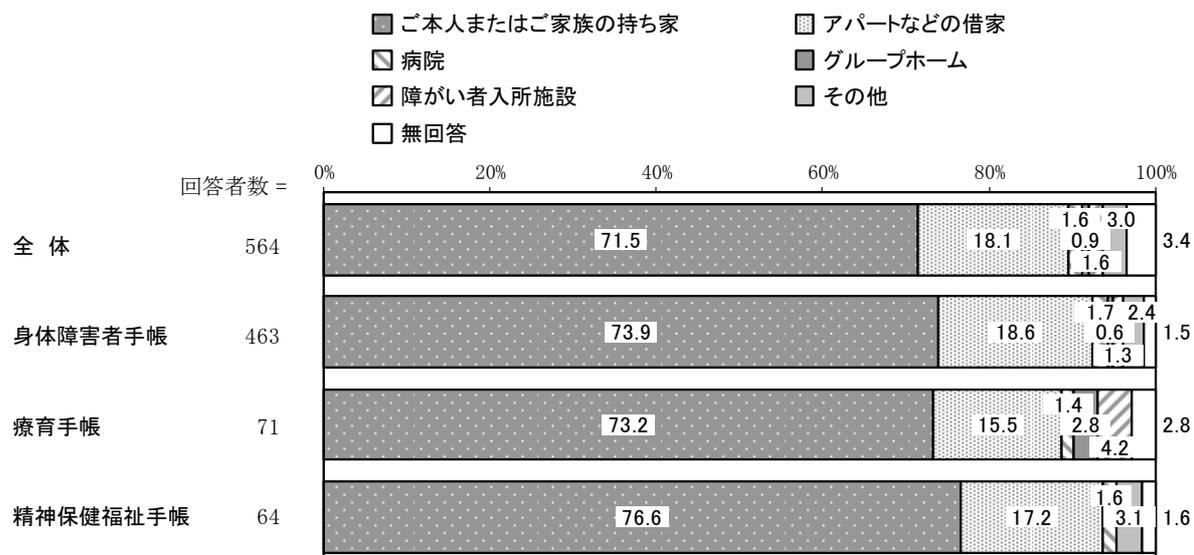


3 生活や介助のことについて

問7 あなた（障がい者ご本人）の現在のお住まい（生活の場）はどちらですか。（〇は1つだけ）

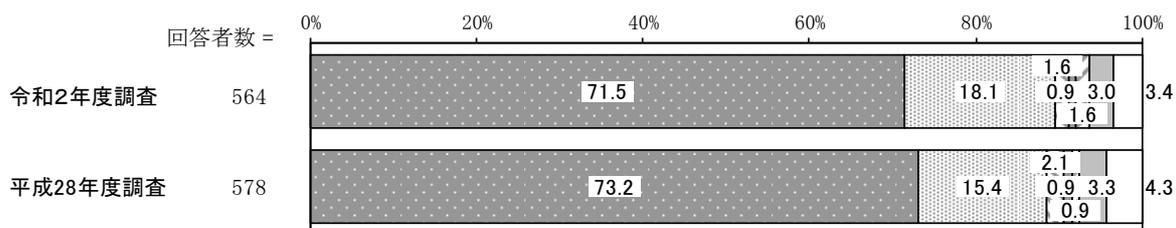
「ご本人またはご家族の持ち家」の割合が71.5%と最も高く、次いで「アパートなどの借家」の割合が18.1%となっています。

所持手帳別で見ると、他に比べ、精神保健福祉手帳で「ご本人またはご家族様の持ち家」の割合が高くなっています。



【平成28年度調査との比較】

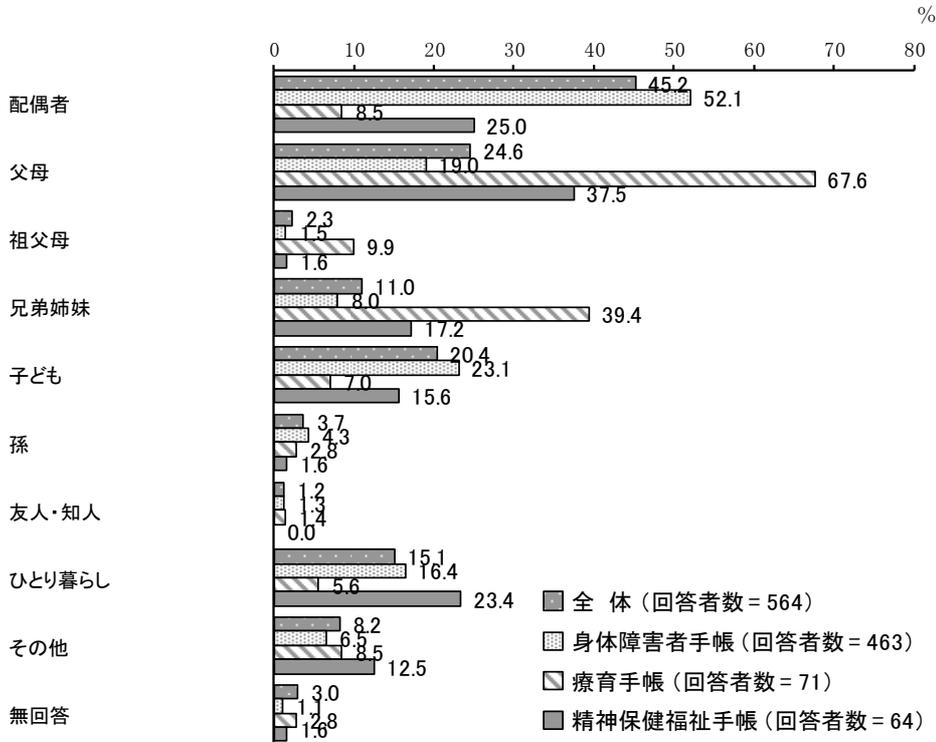
平成28年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問8 あなた（障がい者ご本人）は、どなたといっしょに暮らしていますか。（〇はいくつでも）

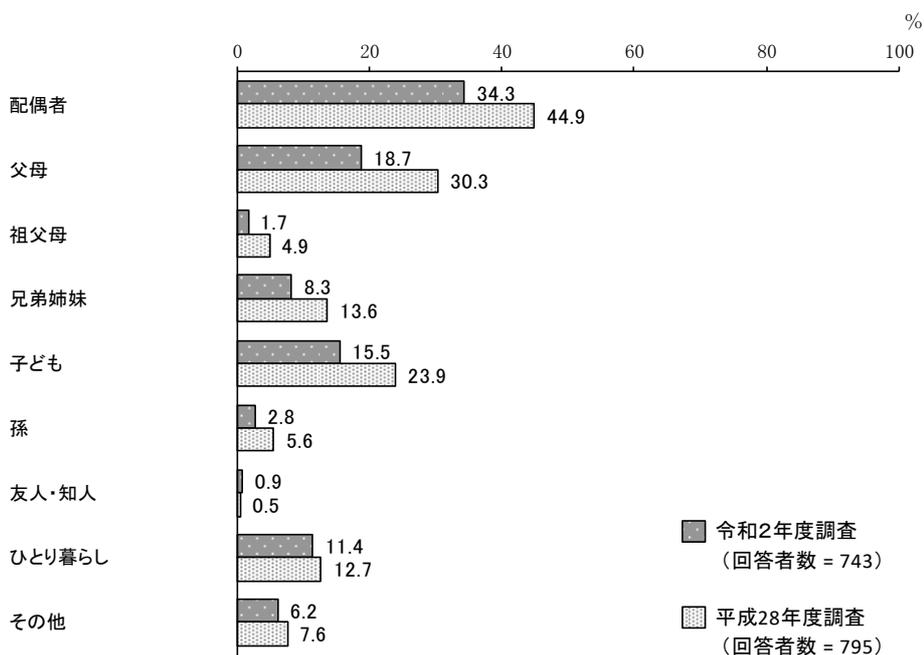
「配偶者」の割合が45.2%と最も高く、次いで「父母」の割合が24.6%、「子ども」の割合が20.4%となっています。

所持手帳別で見ると、他に比べ、療育手帳で「父母」の割合が高くなっています。



【平成28年度調査との比較】

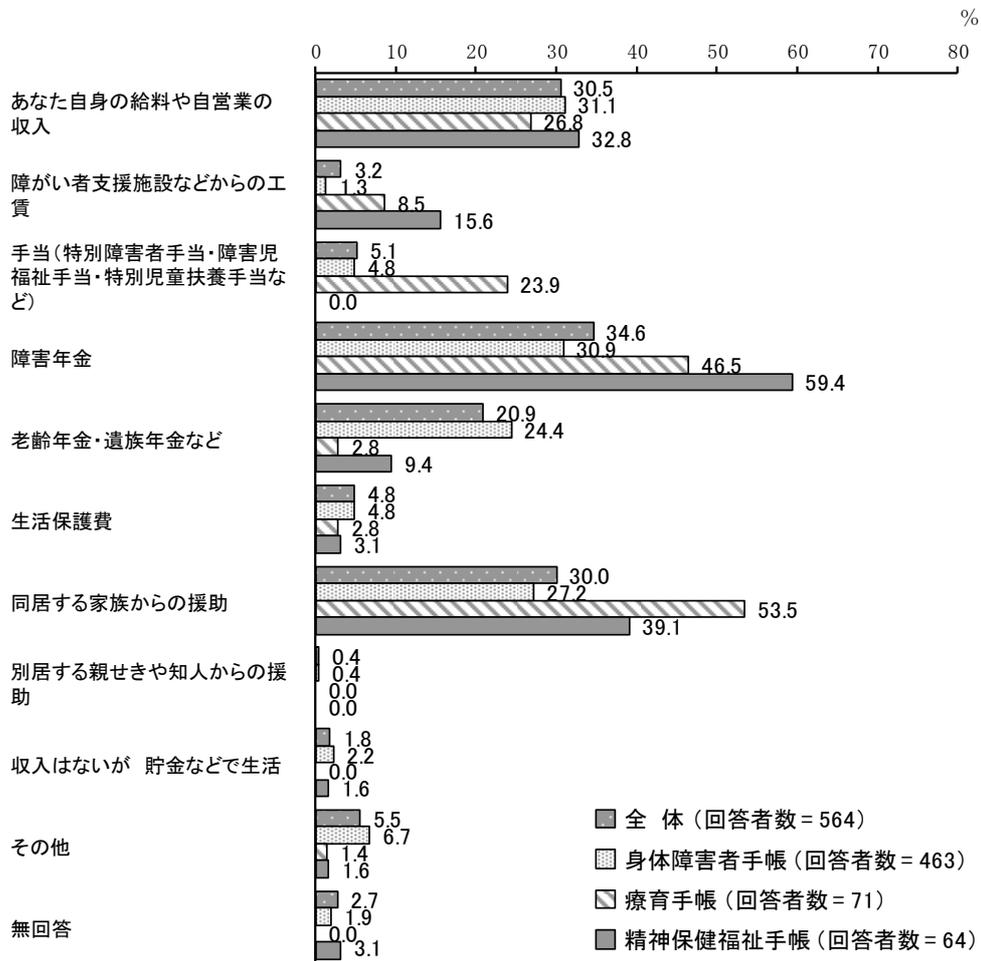
平成28年度調査と比較すると、「配偶者」「父母」「兄弟姉妹」「子ども」の割合が減少しています。



問9 あなた（障がい者ご本人）の生活を支えている収入源は何ですか。（〇はいくつでも）

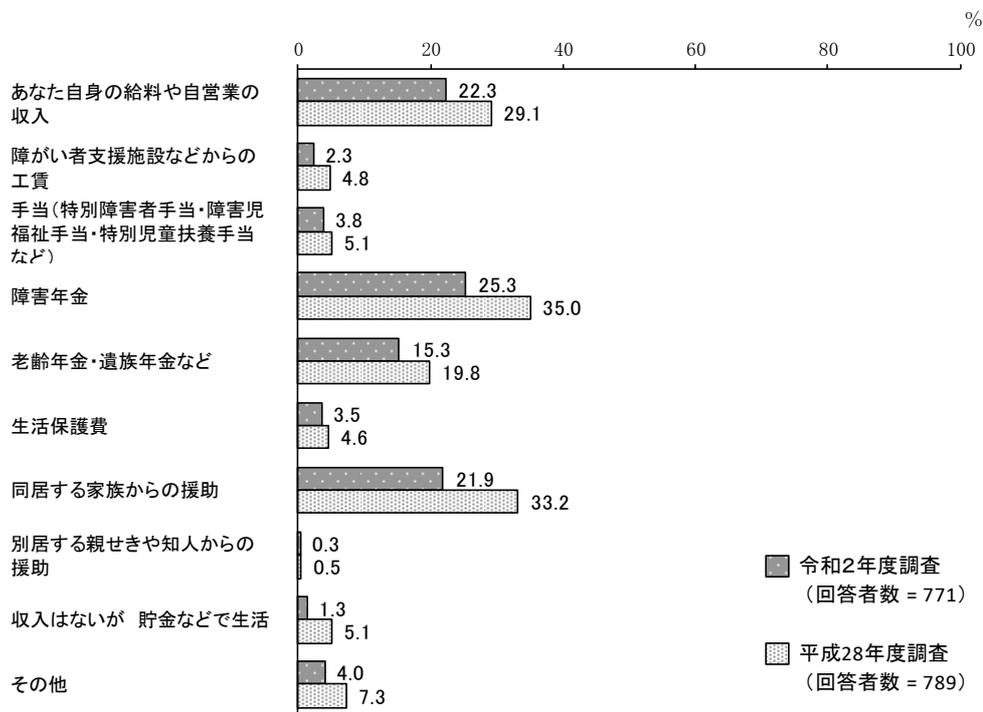
「障害年金」の割合が34.6%と最も高く、次いで「あなた自身の給料や自営業の収入」の割合が30.5%、「同居する家族からの援助」の割合が30.0%となっています。

所持手帳別で見ると、他に比べ、精神保健福祉手帳で「障害年金」の割合が高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

平成 28 年度調査と比較すると、「あなた自身の給料や自営業の収入」「障害年金」「同居する家族からの援助」の割合が減少しています。

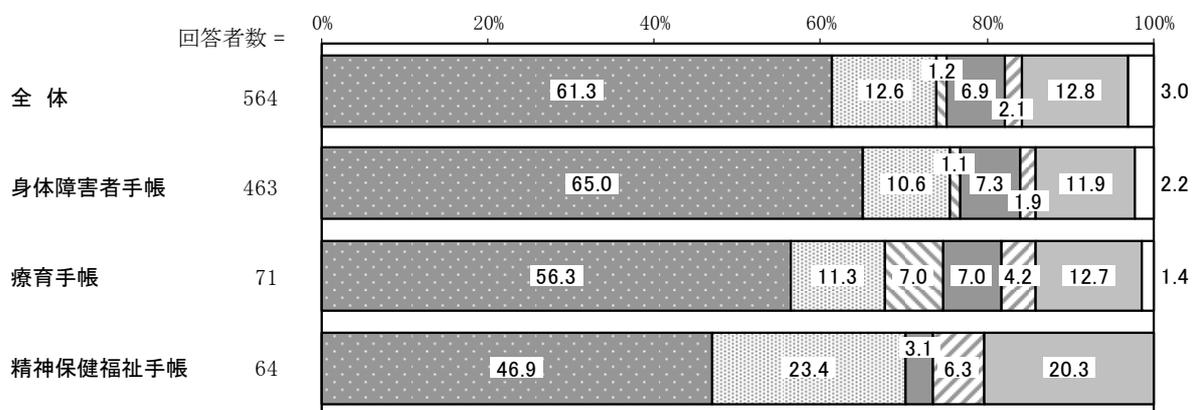


問10 あなた（障がい者ご本人）は将来、どのように暮らしたいですか。（○は1つだけ）

「自宅で家族と暮らしたい」の割合が61.3%と最も高く、次いで「わからない」の割合が12.8%、「自宅やアパートでひとりで暮らしたい」の割合が12.6%となっています。

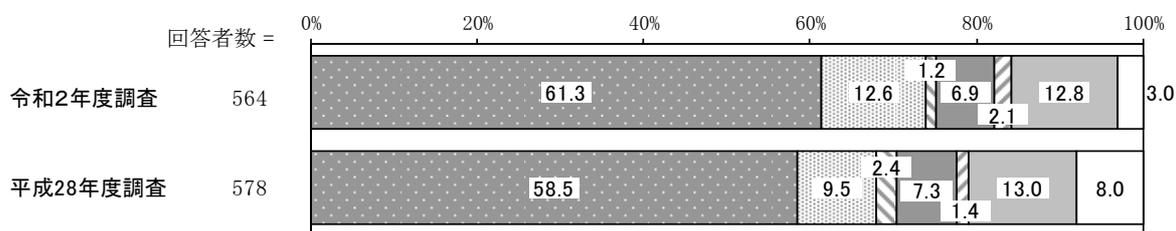
所持手帳別で見ると、他に比べ、身体障害者手帳で「自宅で家族と暮らしたい」の割合が高くなっています。

- 自宅で家族と暮らしたい
- ▨ 自宅やアパートでひとりで暮らしたい
- ▧ 友達や仲間と共同で生活したい(グループホームなど)
- 福祉施設(障がい者支援施設・高齢者支援施設など)で暮らしたい
- ▩ その他
- わからない
- 無回答



【平成28年度調査との比較】

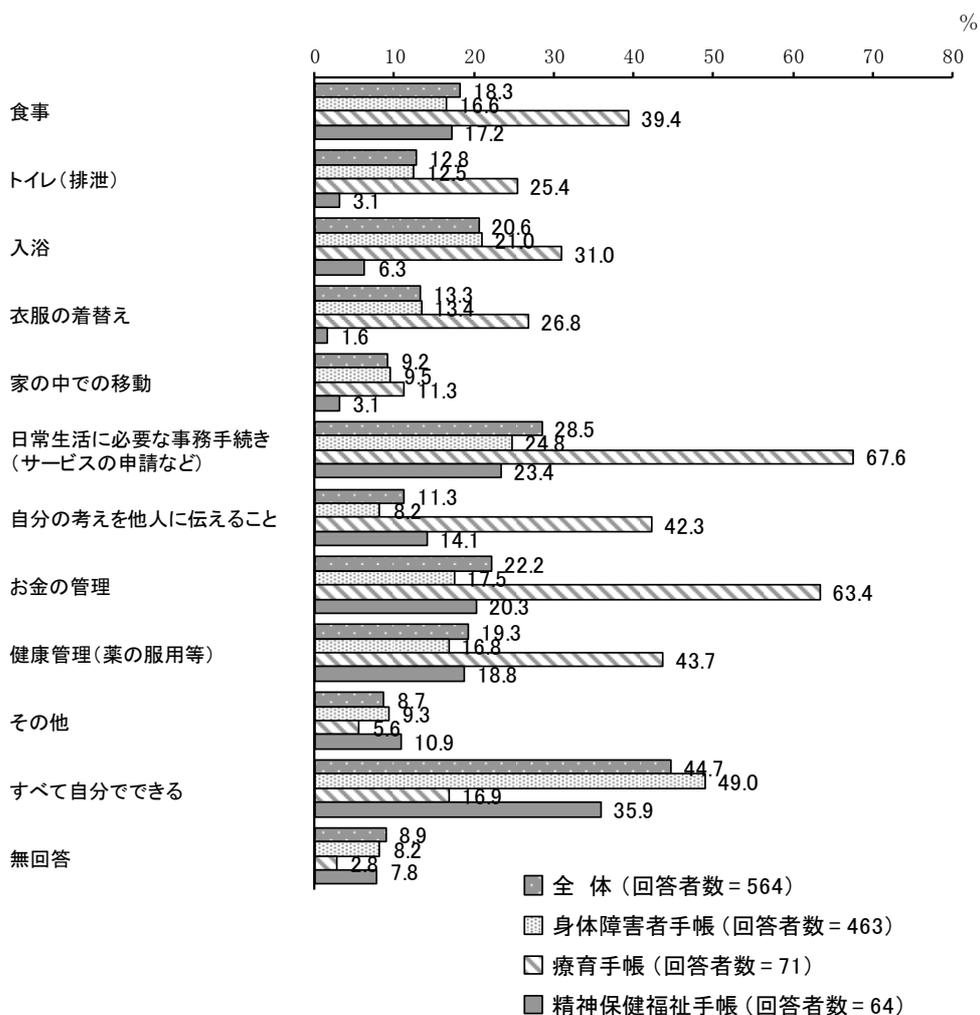
平成28年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問11 あなた（障がい者ご本人）が 次のことをするとき、何らかの介助や支援が必要ですか。少しでも介助や支援が必要なものをすべて選んでください。（〇はいくつでも）

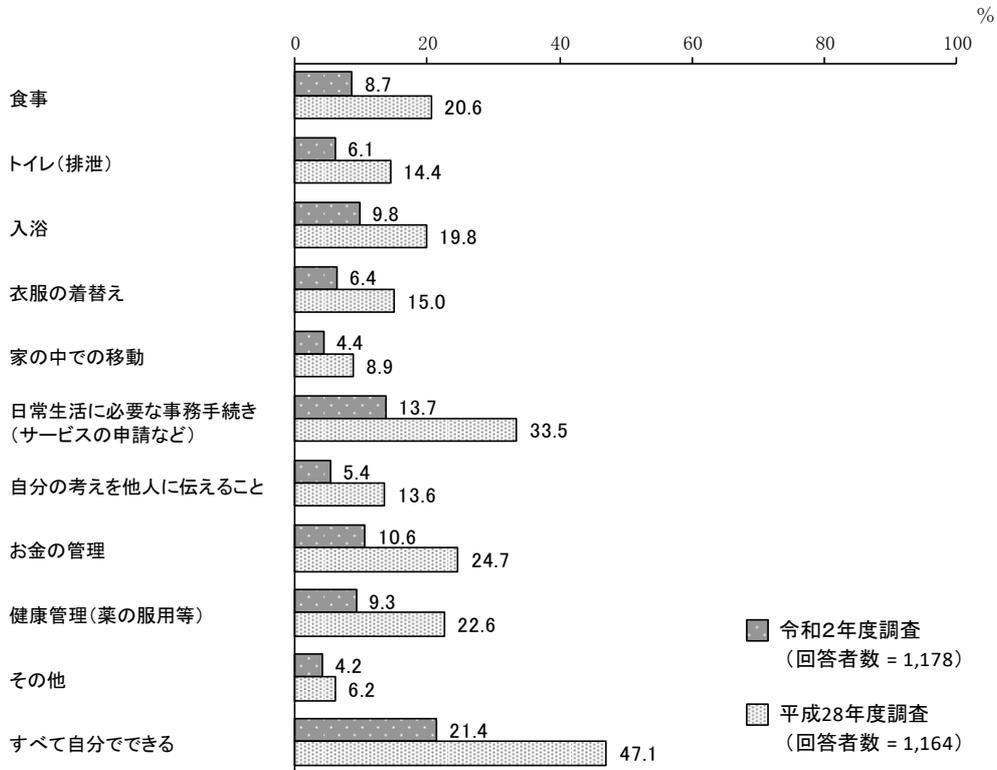
「すべて自分でできる」の割合が44.7%と最も高く、次いで「日常生活に必要な事務手続き（サービスの申請など）」の割合が28.5%、「お金の管理」の割合が22.2%となっています。

所持手帳別で見ると、他に比べ、療育手帳で「日常生活に必要な事務手続き（サービスの申請など）」の割合が高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

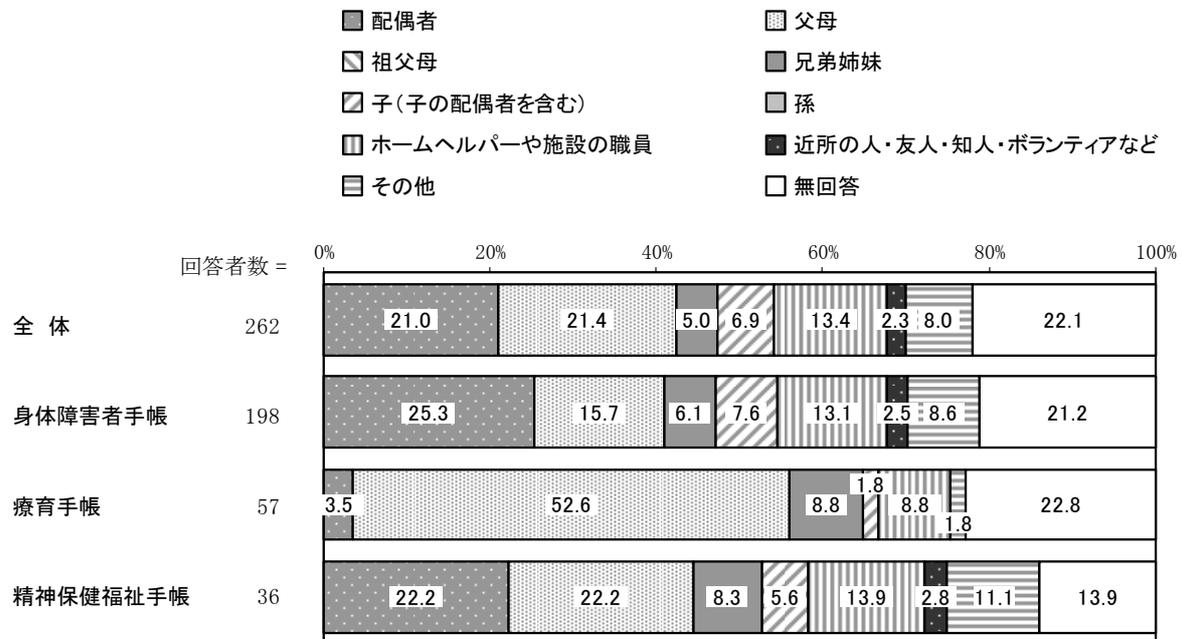
平成 28 年度調査と比較すると、「食事」「トイレ（排泄）」「入浴」「衣服の着替え」「日常生活に必要な事務手続き（サービスの申請など）」「自分の考えを他人に伝えること」「お金の管理」「健康管理（薬の服用等）」「すべて自分でできる」の割合が減少しています。



問12 (問11で 介助や支援が必要なものが ひとつでもある方にうかがいます。) あなた(障がい者ご本人)の介助や支援をしてくれる方は おもにどなたですか。(おもなもの1つに○)

「父母」の割合が21.4%と最も高く、次いで「配偶者」の割合が21.0%、「ホームヘルパーや施設の職員」の割合が13.4%となっています。

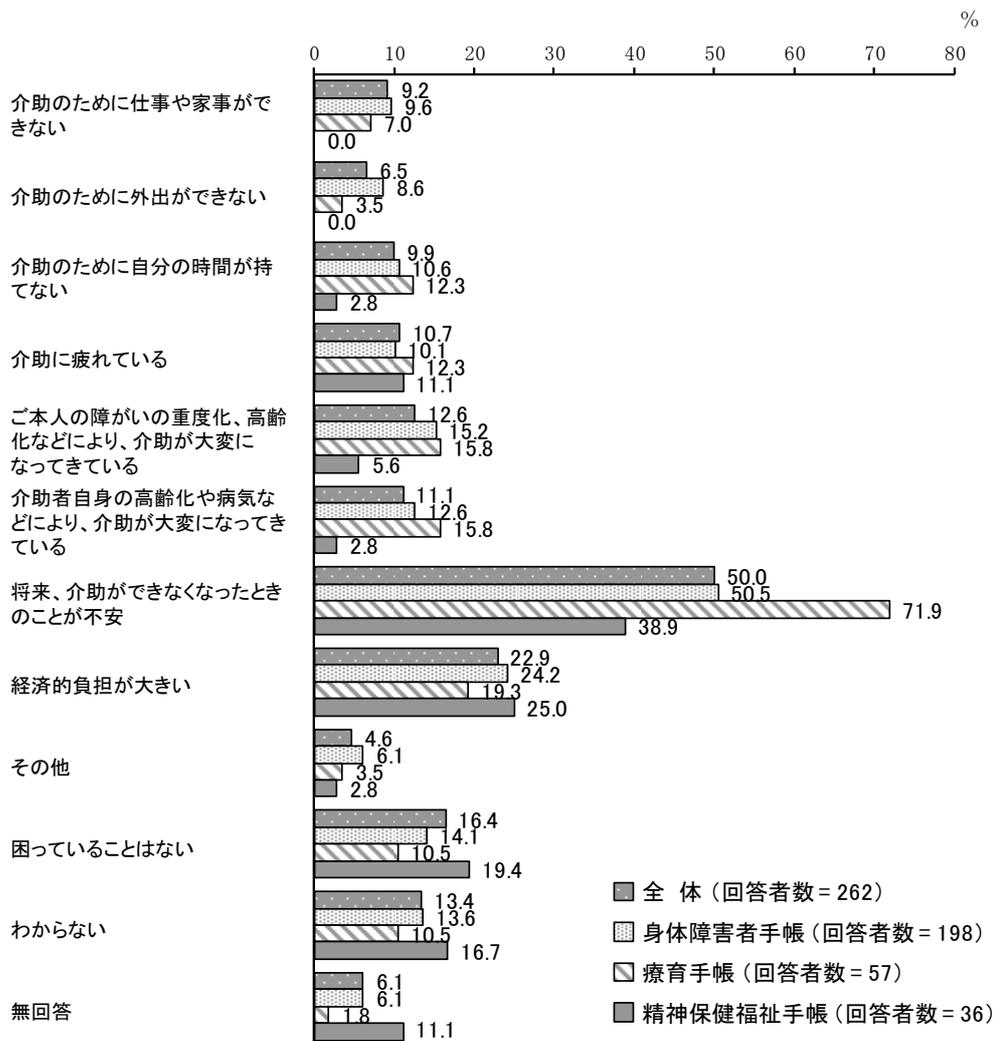
所持手帳別で見ると、他に比べ、療育手帳で「父母」の割合が高くなっています。



問13 (問11で 支援や介助が必要なものが ひとつでもある方にうかがいます。) あなた(障がい者ご本人)の介助や支援をしてくれる方が 困っていることは どのようなことですか。(〇はいくつで

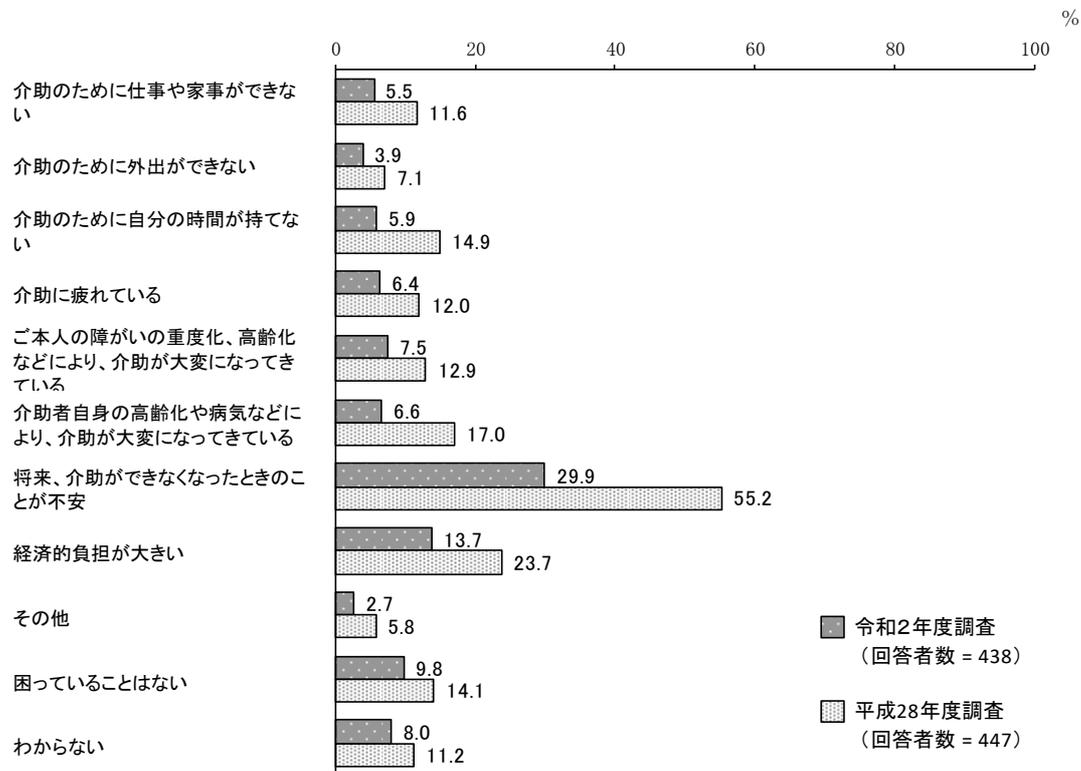
「将来、介助ができなくなったときのことが不安」の割合が50.0%と最も高く、次いで「経済的負担が大きい」の割合が22.9%、「困っていることはない」の割合が16.4%となっています。

所持手帳別で見ると、他に比べ、療育手帳で「将来、介助ができなくなったときのことが不安」の割合が高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

平成 28 年度調査と比較すると、「介助のために仕事や家事ができない」「介助のために自分の時間が持てない」「介助に疲れている」「ご本人の障がいの重度化、高齢化などにより、介助が大変になってきている」「介助者自身の高齢化や病気などにより、介助が大変になってきている」「将来、介助ができなくなったときのことが不安」「経済的負担が大きい」の割合が減少しています。

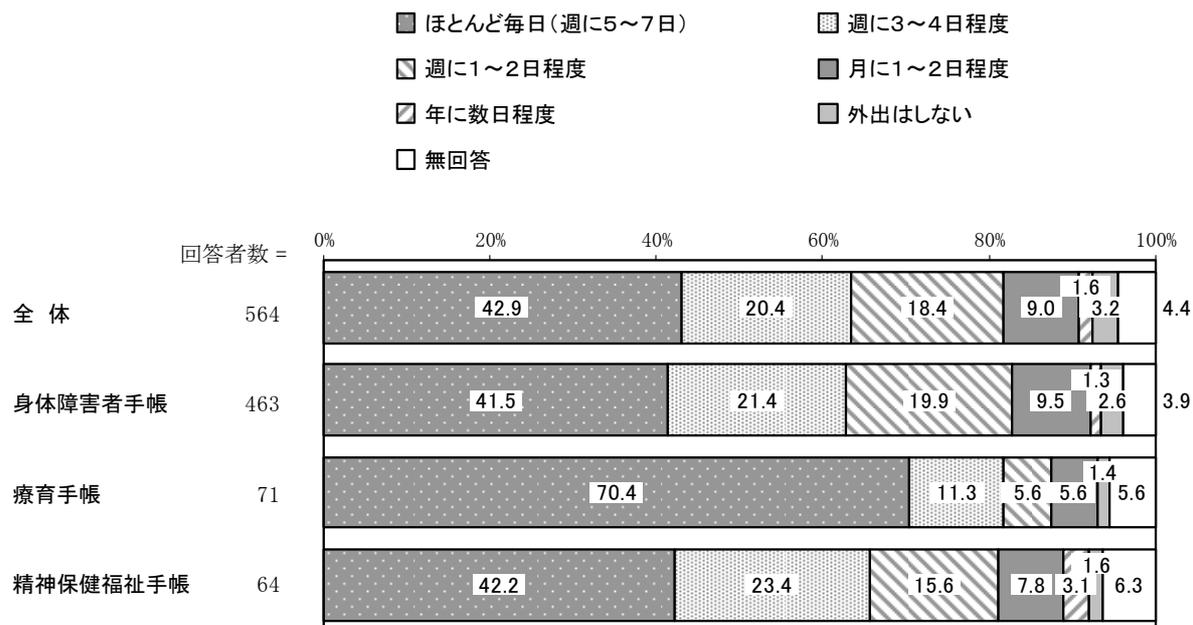


4 外出のことについて

問 14 あなた（障がい者ご本人）が外出する回数はどれぐらいですか。（通勤、通学、通院などを含みます。）（〇は1つだけ）

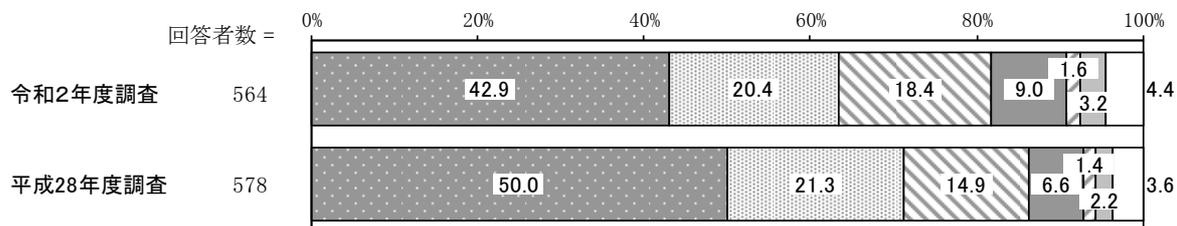
「ほとんど毎日（週に5～7日）」の割合が42.9%と最も高く、次いで「週に3～4日程度」の割合が20.4%、「週に1～2日程度」の割合が18.4%となっています。

所持手帳別で見ると、他に比べ、療育手帳で「ほとんど毎日（週に5～7日）」の割合が高くなっています。



【平成28年度調査との比較】

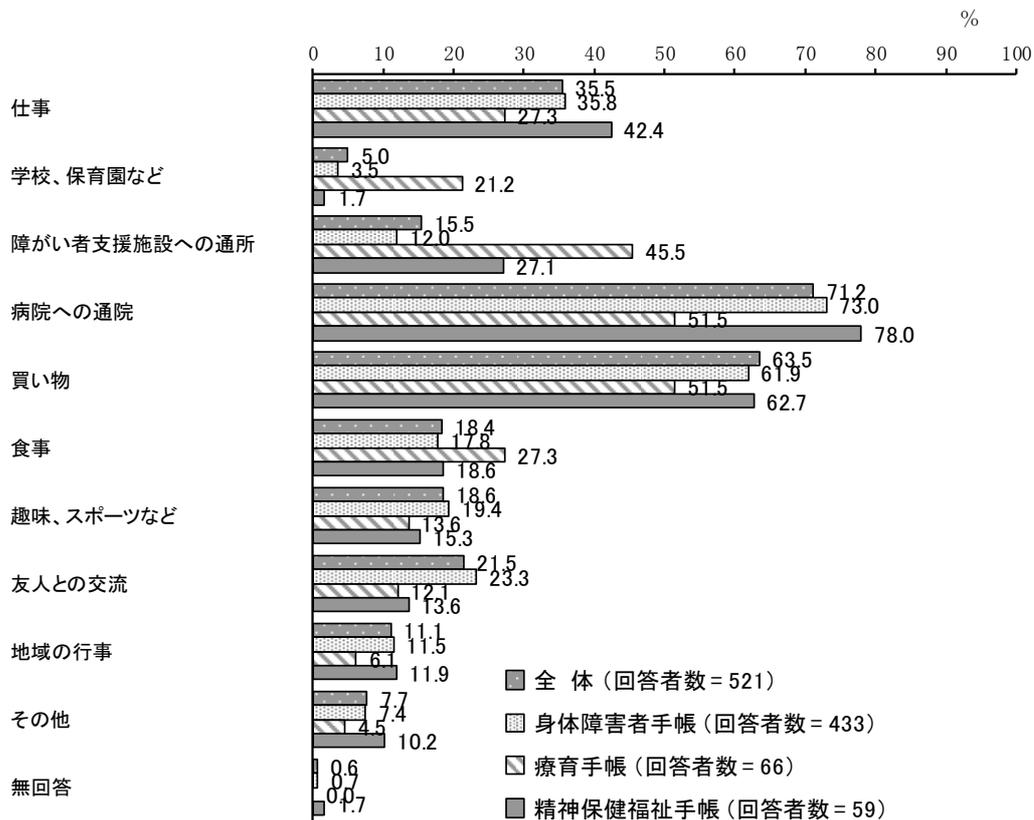
平成28年度調査と比較すると、「ほとんど毎日（週に5～7日）」の割合が減少しています。



問15 あなた（障がい者ご本人）は、どんな用事で外出しますか。（通勤、通学、通院
 などを含まず。）（〇はいくつでも）

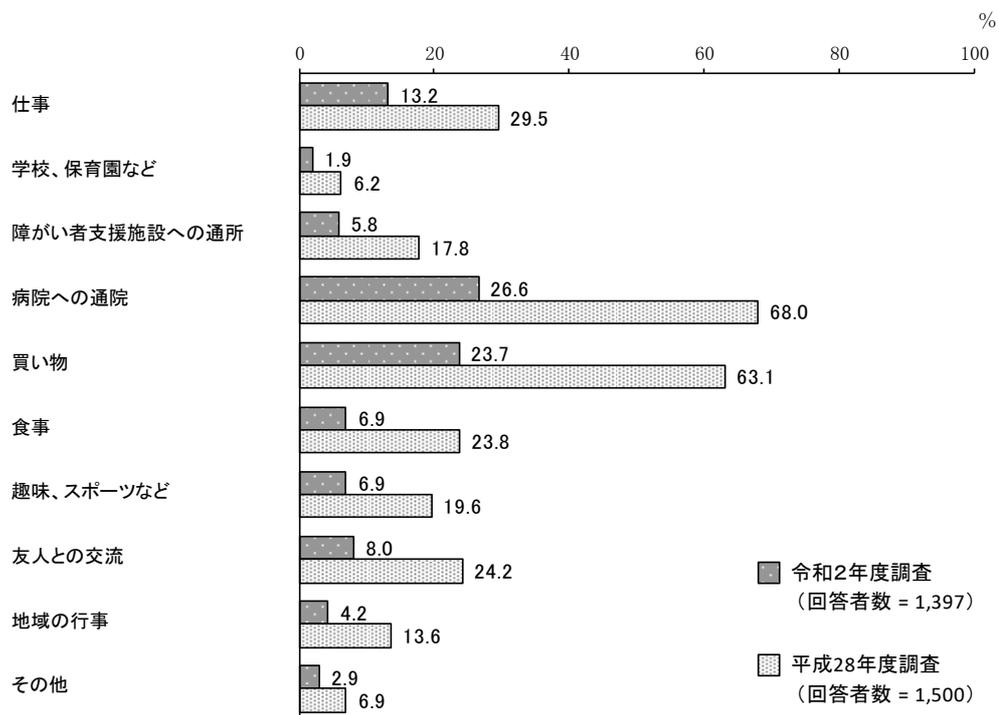
「病院への通院」の割合が71.2%と最も高く、次いで「買い物」の割合が63.5%、「仕事」の割合が35.5%となっています。

所持手帳別で見ると、他に比べ、精神保健福祉手帳で「病院への通院」の割合が高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

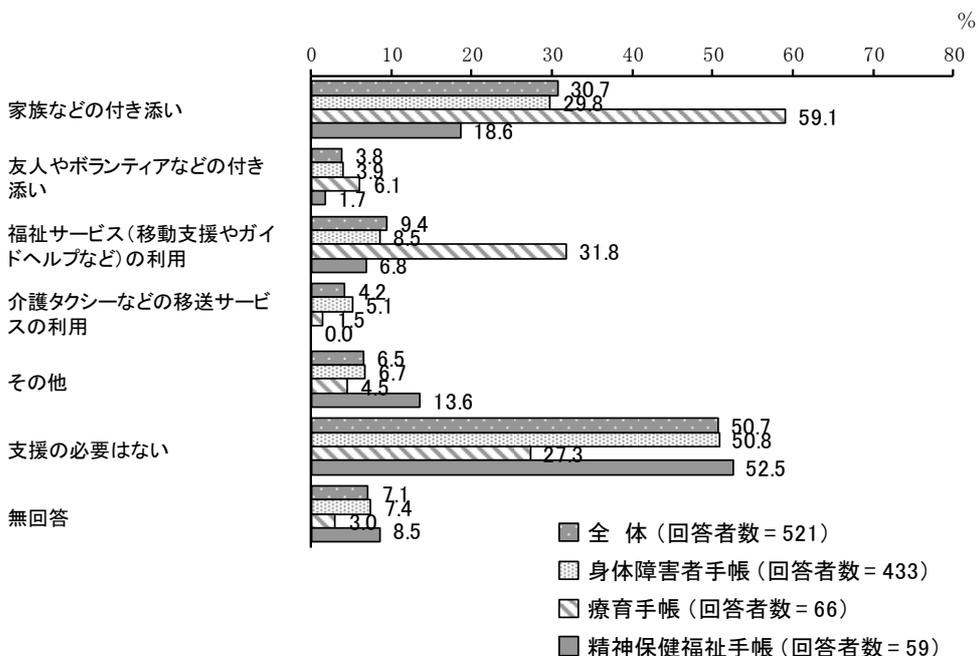
平成 28 年度調査と比較すると、「仕事」「障がい者支援施設への通所」「病院への通院」「買い物」「食事」「趣味、スポーツなど」「友人との交流」「地域の行事」の割合が減少しています。



問 16 あなた（障がい者ご本人）が外出するとき、何らかの支援を受けていますか。
（〇はいくつでも）

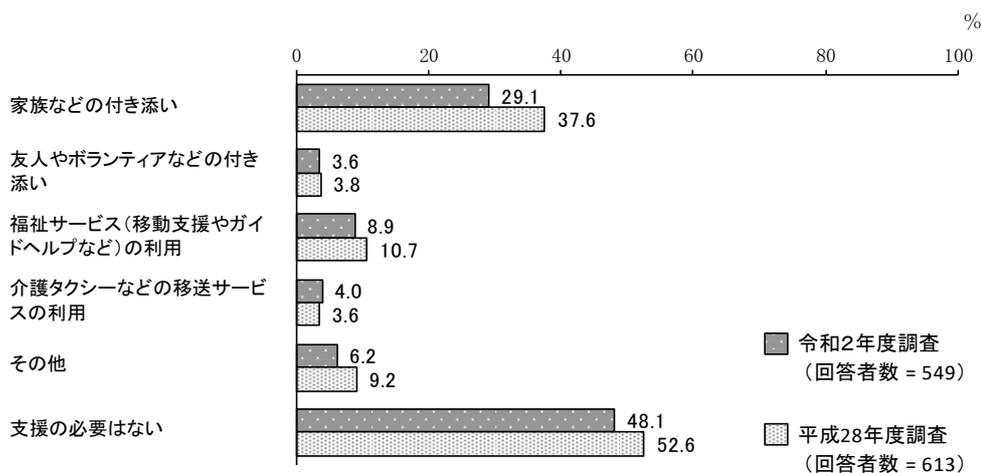
「支援の必要はない」の割合が 50.7%と最も高く、次いで「家族などの付き添い」の割合が 30.7%となっています。

所持手帳別で見ると、他に比べ、療育手帳で「家族などの付き添い」の割合が高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

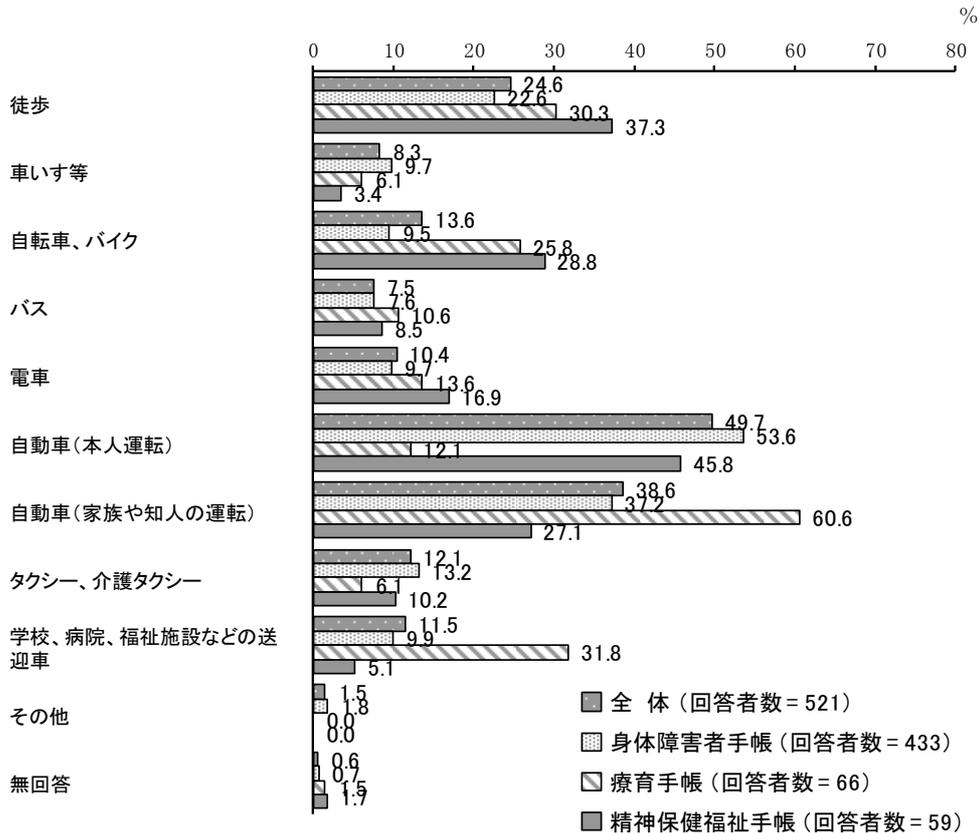
平成 28 年度調査と比較すると、「家族などの付き添い」の割合が減少しています。



問17 あなた（障がい者ご本人）が外出するときは、どのような交通手段を使いますか。（〇はいくつでも）

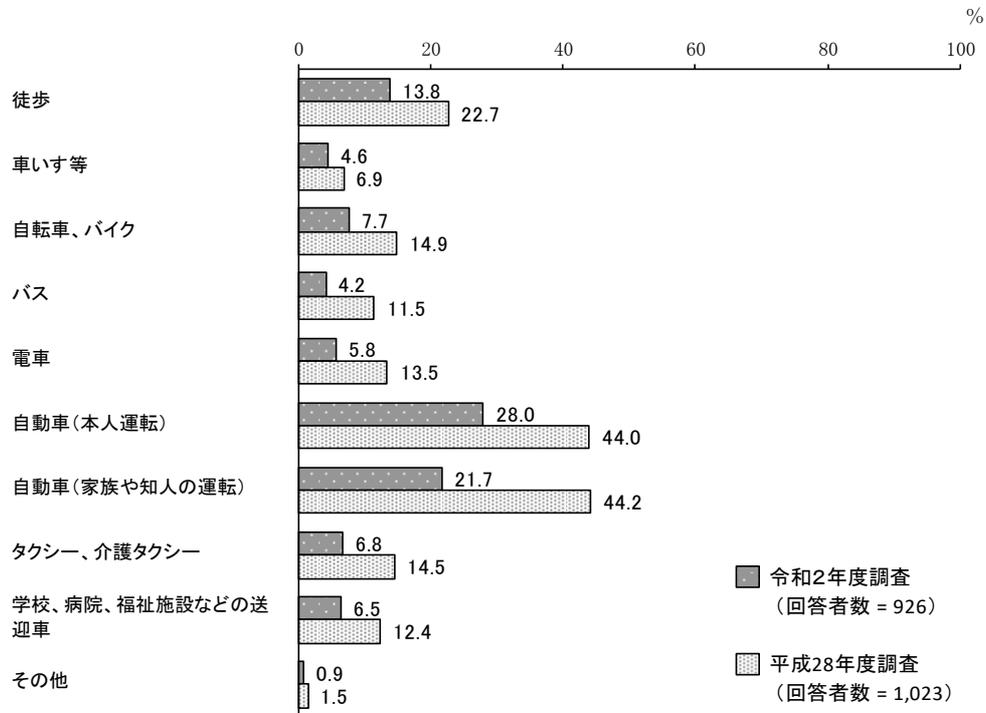
「自動車（本人運転）」の割合が49.7%と最も高く、次いで「自動車（家族や知人の運転）」の割合が38.6%、「徒歩」の割合が24.6%となっています。

所持手帳別で見ると、他に比べ、療育手帳で「自動車（家族や知人の運転）」の割合が高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

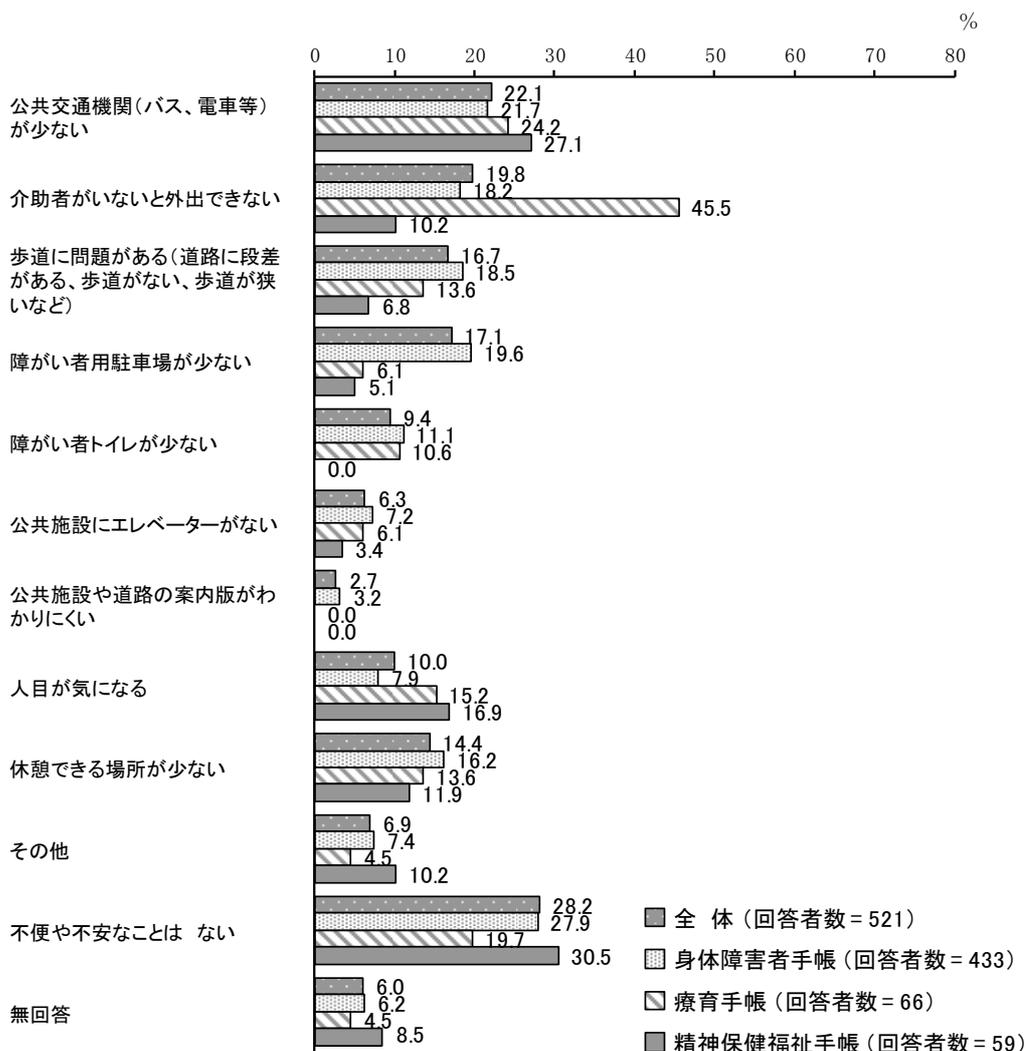
平成 28 年度調査と比較すると、「徒歩」「自転車、バイク」「バス」「電車」「自動車（本人運転）」「自動車（家族や知人の運転）」「タクシー、介護タクシー」「学校、病院、福祉施設などの送迎車」の割合が減少しています。



問18 あなた（障がい者ご本人）が外出するとき、不便や不安を感じることは何ですか。（〇はいくつでも）

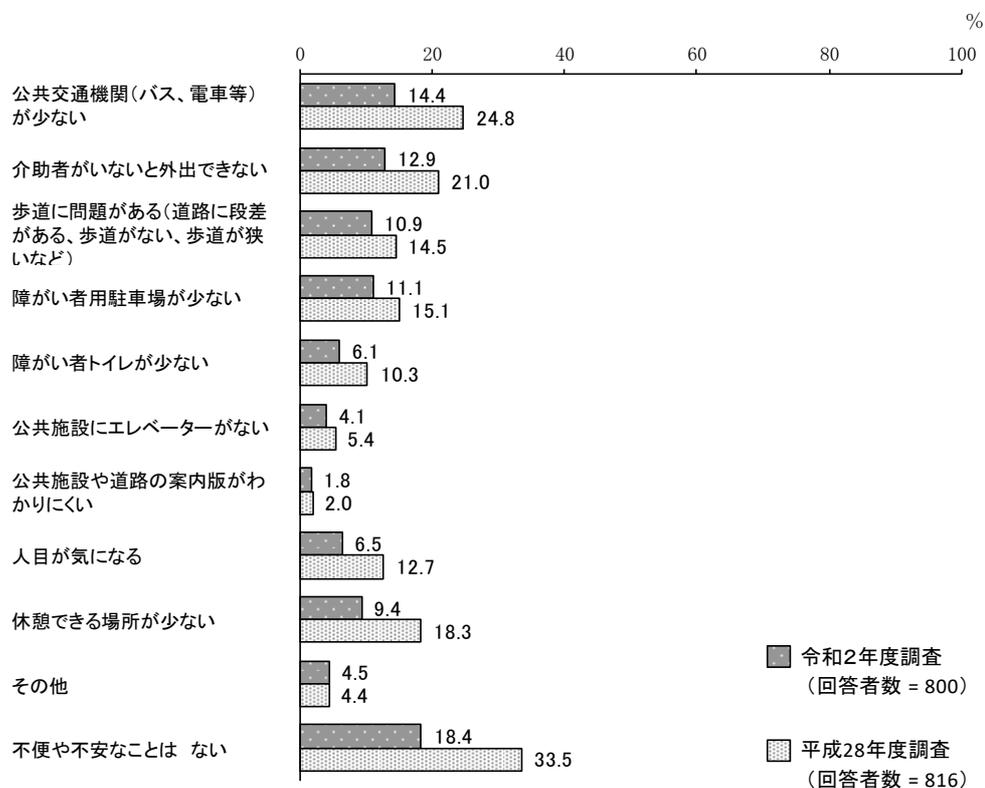
「不便や不安なことは ない」の割合が28.2%と最も高く、次いで「公共交通機関（バス、電車等）が少ない」の割合が22.1%、「介助者がいないと外出できない」の割合が19.8%となっています。

所持手帳別で見ると、他に比べ、療育手帳で「介助者がいないと外出できない」の割合が高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

平成 28 年度調査と比較すると、「公共交通機関（バス、電車等）が少ない」「介助者がいないと外出できない」「人目が気になる」「休憩できる場所が少ない」「不便や不安なことはない」の割合が減少しています。

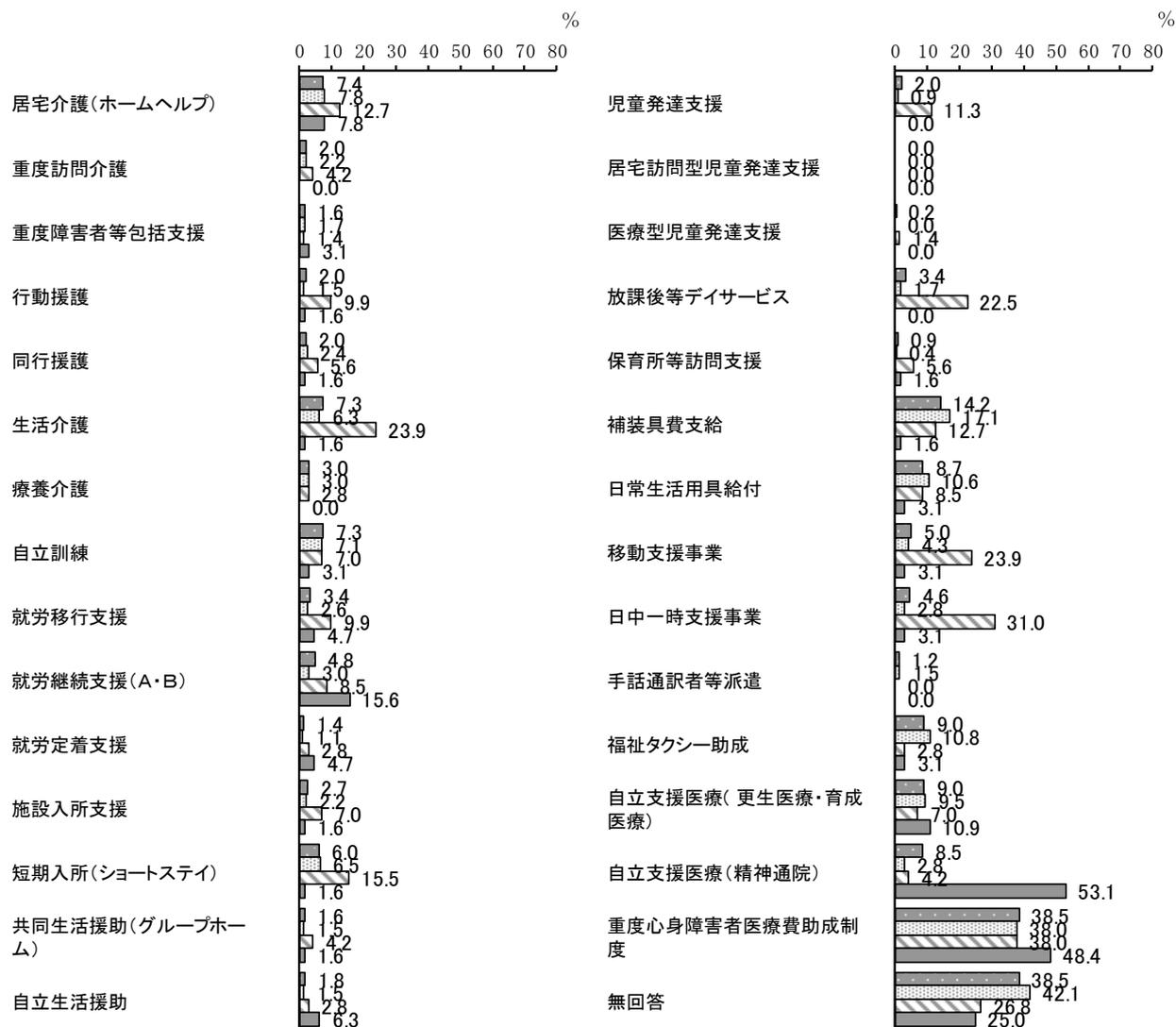


5 障害福祉サービスのことについて

問 19 ① あなた（障がい者ご本人）が利用している、または利用したことがある障害福祉サービスはどれですか。（〇はいくつでも）

「重度心身障害者医療費助成制度」の割合が 38.5%と最も高く、次いで「補装具費支給」の割合が 14.2%となっています。

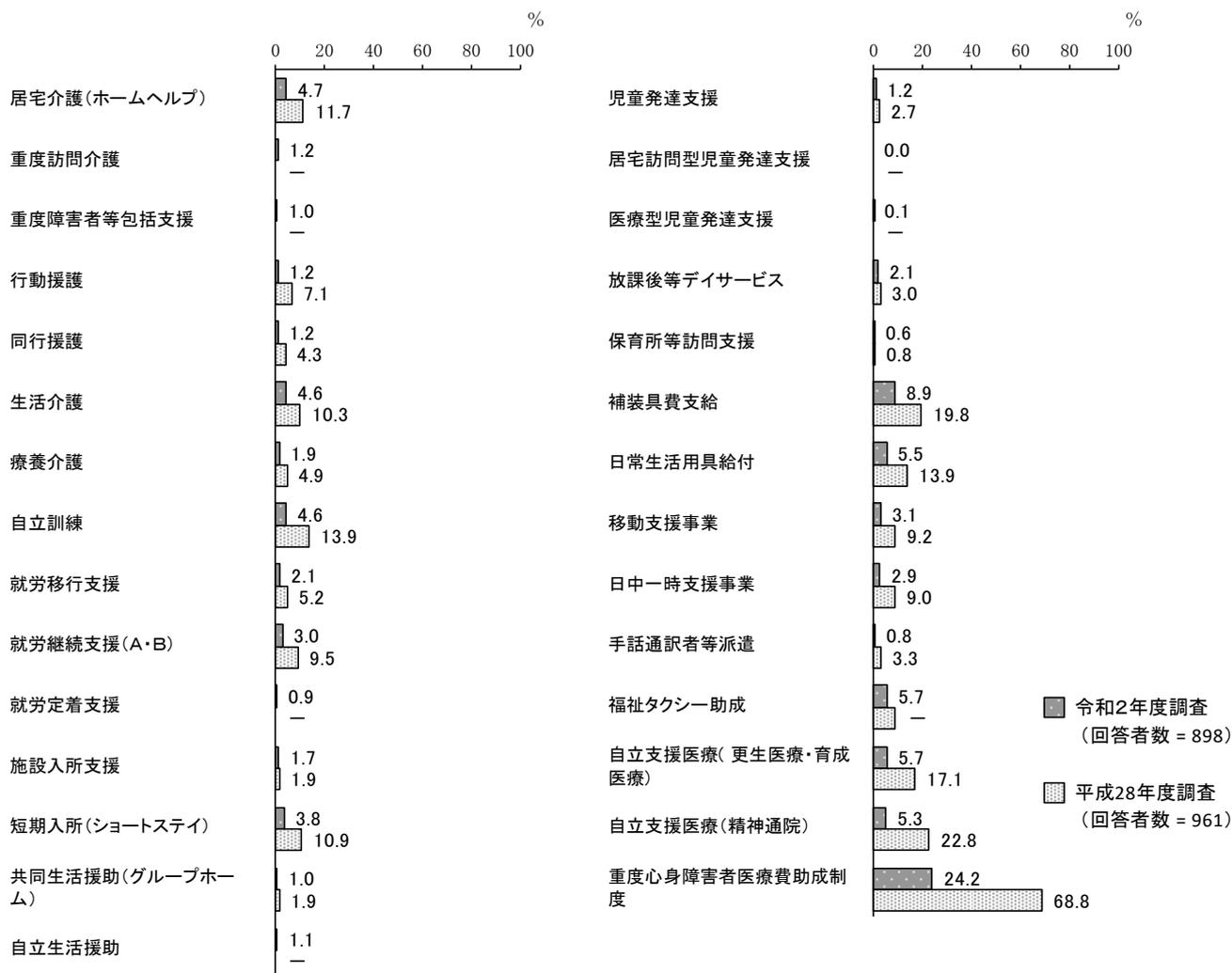
所持手帳でみると、他に比べ精神保健福祉手帳で「自立支援医療（精神通院）」の割合が高くなっています。



- 全体 (回答者数 = 564)
- ▨ 身体障害者手帳 (回答者数 = 463)
- ▧ 療育手帳 (回答者数 = 71)
- 精神保健福祉手帳 (回答者数 = 64)

【平成 28 年度調査との比較】

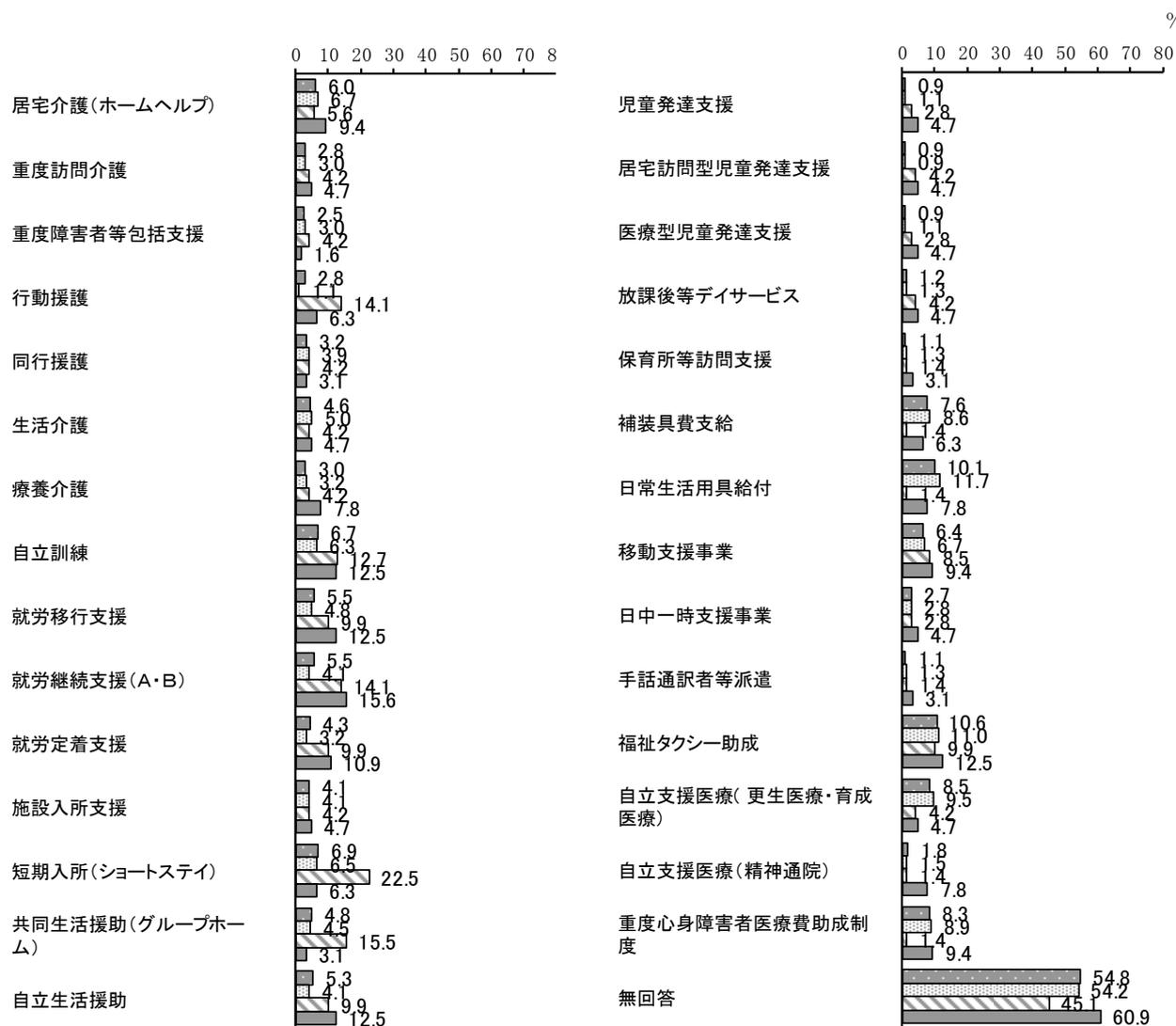
平成 28 年度調査と比較すると、「居宅介護（ホームヘルプ）」「行動援護」「生活介護」「自立訓練」「就労継続支援（A・B）」「短期入所（ショートステイ）」「補装具費支給」「日常生活用具給付」「移動支援事業」「日中一時支援事業」「自立支援医療（更生医療・育成医療）」「自立支援医療（精神通院）」「重度心身障害者医療費助成制度」の割合が減少しています。



問19 ② あなた（障がい者ご本人）が これから利用してみたいと思う障害福祉サービスはどれですか（①で答えたものを除きます。）（〇はいくつでも）

「福祉タクシー助成」の割合が10.6%と最も高く、次いで「日常生活用具給付」の割合が10.1%となっています。

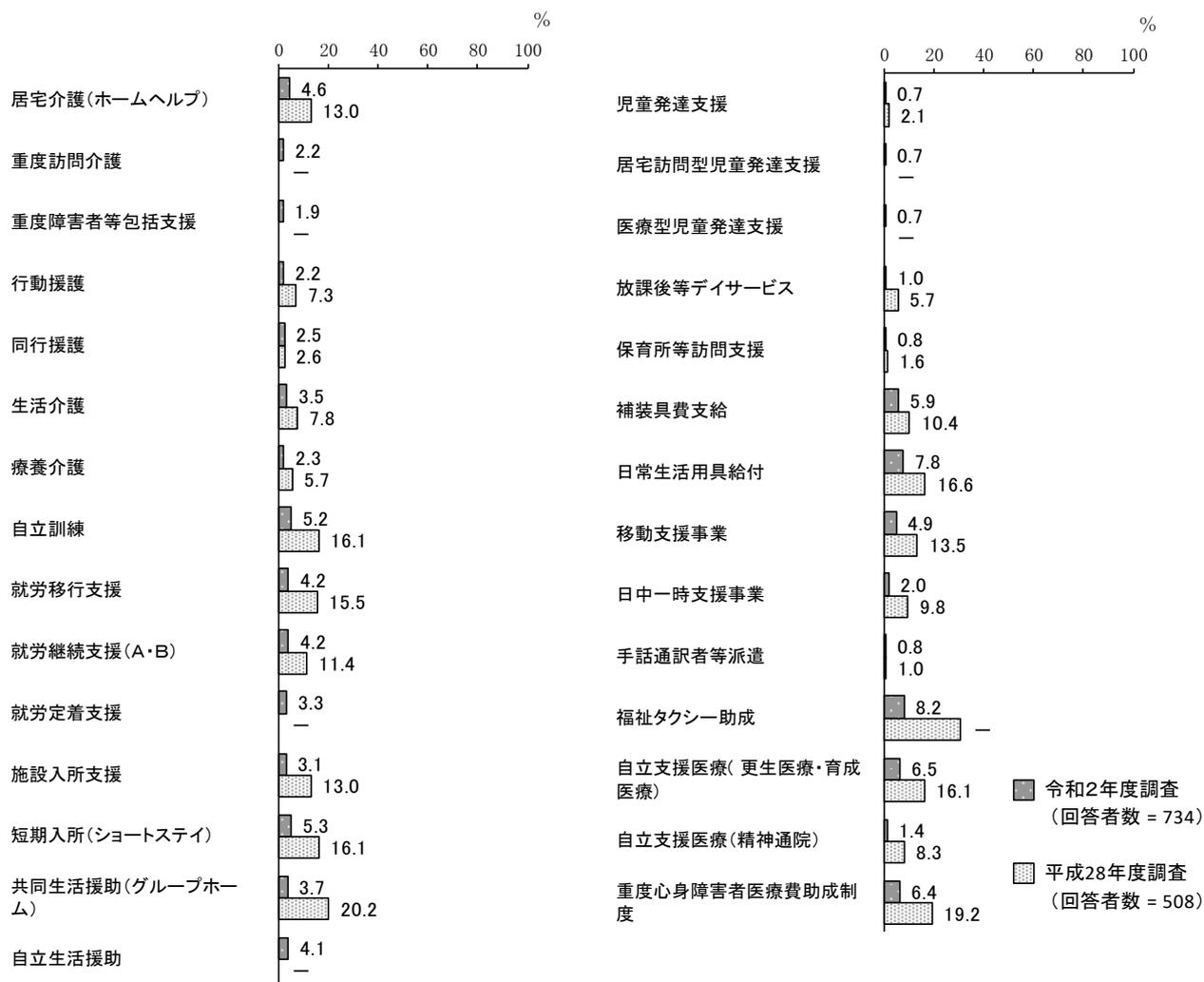
所持手帳別で見ると、他に比べ、療育手帳で「短期入所（ショートステイ）」の割合が高くなっています。



■ 全体 (回答者数 = 564)
 ■ 身体障害者手帳 (回答者数 = 463)
 ■ 療育手帳 (回答者数 = 71)
 ■ 精神保健福祉手帳 (回答者数 = 64)

【平成 28 年度調査との比較】

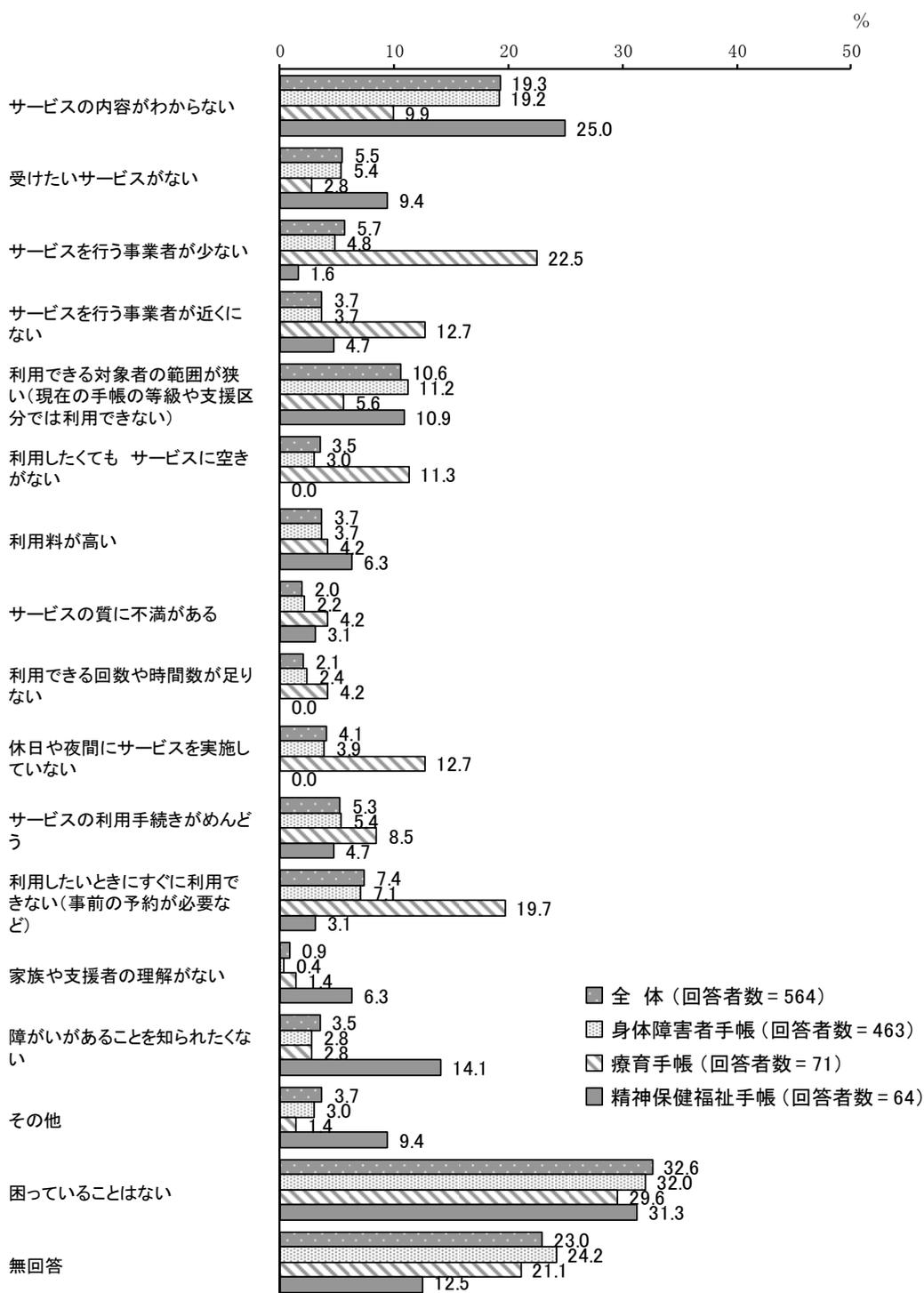
平成 28 年度調査と比較すると、「居宅介護（ホームヘルプ）」「行動援護」「自立訓練」「就労移行支援」「就労継続支援（A・B）」「施設入所支援」「短期入所（ショートステイ）」「共同生活援助（グループホーム）」「日常生活用具給付」「移動支援事業」「日中一時支援事業」「福祉タクシー助成」「自立支援医療（更生医療・育成医療）」「自立支援医療（精神通院）」「重度心身障害者医療費助成制度」の割合が減少しています。



問 20 あなた（障がい者ご本人）が 障害福祉サービスを利用するのに困っていることや、利用したくても利用できない理由は何ですか。（〇はいくつでも）

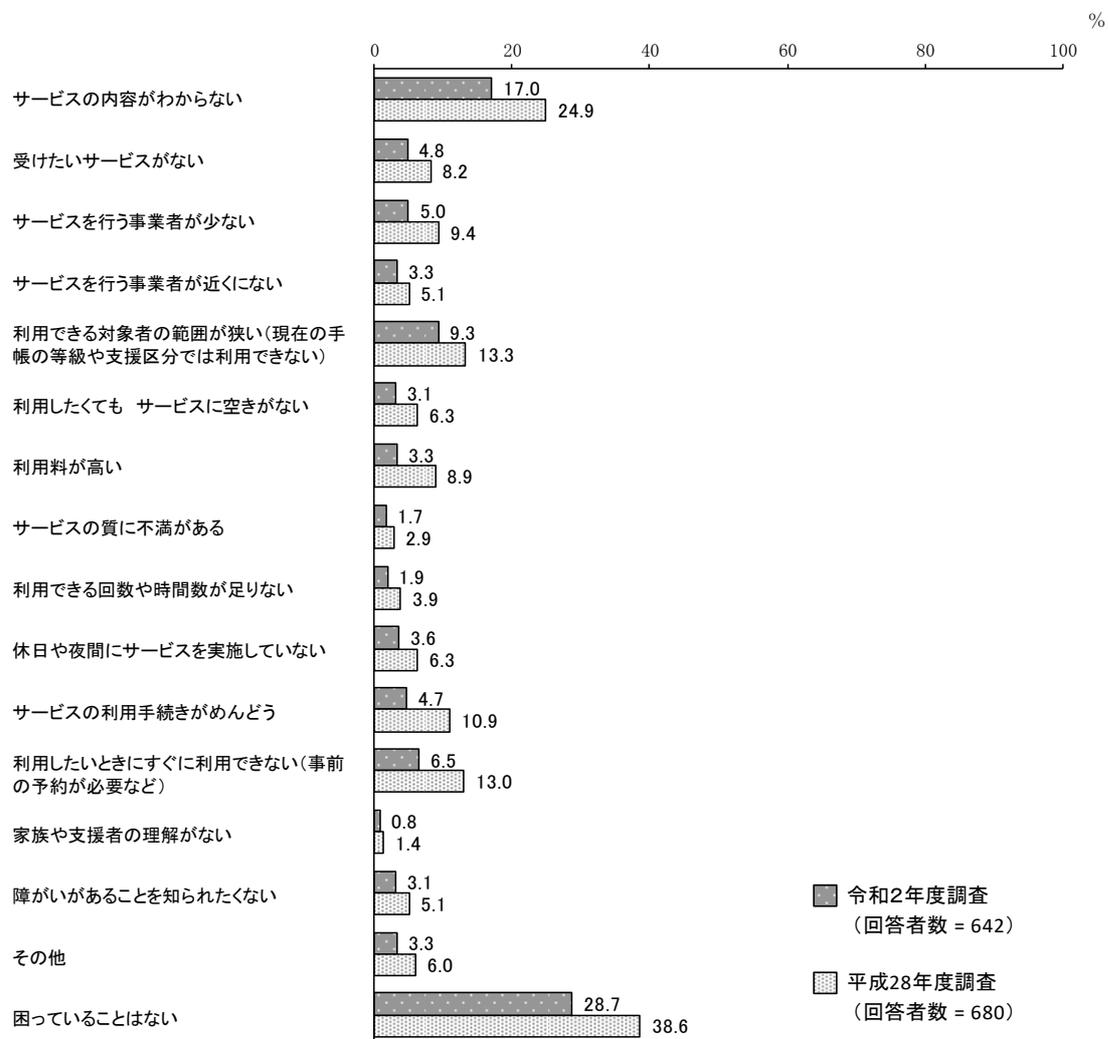
「困っていることはない」の割合が 32.6%と最も高く、次いで「サービスの内容がわからない」の割合が 19.3%、「利用できる対象者の範囲が狭い（現在の手帳の等級や支援区分では利用できない）」の割合が 10.6%となっています。

所持手帳別でみると、他に比べ、精神保健福祉手帳で「サービスの内容がわからない」の割合が、療育手帳で「サービスを行う事業者が少ない」の割合が高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

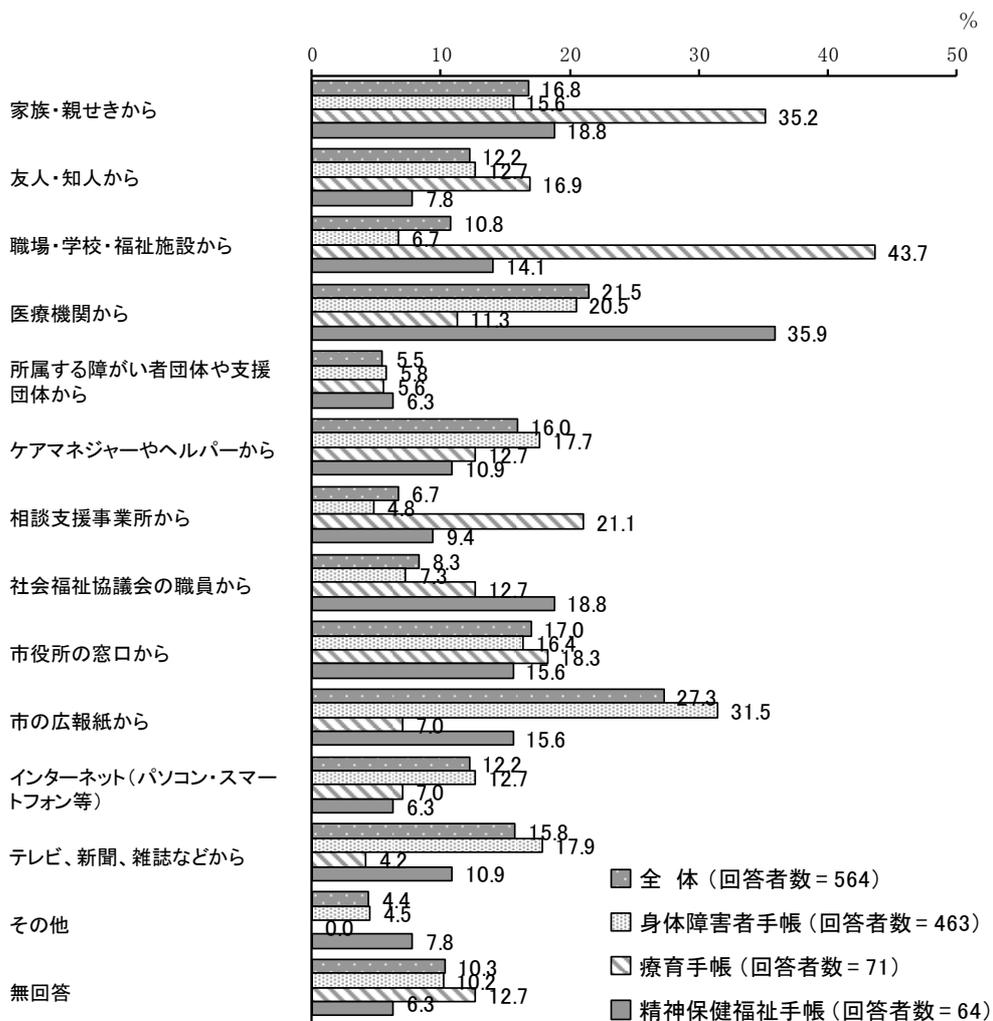
平成 28 年度調査と比較すると、「サービスの内容がわからない」「利用料が高い」「サービスの利用手続きがめんどろ」「利用したいときにすぐに利用できない（事前の予約が必要など）」「困っていることはない」の割合が減少しています。



問 21 あなた（障がい者ご本人）は、いつも福祉サービスに関する情報をどこから入手していますか。（〇はいくつでも）

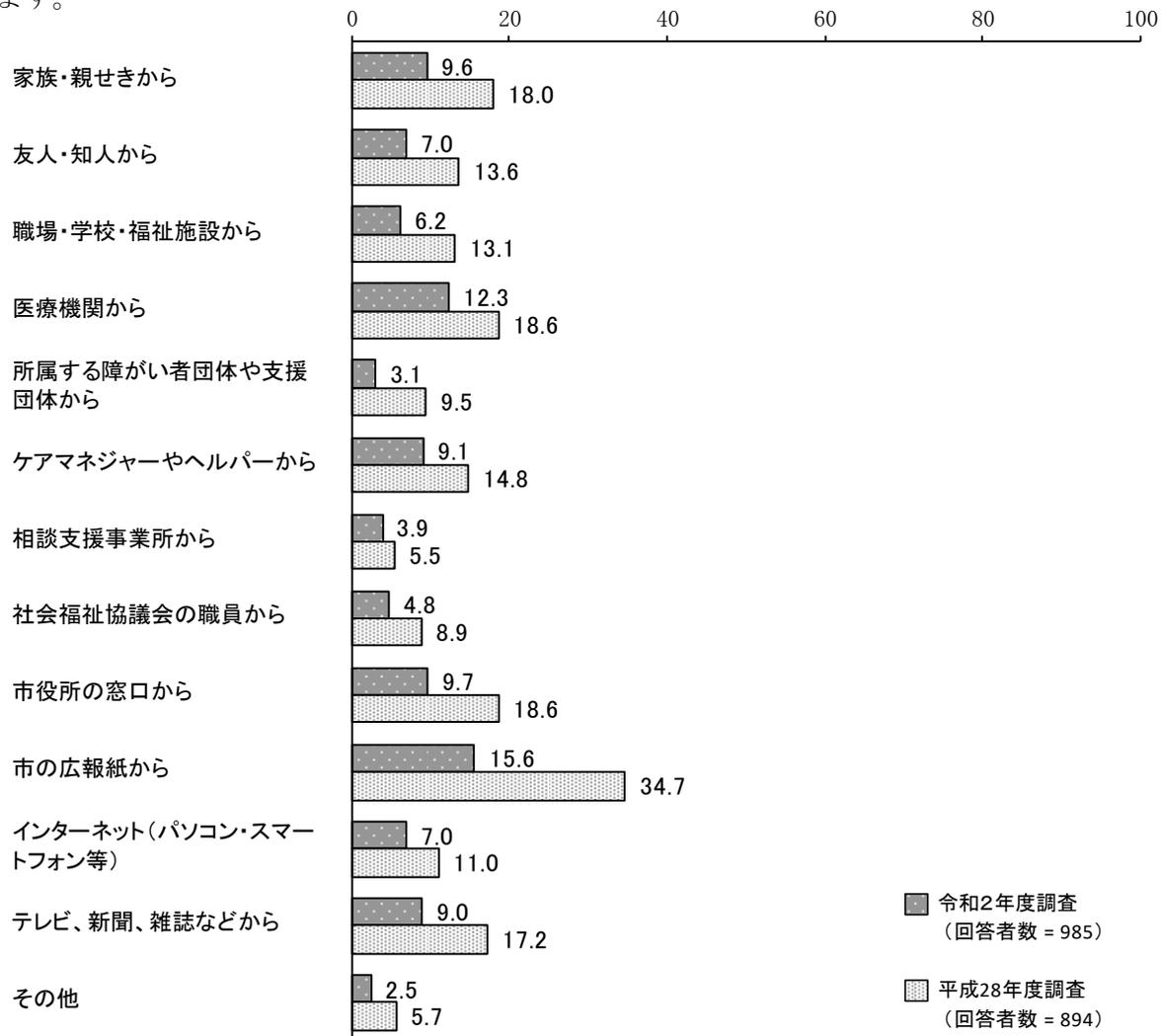
「市の広報紙から」の割合が 27.3%と最も高く、次いで「医療機関から」の割合が 21.5%、「市役所の窓口から」の割合が 17.0%となっています。

所持手帳別で見ると、他に比べ、療育手帳で「職場・学校・福祉施設から」の割合が、精神保健福祉手帳で「医療機関から」の割合が高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

平成 28 年度調査と比較すると、「家族・親せきから」「友人・知人から」「職場・学校・福祉施設から」「医療機関から」「所属する障がい者団体や支援団体から」「ケアマネジャーやヘルパーから」「市役所の窓口から」「市の広報紙から」「テレビ、新聞、雑誌などから」の割合が減少しています。

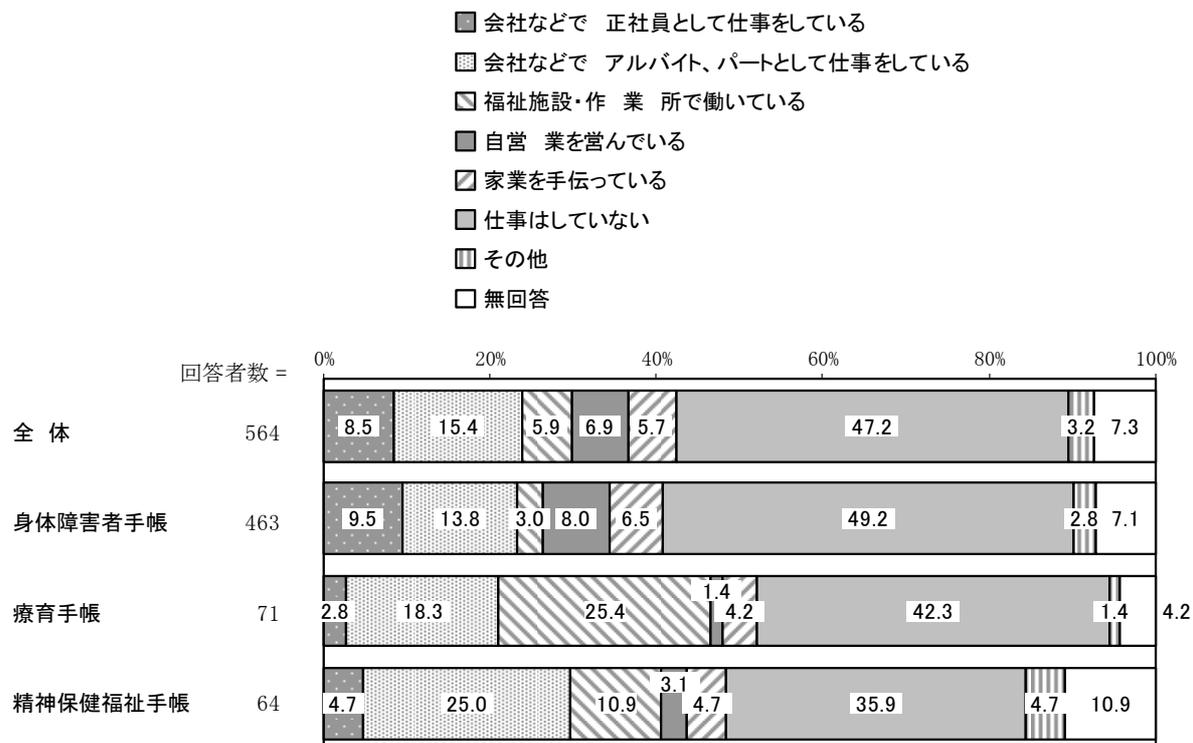


6 仕事のことについて

問 22 あなた（障がい者ご本人）は現在、仕事をしていますか。（○は1つだけ）

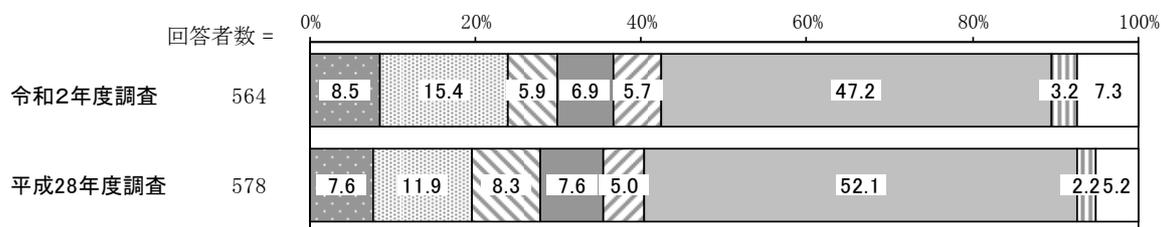
「仕事はしていない」の割合が47.2%と最も高く、次いで「会社などで アルバイト、パートとして仕事をしている」の割合が15.4%となっています。

所持手帳別でみると、他に比べ、身体障害者手帳で「仕事はしていない」の割合が高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

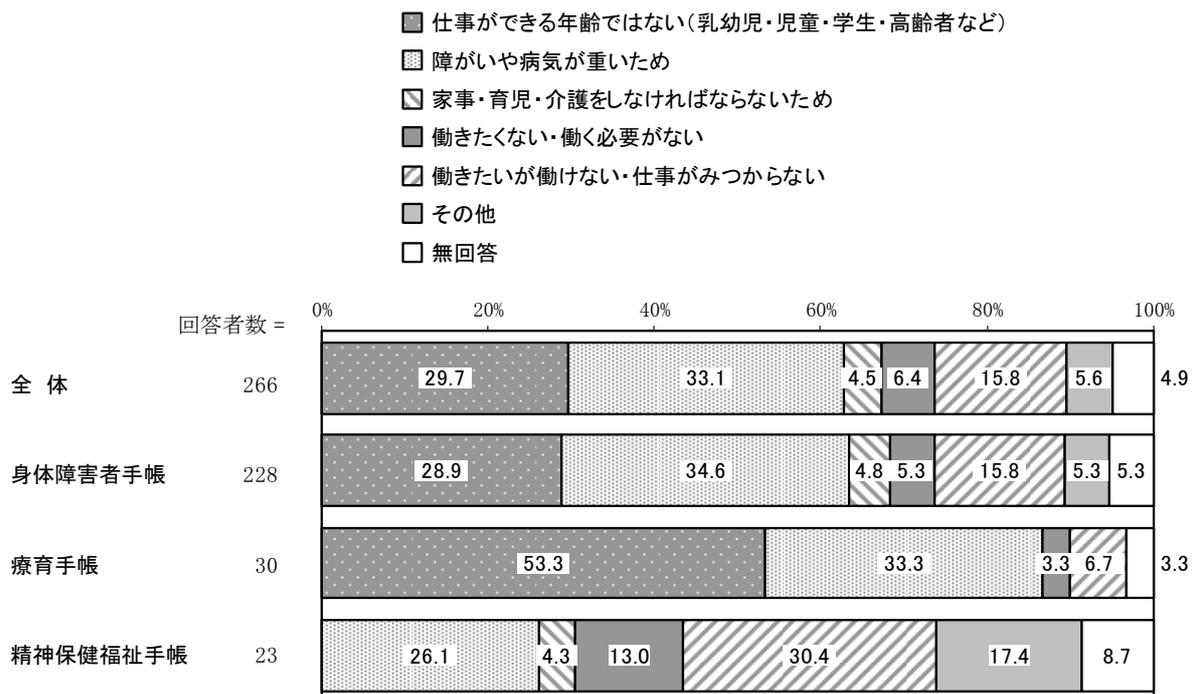
平成 28 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 23 (問 22 で「仕事はしていない」と答えた方にうかがいます。それ以外の方は問 25 へ) あなた(障がい者ご本人)が仕事をしていない? 由は何ですか。(おもなもの 1 つに○)

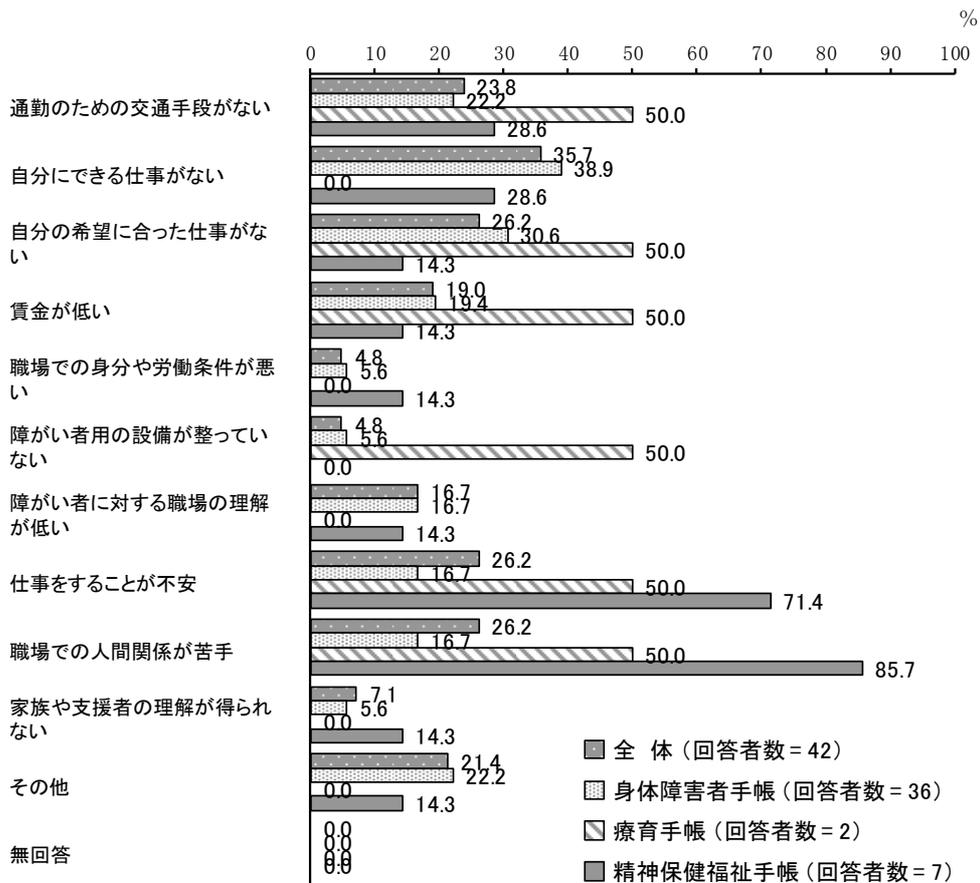
「障がいや病気が重いため」の割合が 33.1%と最も高く、次いで「仕事ができる年齢ではない(乳幼児・児童・学生・高齢者など)」の割合が 29.7%、「働きたいが働けない・仕事が見つからない」の割合が 15.8%となっています。

所持手帳別でみると、他に比べ、療育手帳で「仕事ができる年齢ではない(乳幼児・児童・学生・高齢者など)」の割合が高くなっています。



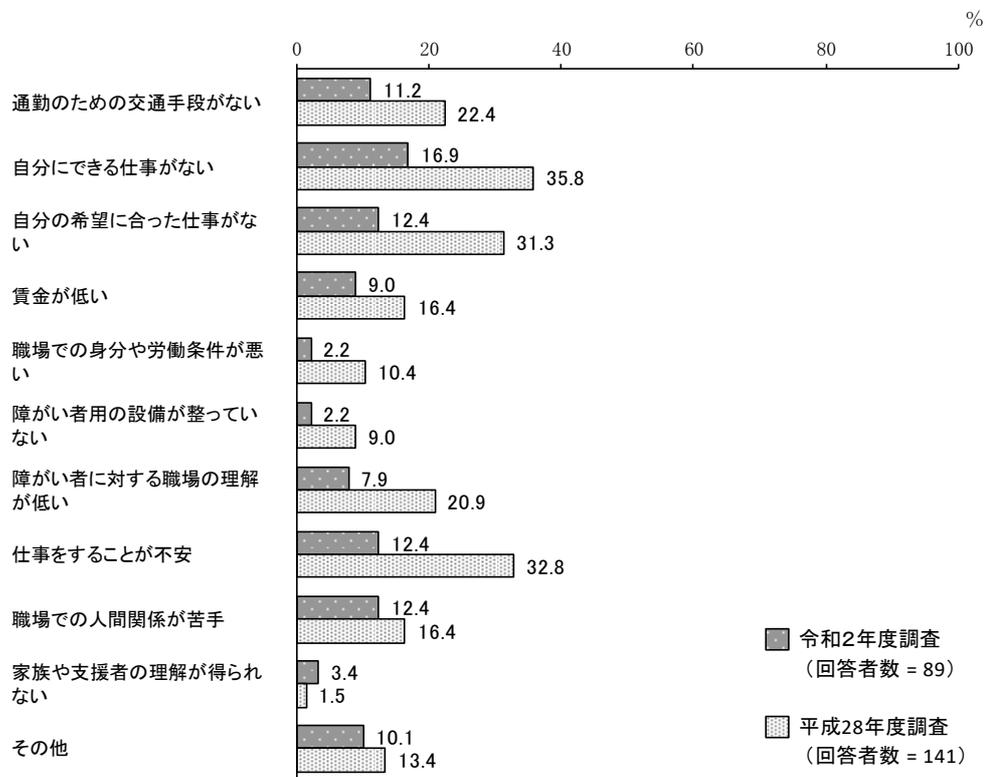
問 24 (問 23 で「5. 働きたいが働けない・仕事が見つからない」と答えた方にうかがいます。それ以外の方は問 25 へ)
 あなた(障がい者ご本人)が働けない理由や仕事が見つからない理由は何ですか。
 (〇はいくつでも)

「自分にできる仕事がない」の割合が 35.7%と最も高く、次いで「自分の希望に合った仕事がない」、「仕事をすることが不安」、「職場での人間関係が苦手」の割合が 26.2%となっています。
 所持手帳別でみると、他に比べ、精神保健福祉手帳で「職場での人間関係が苦手」の割合が高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

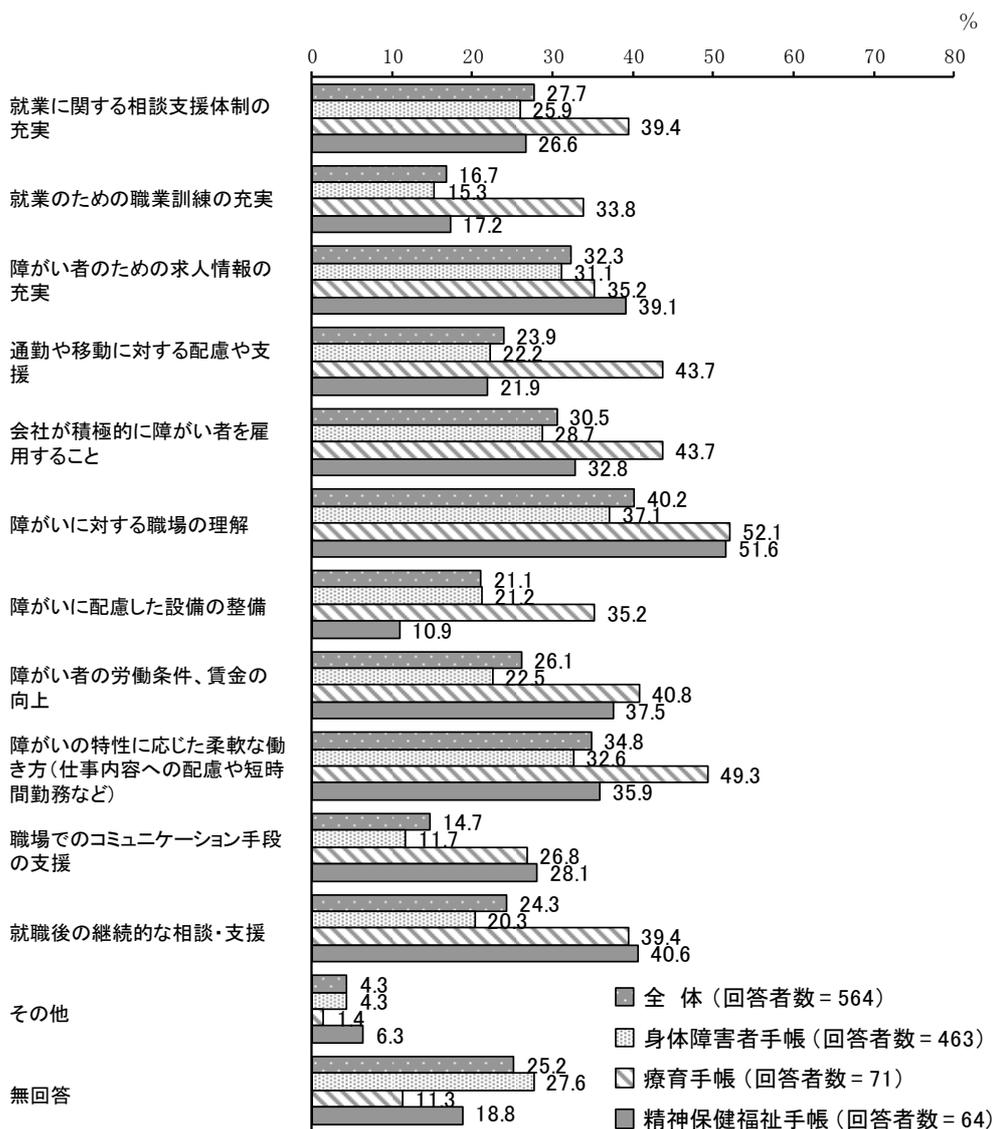
平成 28 年度調査と比較すると、「通勤のための交通手段がない」「自分にできる仕事がない」「自分の希望に合った仕事がない」「賃金が低い」「職場での身分や労働条件が悪い」「障がい者用の設備が整っていない」「障がい者に対する職場の理解が低い」「仕事をすることが不安」の割合が減少しています。



問 25 (みなさんにうかがいます。) あなた(障がい者ご本人)は、障がい者の就労を進めるためには、どのような取組が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

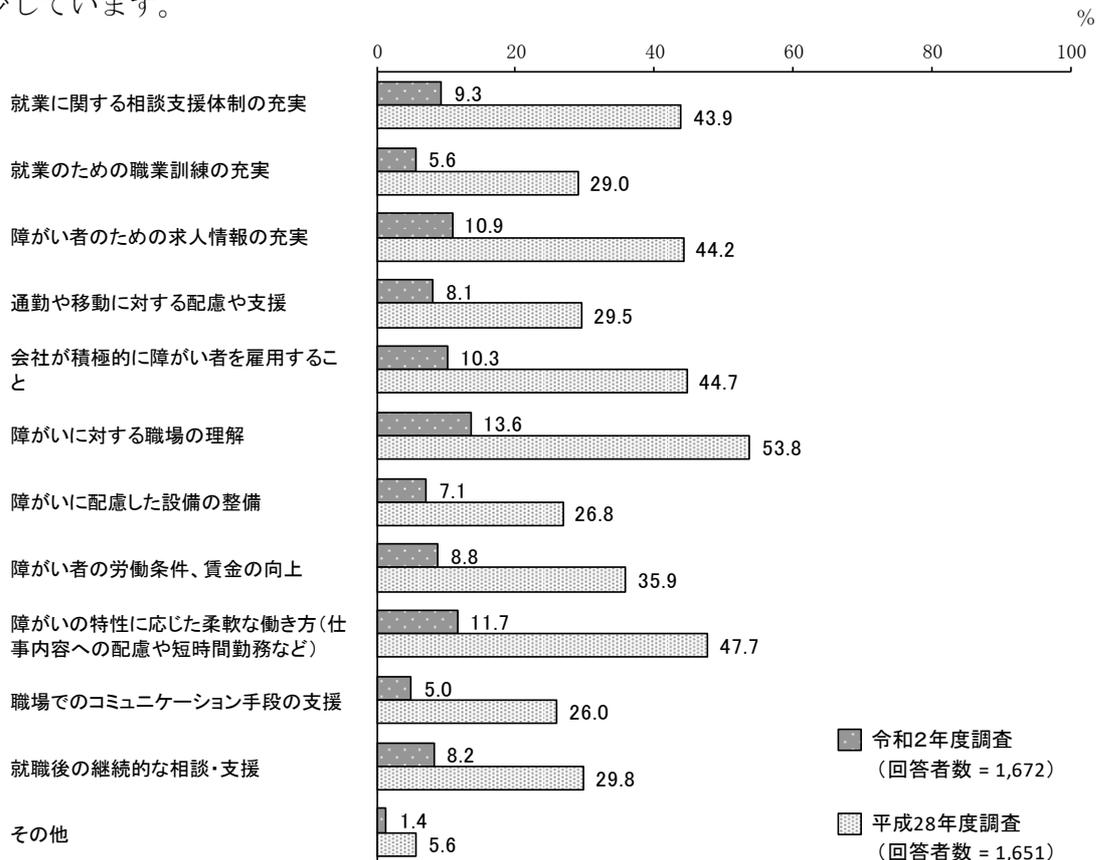
「障がいに対する職場の理解」の割合が40.2%と最も高く、次いで「障がいの特性に応じた柔軟な働き方(仕事内容への配慮や短時間勤務など)」の割合が34.8%、「障がい者のための求人情報の充実」の割合が32.3%となっています。

所持手帳別で見ると、他に比べ、療育手帳と精神保健福祉手帳で「障がいに対する職場の理解」の割合が高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

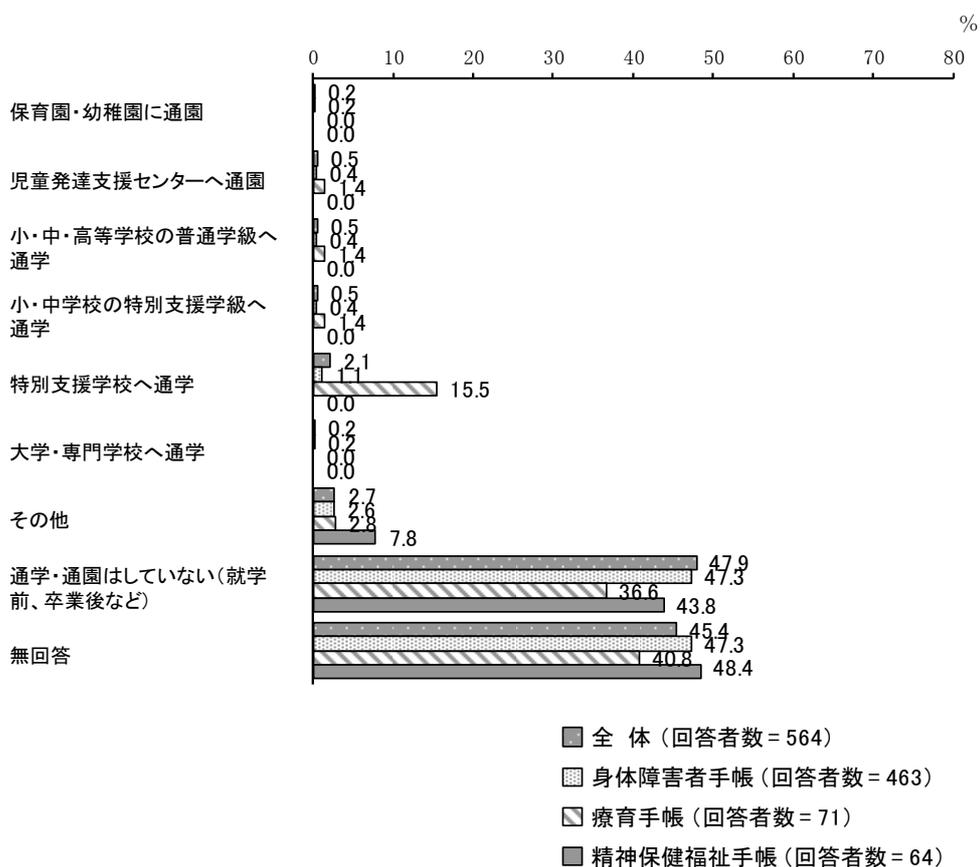
平成 28 年度調査と比較すると、「就業に関する相談支援体制の充実」「就業のための職業訓練の充実」「障がい者のための求人情報の充実」「通勤や移動に対する配慮や支援」「会社が積極的に障がい者を雇用すること」「障がいに対する職場の理解」「障がいに関心した設備の整備」「障がい者の労働条件、賃金の向上」「障がいの特性に応じた柔軟な働き方（仕事内容への配慮や短時間勤務など）」「職場でのコミュニケーション手段の支援」「就職後の継続的な相談・支援」の割合が減少しています。



7 教育や保育のことについて

問 26 あなた（障がい者ご本人）は、現在、通学や通園をしていますか。（○は1つだけ。ただし「2. 児童発達支援センター」を選んだ方は、○は2 つまで）

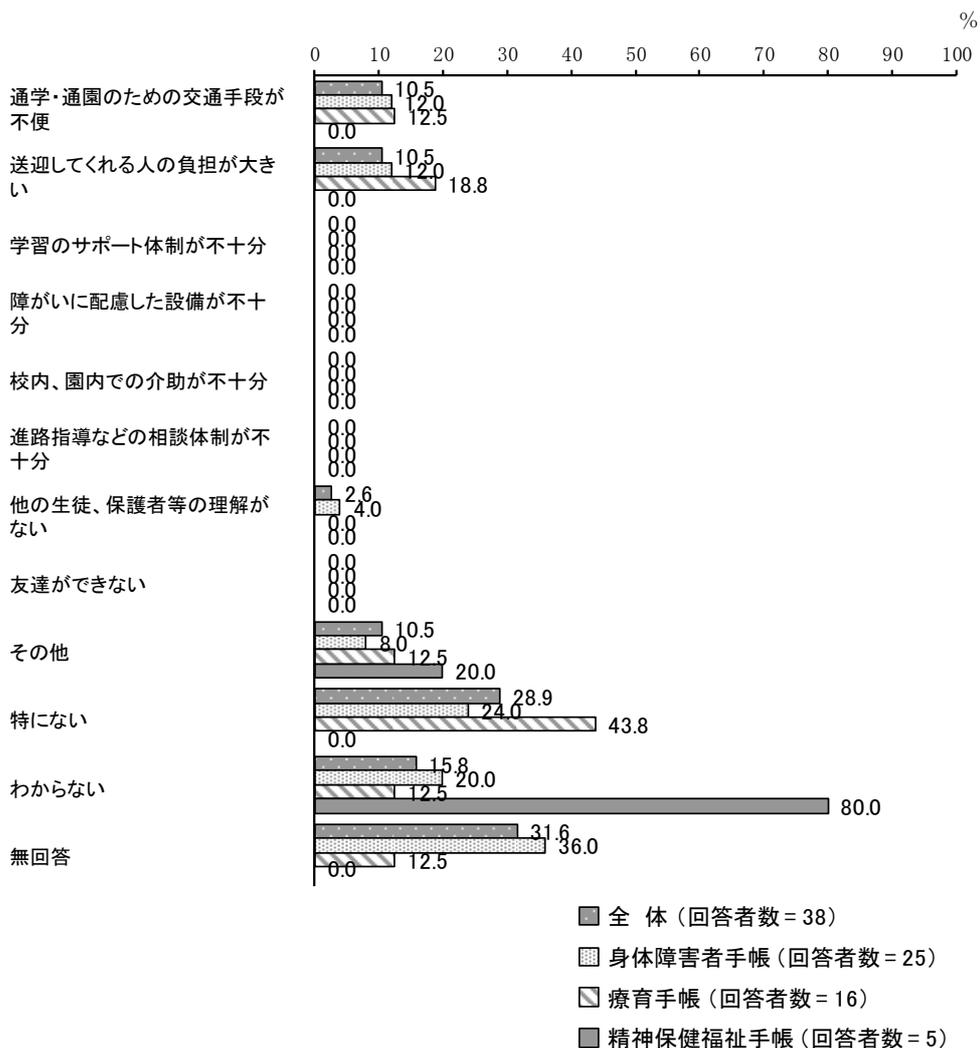
「通学・通園はしていない（就学前、卒業後など）」の割合が47.9%と最も高くなっています。所持手帳別でみると、他に比べ、療育手帳で「特別支援学校へ通学」の割合が高くなっています。



問 27 (問 26 で 「通学や通園をしている」と答えた方にうかがいます。) あなた (障がい者ご本人) は、通学・通園するときに困っていることは何ですか。(〇はいくつでも)

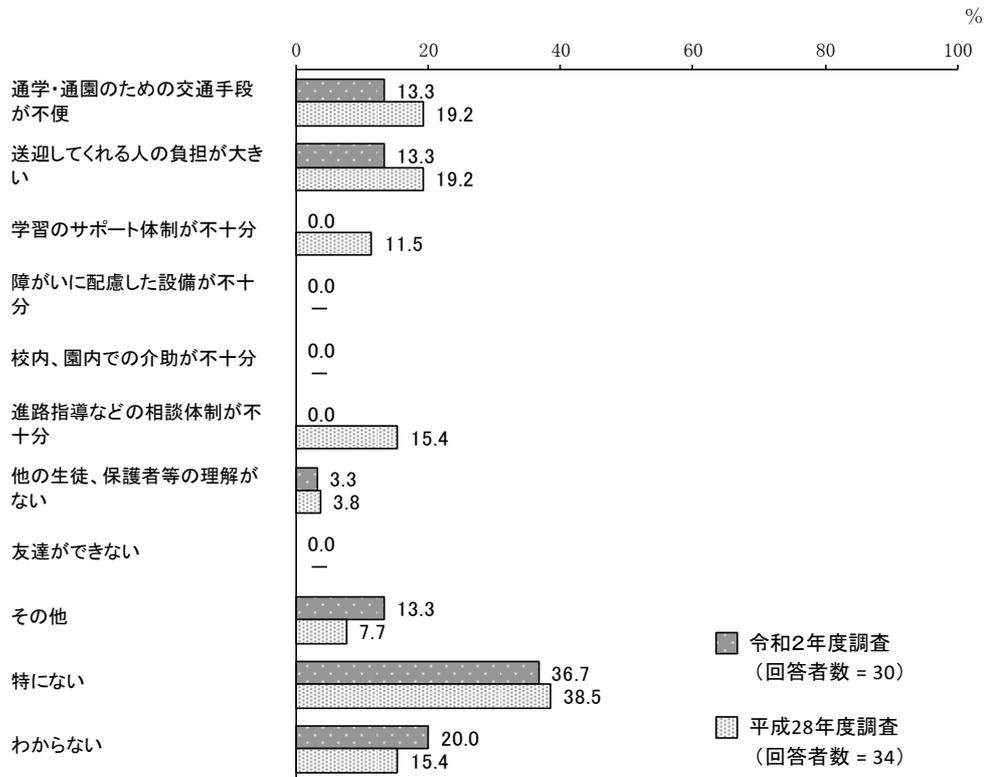
「特にない」の割合が 28.9%と最も高く、次いで「わからない」の割合が 15.8%、「通学・通園のための交通手段が不便」、「送迎してくれる人の負担が大きい」の割合が 10.5%となっています。

所持手帳別でみると、他に比べ、療育手帳で「送迎してくれる人の負担が大きい」の割合が高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

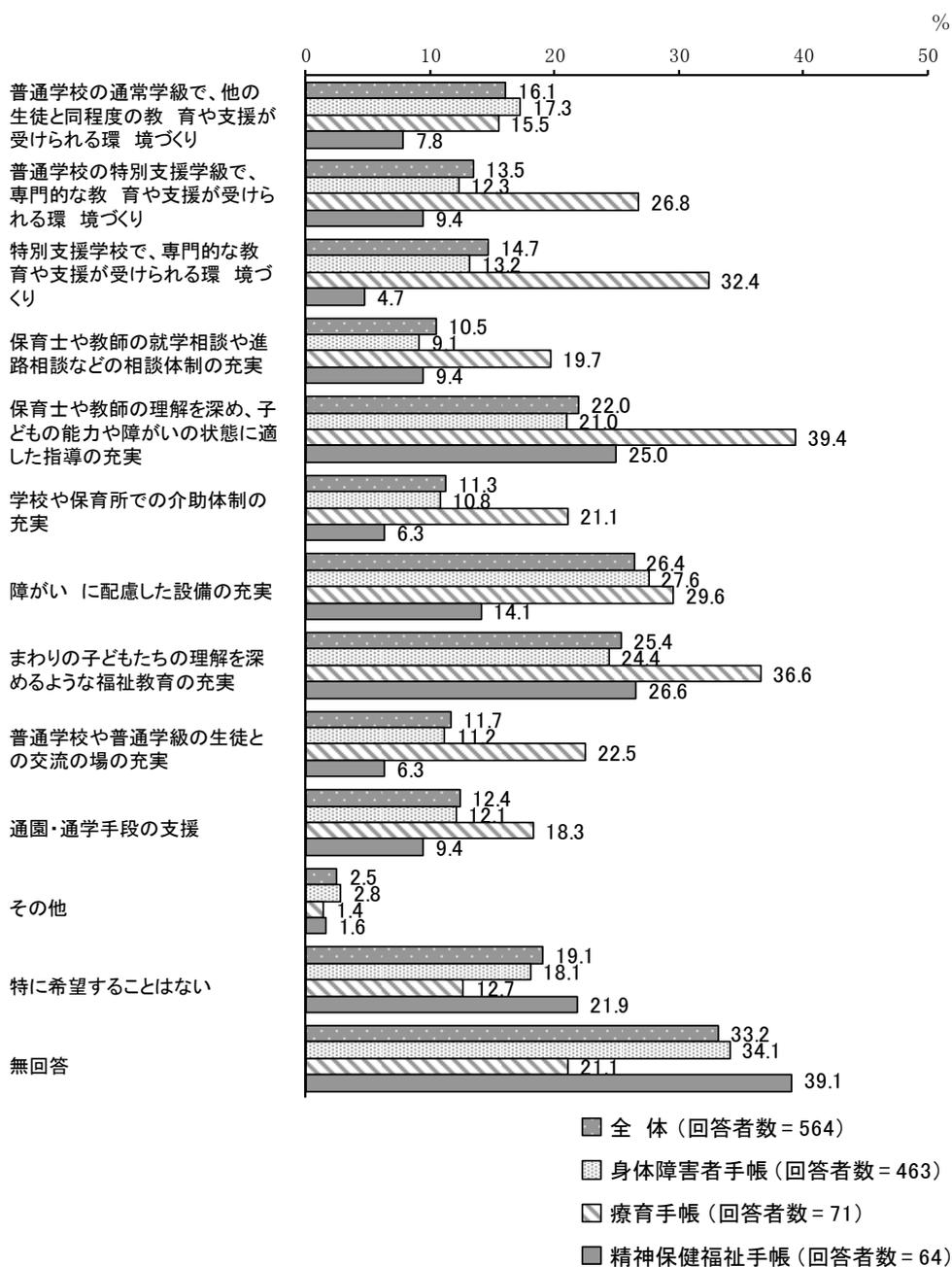
平成 28 年度調査と比較すると、「通学・通園のための交通手段が不便」「送迎してくれる人の負担が大きい」「学習のサポート体制が不十分」「進路指導などの相談体制が不十分」の割合が減少しています。



問 28 (みなさんにうかがいます。) あなた(障がい者ご本人)が 教育や保育に望むことや市に優先して取組んでほしいと思うことは何ですか。(〇はいくつでも)

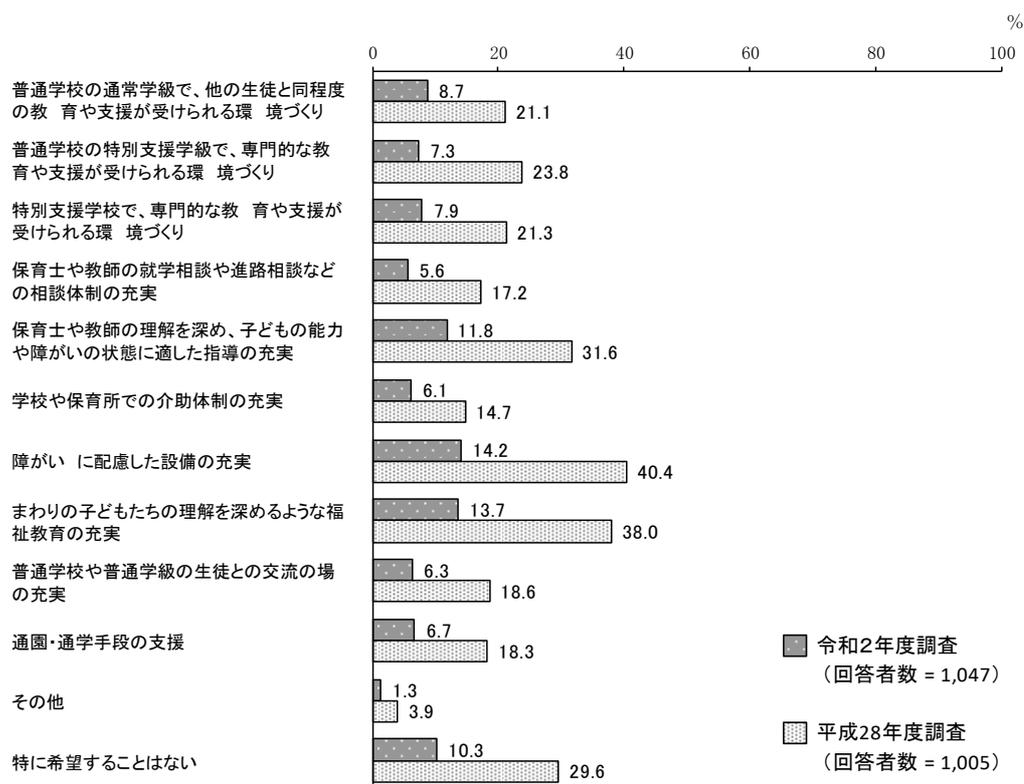
「障がい に配慮した設備の充実」の割合が 26.4%と最も高く、次いで「まわりの子どもの理解を深めるような福祉教育の充実」の割合が 25.4%、「保育士や教師の理解を深め、子どもの能力や障がいの状態に適した指導の充実」の割合が 22.0%となっています。

所持手帳別でみると、他に比べ、療育手帳で「普通学校の特別支援学級で、専門的な教育や支援が受けられる環境づくり」「特別支援学校で、専門的な教育や支援が受けられる環境づくり」「保育士や教師の理解を深め、子どもの能力や障がいの状態に適した指導の充実」の割合が高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

平成 28 年度調査と比較すると、「普通学校の通常学級で、他の生徒と同程度の教育や支援が受けられる環境づくり」「普通学校の特別支援学級で、専門的な教育や支援が受けられる環境づくり」「特別支援学校で、専門的な教育や支援が受けられる環境づくり」「保育士や教師の就学相談や進路相談などの相談体制の充実」「保育士や教師の理解を深め、子どもの能力や障がいの状態に適した指導の充実」「学校や保育所での介助体制の充実」「障がい に配慮した設備の充実」「まわりの子どもたちの理解を深めるような福祉教育の充実」「普通学校や普通学級の生徒との交流の場の充実」「通園・通学手段の支援」「特に希望することはない」の割合が減少しています。

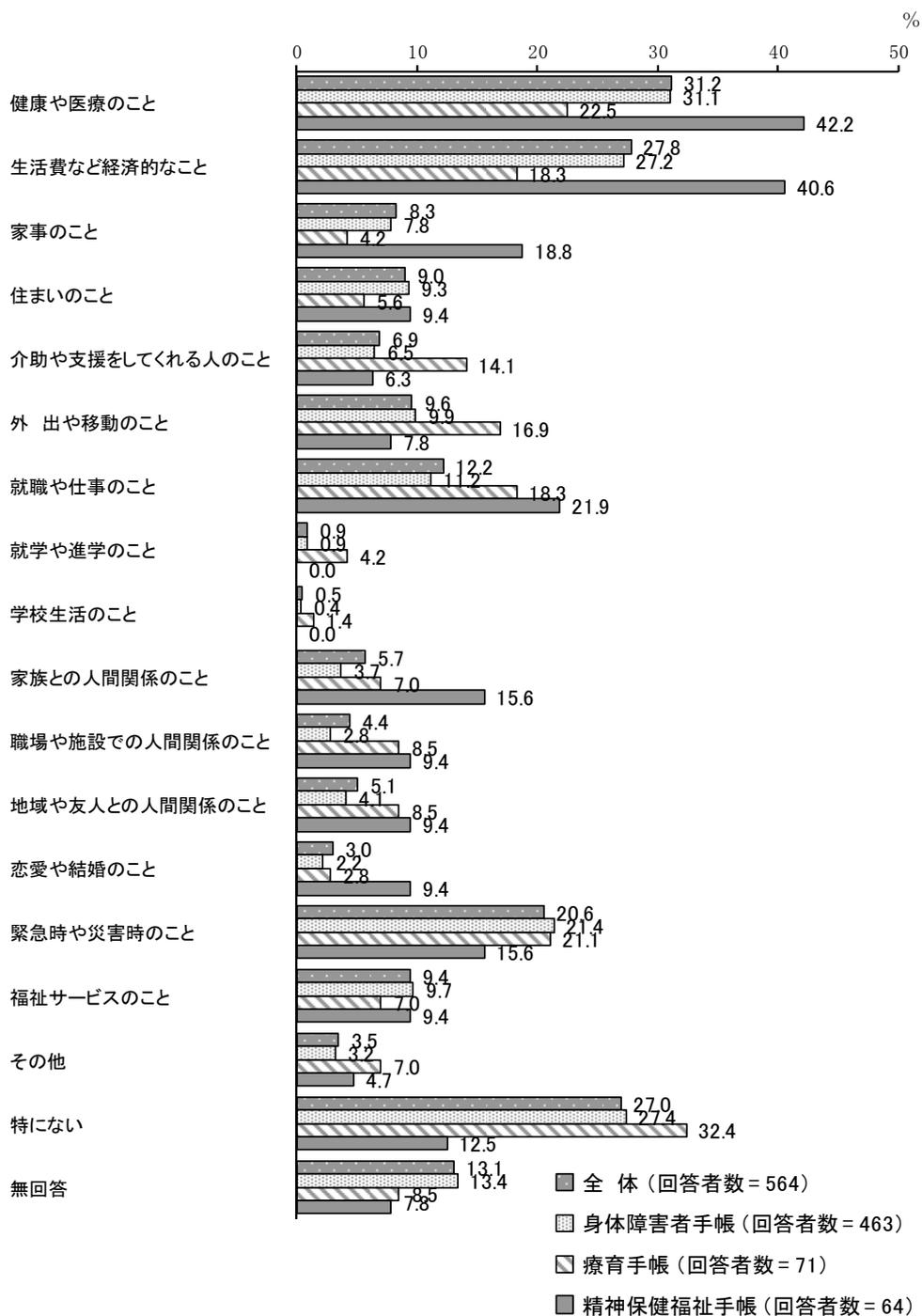


8 困った時の相談について

問 29 あなた（障がい者ご本人）は、現在 悩んでいることや相談したいことがありますか。（〇はいくつでも）

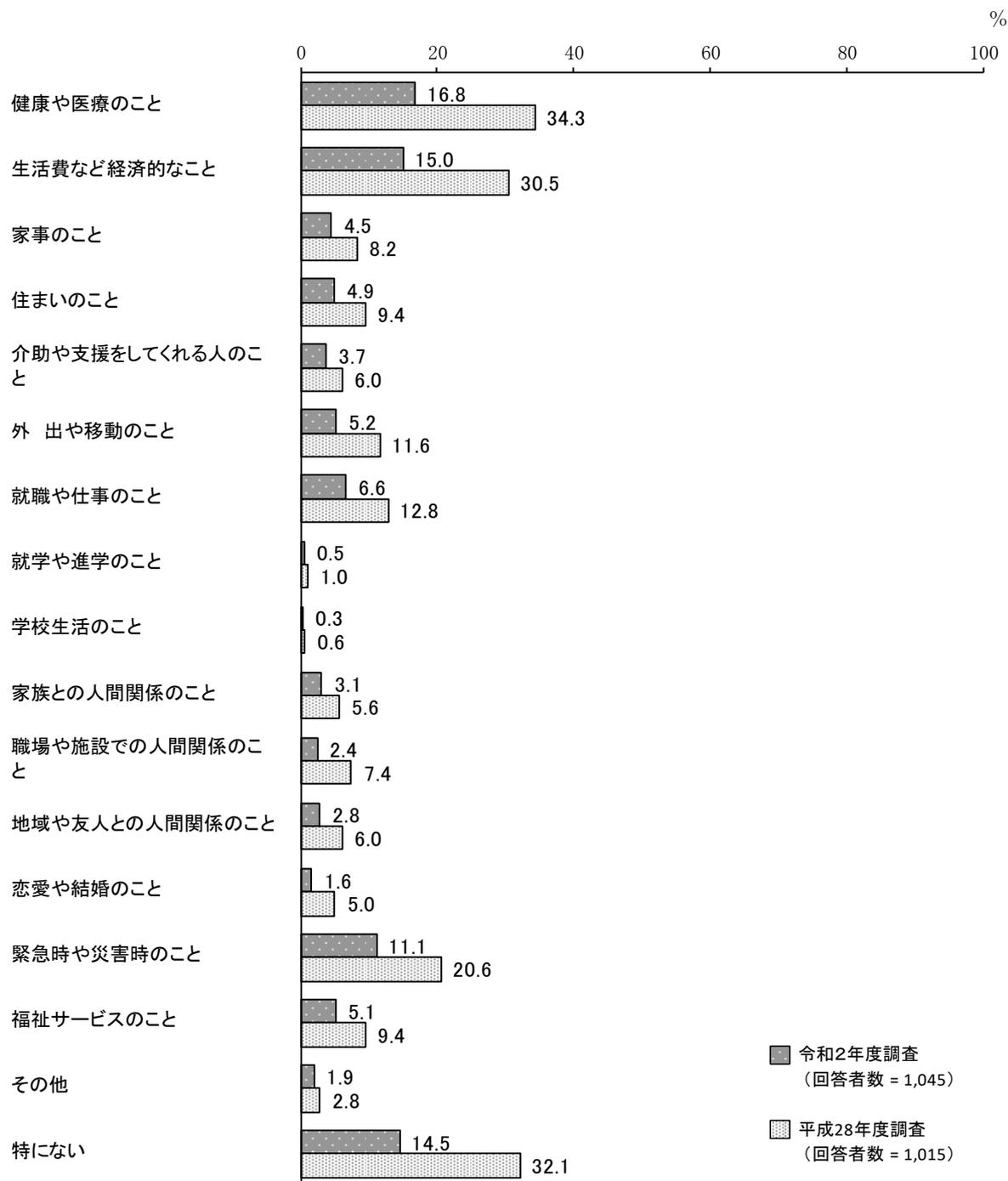
「健康や医療のこと」の割合が31.2%と最も高く、次いで「生活費など経済的なこと」の割合が27.8%、「特にない」の割合が27.0%となっています。

所持手帳別で見ると、他に比べ、精神保健福祉手帳で「健康や医療のこと」と「生活費など経済的なこと」の割合が高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

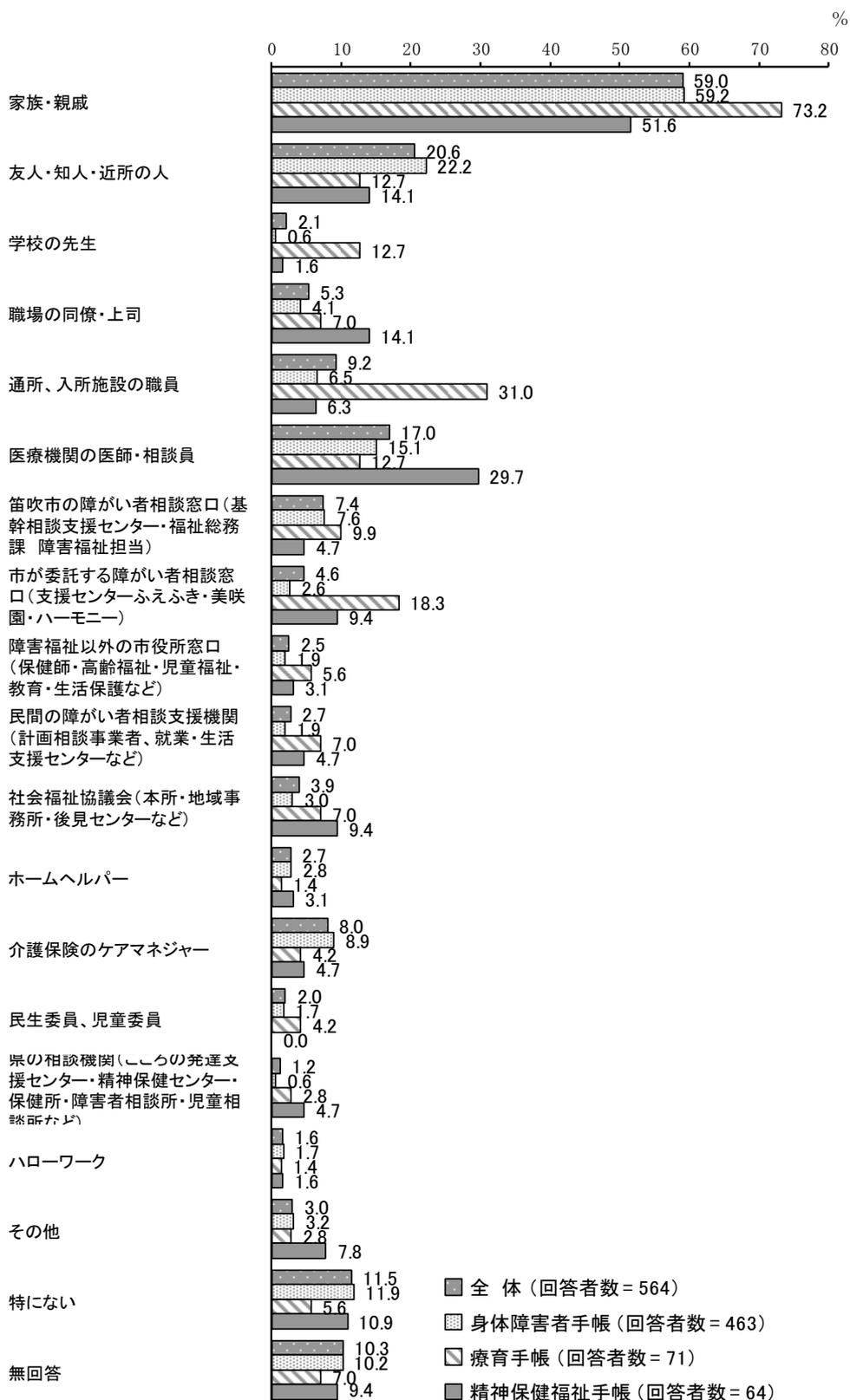
平成 28 年度調査と比較すると、「健康や医療のこと」「生活費など経済的なこと」「外出や移動のこと」「就職や仕事のこと」「緊急時や災害時のこと」「特にない」の割合が減少しています。



問 30 あなた（障がい者ご本人）が普段 悩んでいることを相談する相手はどなたですか。（〇はいくつでも）

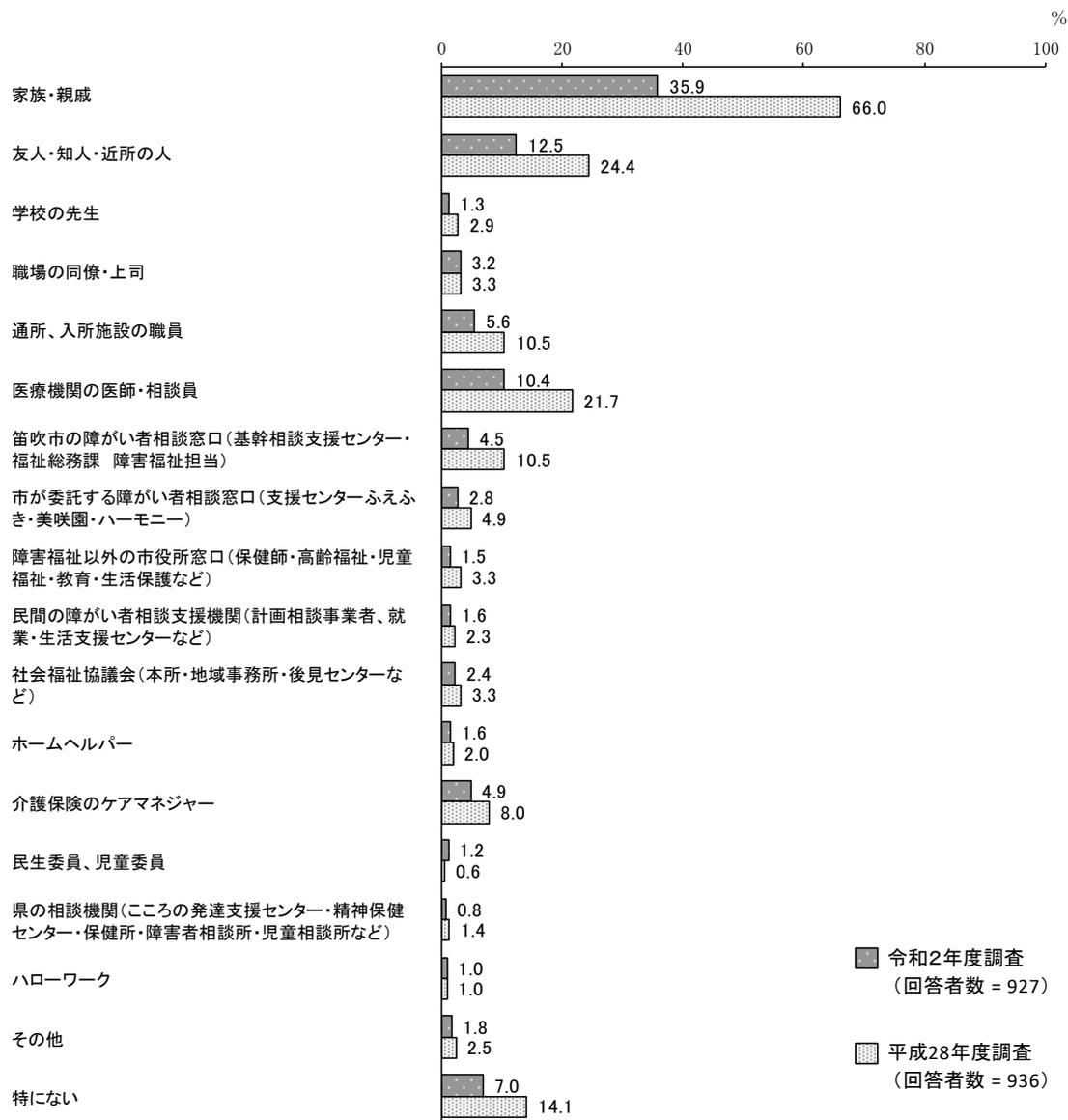
「家族・親戚」の割合が 59.0%と最も高く、次いで「友人・知人・近所の人」の割合が 20.6%、「医療機関の医師・相談員」の割合が 17.0%となっています。

所持手帳別でみると、他に比べ、療育手帳で「家族・親戚」の割合が高くなっています



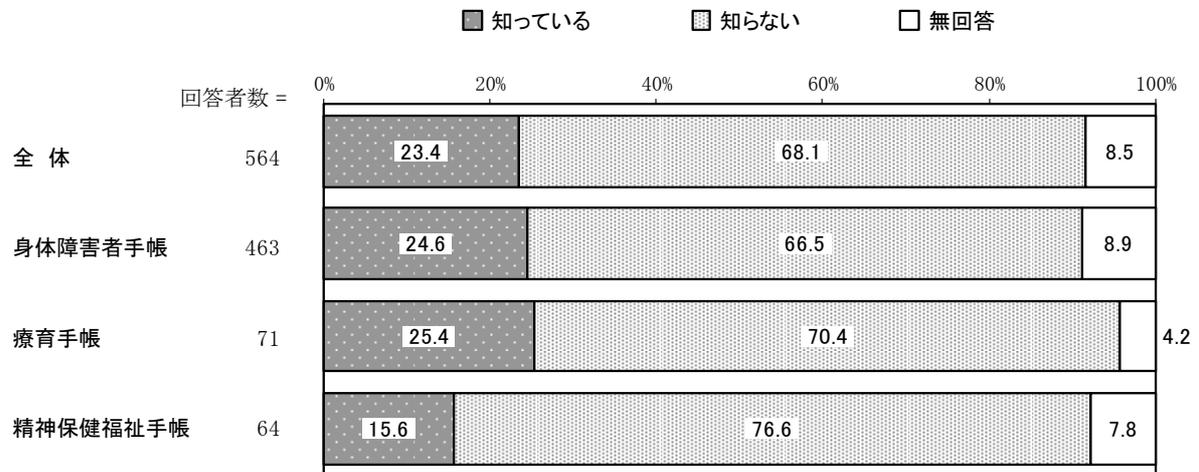
【平成 28 年度調査との比較】

平成 28 年度調査と比較すると、「家族・親戚」「友人・知人・近所の人」「医療機関の医師・相談員」「笛吹市の障がい者相談窓口（基幹相談支援センター・福祉総務課 障害福祉担当）」「特にない」の割合が減少しています。



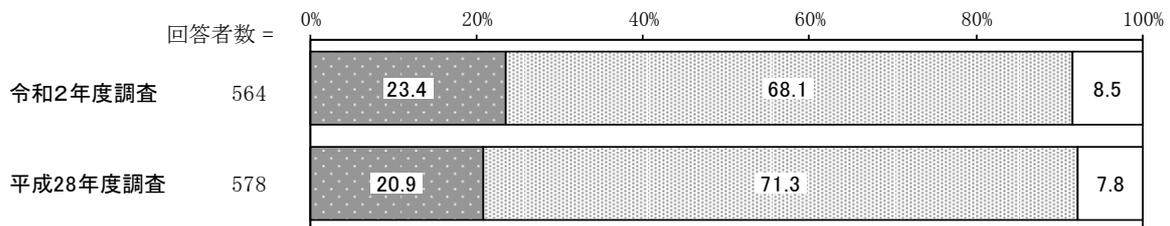
問 31 あなた（障がい者ご本人）は、「笛吹市障がい者基幹相談支援センター」のことを知っていますか。（○は1 つだけ）

「知っている」の割合が23.4%、「知らない」の割合が68.1%となっています。
所持手帳別でみると、他に比べ、精神保健福祉手帳で「知らない」の割合が高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

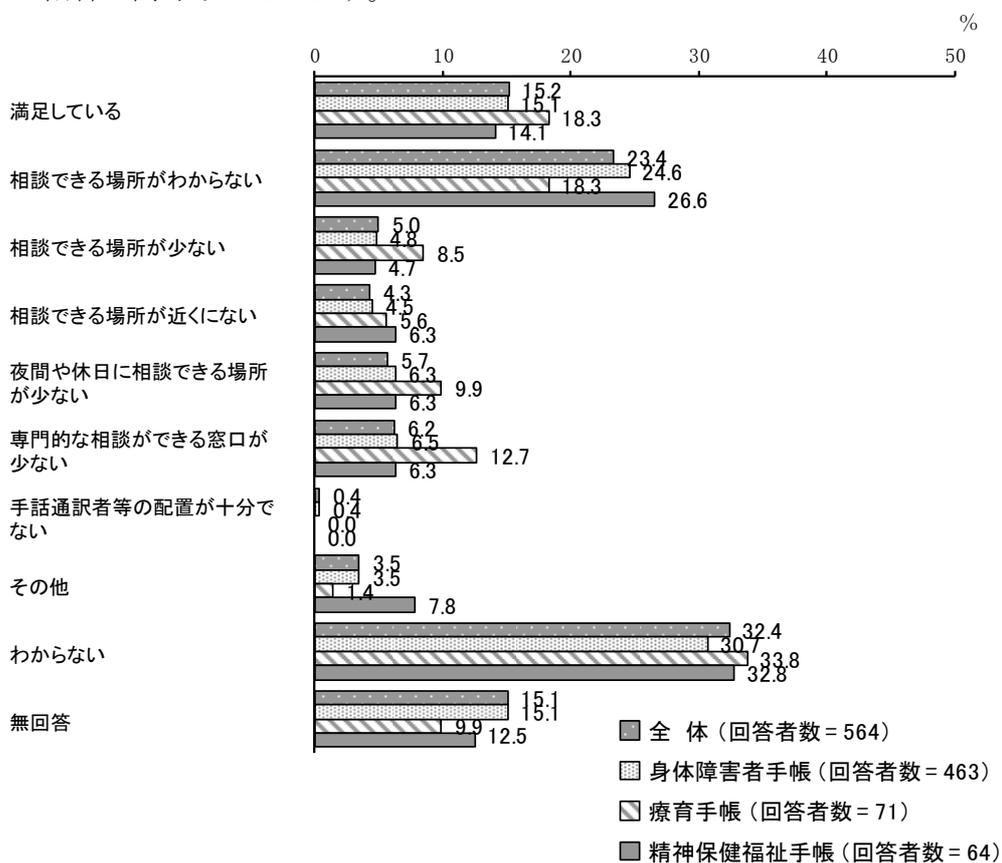
平成 28 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 32 あなた（障がい者ご本人）は、笛吹市における 困ったときの相談場所について、どのように感じていますか。（〇はいくつでも）

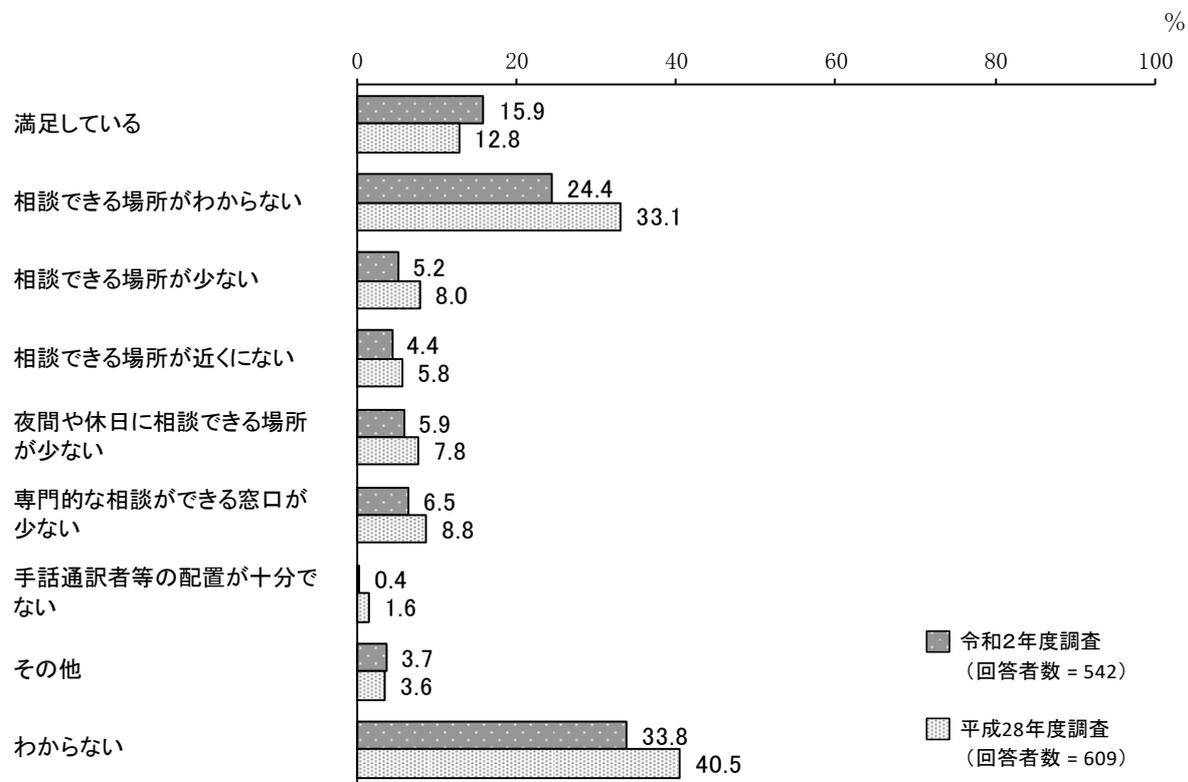
「わからない」の割合が 32.4%と最も高く、次いで「相談できる場所がわからない」の割合が 23.4%、「満足している」の割合が 15.2%となっています。

所持手帳別で見ると、他に比べ、療育手帳と精神保健福祉手帳で「相談できる場所がわからない」の割合が高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

平成 28 年度調査と比較すると、「相談できる場所がわからない」「わからない」の割合が減少しています。

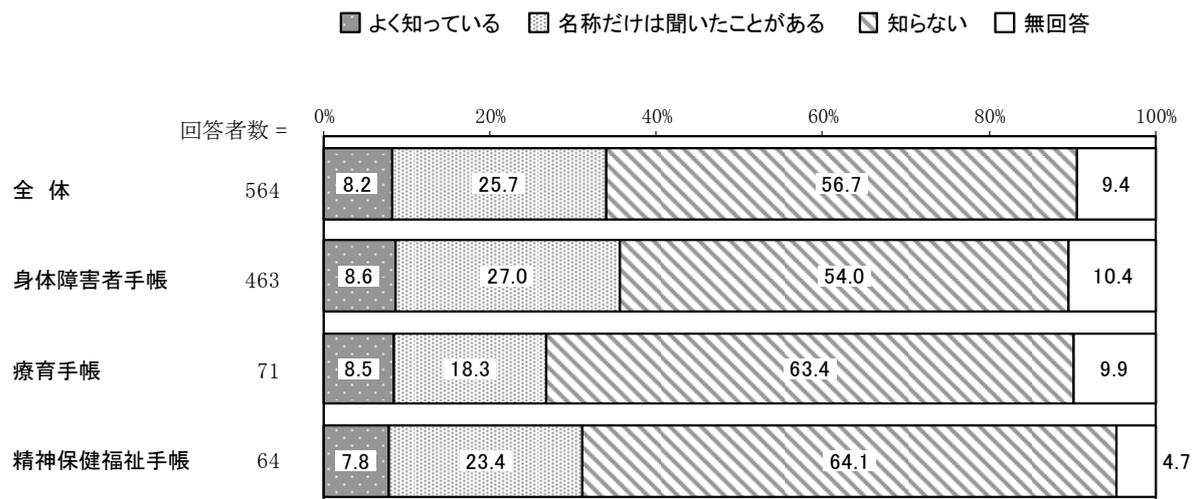


9 「障がい」への地域の理解について

問 33 平成 28 年 4 月「障害者差別解消法」が施行されました。あなた（障がい者ご本人）は、この法律のことを知っていますか。（○は 1 つだけ）

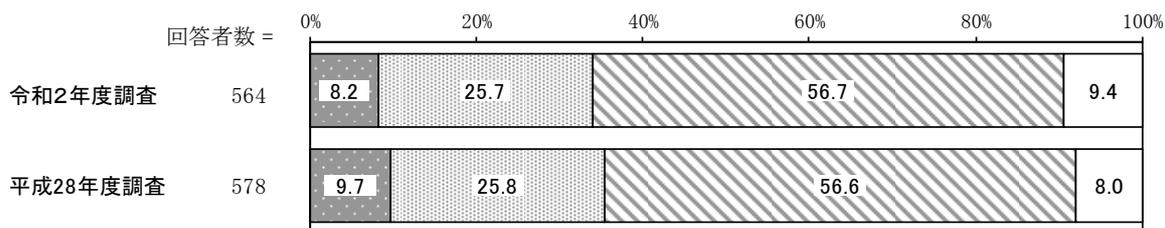
「知らない」の割合が 56.7%と最も高く、次いで「名称だけは聞いたことがある」の割合が 25.7%となっています。

所持手帳別で見ると、他に比べ、療育手帳と精神保健福祉手帳で「知らない」の割合が高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

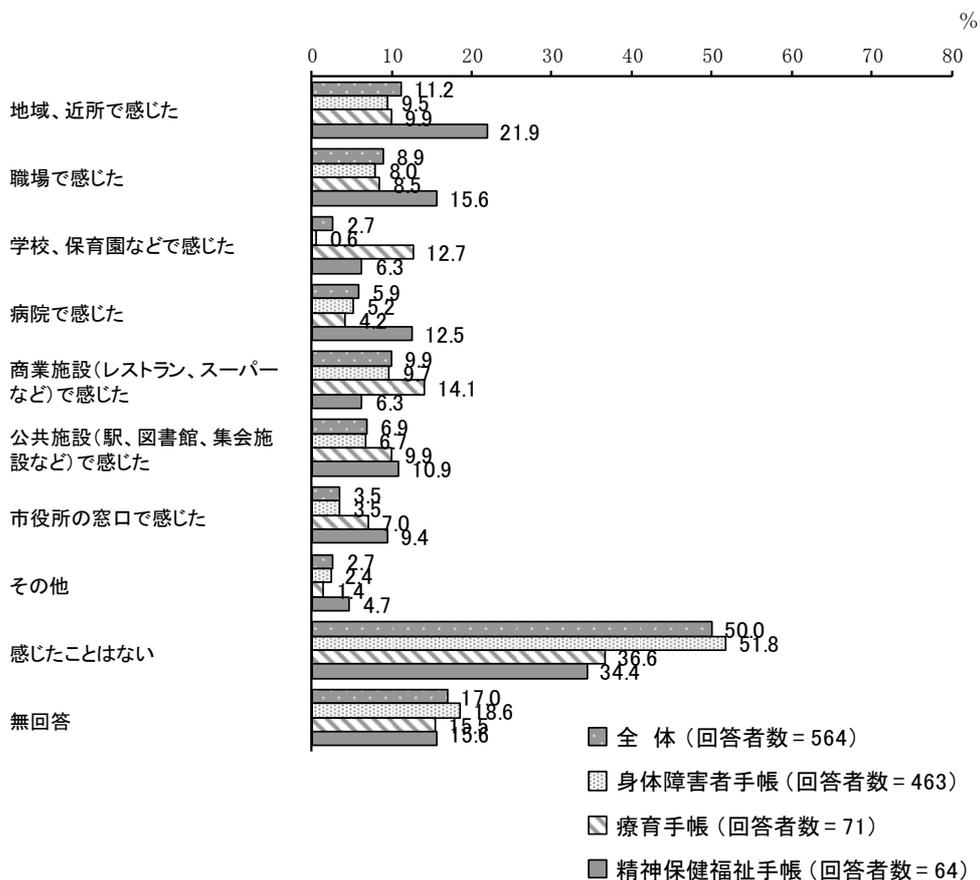
平成 28 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 34 あなた（障がい者ご本人）は、日常生活や学校、職場などで差別を感じたり、配慮が足りないと感じたことがありますか。（〇はいくつでも）

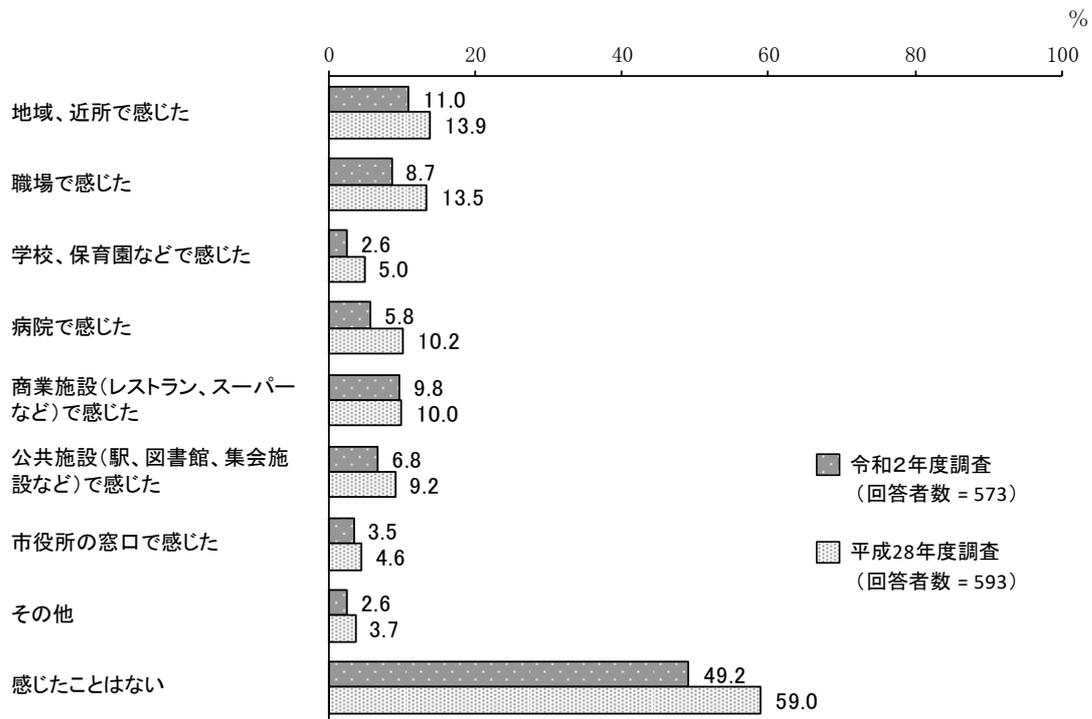
「感じたことはない」の割合が 50.0%と最も高く、次いで「地域、近所で感じた」の割合が 11.2%となっています。

所持手帳別で見ると、他に比べ、精神保健福祉手帳で「地域、近所で感じた」の割合が高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

平成 28 年度調査と比較すると、「感じたことはない」の割合が減少しています。



問 35 (問 34 で「差別や配慮の不足を感じたことがある」と答えた方にうかがいます。) 差別や配慮が足りないと感じたのは、どのようなことですか。空欄に記入してください。

- ・ 百円ショップで販売している車いすマークやクローバーマークをつけた車が障害者用パーキングに日常的に停車していて利用できない
- ・ しかくしょうがいのこと、職場でパワハラをうけ、仕事をやめさせられた
- ・ しょうがい者でも、○の事は出来ることもあるが、まるであいてにしてもらえない。さみしいです
- ・ 労働時間、業務内容の身勝手な変更。取り上げ。無視。いわれの無い事の追求
- ・ 医師からも無理だと言われている時も、近所の行事に出ない事で嫌味を言われどうしても出て来いと言われた事言った方は当時社協に勤めていた女性です。今でも意地悪です。
- ・ 支援クラスというだけで変なあつかいをうける。支援学校へ通学していた(いる)だけで変な目で見られる。バカにされる。(知的障害があるから人を殺すと云われる)
- ・ だいぶまわりの人のやさしさがみにしみていますが、まれにひどい人もいます。
- ・ スーパーの入り口のマットにひっかかりやすい
- ・ 職場で重量物を持たされ、配慮がたりなかった。
- ・ 施設の入口の段差や手すりなどが無い
- ・ SNS 上で病名が差別的に使われている
- ・ 環境に危険な所が幾つもある。人の対応に配慮不足(病院)
- ・ 利用できない所が多々ある。駐車場に障がい者以外がとめてる。
- ・ バリアフリーの対策欠如
- ・ 以前勤めていた会社で希望しない部署への移動をさせられた。現在の職場で障害者枠で働いているが、休みが多くなったりすると口をきいてくれなくなったりする人がいたり、上司以外の人の理解がないように感じる。
- ・ トイレ
- ・ YBS(山形放送のテレビ)で、いつも朝10:00くらいからやっているドラマ(テレビ東京やテレビ朝日とかフジテレビのどれかやっていたドラマをYBSで再放送しているドラマ)に字幕が付いてなくて、見たくても全然見る事ができなくて、楽しめない所が本当にすごござんねんでかなしいなあ・と思います。字幕をつけてほしいです。UTYもたまたま映画とか字幕がついてなくてがっかりした事もありました。
- ・ 精神障害でいつあばれるかわからないと思われた。うつ病なのに。暴れたことが無いのに。
- ・ 今年度3級をもらうまで石和共立で医りょう免除をうけていました。脳こうそくになった時CTもMRIも撮ってもらえず病院を4回かえされ、結局手おくれになり脳こうそくから1カ月もかかりちがう病院へ入院1カ月もえ死た脳は、日々私のまひをひどくおそってきます。3年でついに歩けなくなりそうです。
- ・ 障害者スペース(駐車場)に一般の車が使われていて不便を感じる事が多い、車椅子の為の仲が狭いと隣の車にあたってしまふ事があるので一般車の人はこの事を理解して欲しい。
- ・ 障害者用トイレの不足
- ・ 障害者の配慮なし
- ・ 障害者が仕事をしていると、いじわるをされた。(石和郵便局)障害者のくせにとよく言われる。
- ・ 給与

- ・ 上司の理解がない事が多い
- ・ ①村八分的扱い。市の広報もこない。②兄と同じ免許を持ち、自分か院長なのに見える兄へは良くして自分に対しては嫌な感じを与える。④兄に対しては新味に検査もするが自分には言っても検査してくれない。⑤注文を取りに来てくれない。
- ・ 事務の人の態度
- ・ 同じ給料なのに仕事の能率が違うと言われた
- ・ 特に差別や配慮の不足を感じたことはない。
- ・ 担当医から休職の診断書があったのにも関わらず、「うちではできないから」といきなり退職するように言われ、退職まで追い込まれた。
- ・ 心臓疾患の為、見た目に体調など分かりにくい為、どうしても健常者として扱われやすい。その時々により具合が大きく変わる為説明も出来ないし難しい問題です。
- ・ 税務署の女性職員が化粧直しのためだけに1つしかない障害者用トイレに長い時間使用していてトイレに入れなくてこまった事がありました。
- ・ 特に成し
- ・ 公園、施設、スーパーなど駐車スペースがなくて利用できなかった。(足が不自由な時に駐車スペースがなくて、離れた場所しかとめられない時は、せつなくなります。)
- ・ 昔病院で入院していた時外来専用エレベーターでじろじろ見られてくやしかった。
- ・ 障害者用駐車スペースに一般の車を停めている
- ・ 身体に障がいがあることを知っていながら上司に無視される
- ・ 一般道で障がい者のドライバーへの道のゆずり合いが足りない
- ・ いじめられたのでもう少し先生方に気をつけて欲しかった。
- ・ 地域の人を、さけていたら、あの子は病気なの？と別の人から聞いた。障害は差別される
- ・ 上肢障害者の為の配慮がなく、現金や、カード、切符、チケットなど持てない、不自由さがわかってない。
- ・ 過度に心配されたり、介助されたりした。
- ・ 障害者トイレをさがして歩かなくてはいけない。駅によってエレベーターの使い勝手が悪い。
- ・ 地域の公民館など利用する場合、膝に障害がある為、畳、床には座れません、低いイスはありますが、膝がよく曲がらない為高いイスが用意してあると助かりますが・・(背もたれのある折りたたみのパイプイスがあると助かります。) 立ち座りが大変な為。
- ・ 人をみる目
- ・ 勤務中に仕事が遅いと苦情をずっと言われている。
- ・ 発表会のときに一人ではステージに立てないので、出ることが出来なかった。病院の診察の際、嫌がる人が多いので怒られたり嫌味を言われたりした。
- ・ ①について、家の中で窓のガラスをこわしてしまい(他にもこわれている所があるけど) 大家さんにこわれた箇所を直してとたのんでも業者を呼んでももらえず。窓はこわれたままで。今年の台風19号の時には、命のキケンを感じる程に怖かったです。③、⑦は最後の43の間に書きます。
- ・ 障害者用駐車スペースに健常者の方が駐車する事がよく見かけられる。
- ・ 近所の人から差別的な発言をされた。市内レストランで入店を拒否された。
- ・ たくさんあって書ききれないし、うまく文をまとめられない
- ・ 段差が多い

- ・ 障がいを理由に解雇された
- ・ リリカと言う（末端神経からきているくすり）痛み止めを飲んでいて。他の科の先生が、うちには精神科の薬はありませんから！！とばかにされた。又、車いすに乗っている為ばかにされた。言い方が怒って言われた。
- ・ バス、電車を利用する時、障害者である事を提示する事が難しい
- ・ 障害があることで勝手に仕事が出来ないと決めつけられシフト調整をされていた事があった。
- ・ 相手の視線を感じる
- ・ いじめを受けたことがある。
- ・ 病院に入院している為お答えで来ません。
- ・ 健康診断を、お願いしたが、ことわられた。（3件）
- ・ 医療機関や作業所の職員などの心無い言動（キモい、疲れる、めんどくせえなど）
- ・ 盲導犬を連れて友人がレストランに入れなかったこと
- ・ スーパーで一般車が障害者のスペースに止まっていて使用できない事が多いです。
- ・ 駅構内の運賃表が見えない、わからない
- ・ 障がい者でも配慮をしてくれない。
- ・ 個人の耳鼻科に行った際に「こういう子は小児科でも良いんだよ。」と言われました。（耳鼻科だと鼻を吸ってくれるので・・・）周囲の偏見の目や態度。
- ・ 前出でも記入したが、病院や一般の障害者用トイレにおむつ交換用のベッドがないので苦労している。トイレでなくても休憩スペースでもよいと思う
- ・ デリカシーがない
- ・ スロープがあっても高すぎたり傾斜が強く利用しにくい
- ・ 駅のホーム移動などで、階段を使用するしかないところがある。
- ・ 目で追う。昔「お若いのに可愛そう」と直接言われた。
- ・ 障がいを理由に無視された。（話しかけてもらえない）（面倒だと言われた）
- ・ 家族に「めくら」「見えないだけ」「まったくわからんだから」と強い口調で文句のように毎日言われる事はつらいです
- ・ 談合坂 SA の車イス用の駐車スペースはフラットでなく、スロープをまっすぐに降ろす事ができない。設計ミスと思えた。
- ・ やはり変人あつかいされた
- ・ 幼い頃、近くのスーパーへ買い物に行った時、下肢が不自由な為、歩き方をまねされたり、じろじろ見られたりした時、差別を感じました。
- ・ 団地を借りる時、障害があると伝えると顔つきがくもり、あからさまに重度の方はちょっと・・・と（不動産会社に住まいを探してもらいに行った時も）いう態度をされた。・スーパーに買い物に行った時やってもいけない事をやると決めつけられ、とてもひどい態度で「ちゃんとはなれないでみていて下さい！！」と怒ってきた。（ビック石和居戸店 中年女性店員）
- ・ 体が不自由でも組の作業等に出席しなければならない
- ・ 地域の集りでの、お手伝いが出来ないので困っている。見ためは、なんでもなさそうだけど、出来ないから理解してもらえない。
- ・ 自分自身にとっては、重労働の作業がある業務に配属になったこと。

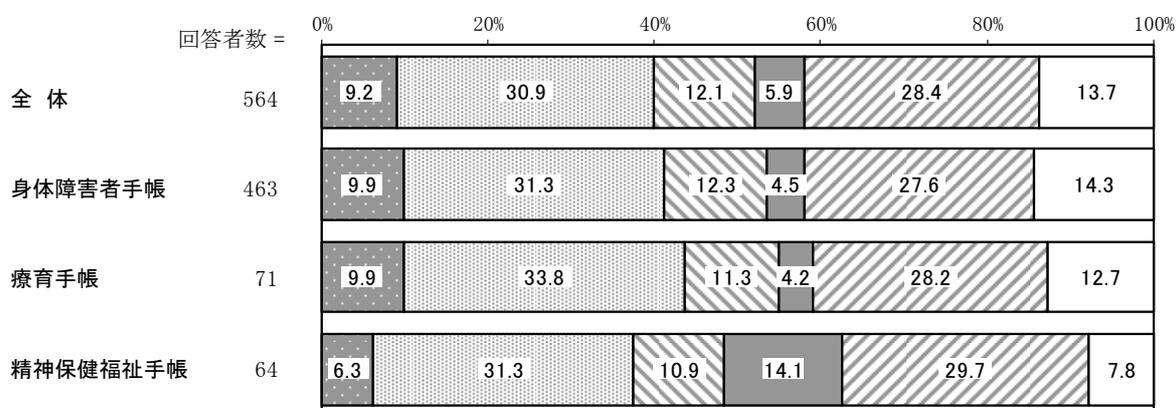
- ・ 何なのか、注文通りの食べ物が出ない。
- ・ 歩く姿を見られて必要以上に距離をとられたこと。駅のホームを歩く時に後ろから小さい声で文句を言われた。
- ・ 上司から注意された時、言い方がきつく感じた。
- ・ 筆談でお願いしますと伝えたのにドクターは口語で話してしまう。態度がめんどくさい顔をしていた
- ・ 多目的トイレが少ない。バスに乗ってる時に「車イスがバスに乗るな」と言われた。
- ・ 夜間道路がくらく感じる
- ・ 飲食店で入店拒否された。段差が多い所は拒否される事がある。
- ・ ゆうえんちや映画館なので無料になるのがおかしくてふつうのように入りたいです。
- ・ A型作業所で働いていた時、一緒に仕事をしていた人にいやがらせをされその事を話してもちがうところで働かせてもらえずずっとその人と仕事をしていたので結局やめてしまった
- ・ 見て見ぬふり。段差などトイレなど環境
- ・ 優しさなのだろうが、席の移動を頼れたりする時の言い方に問題があると思った。
- ・ 近所の人にうわさされた
- ・ 上司の同僚への差別
- ・ 障害者のトイレを自分の身になって作ってもらいたい。店内に商品がいっぱいなので車イスが通れない。段差が多い。
- ・ なし
- ・ 障害者にいろいろの面で配慮がたりない
- ・ 障害者ということで飲食店入店拒否された
- ・ 偏見や嫌がらせ、バスに乗った時に時間がかかり舌うちされたりしたことがある
- ・ 不便な施設がかなりあります
- ・ 視覚障害なので見た所、障害があるように見えないのでゆっくりとした行動などにイヤな態度をされたようです。
- ・ 列に並ばなければならない。障がい者雇用であるも、無理しての作業が結構ある。窓口がひとつではない。
- ・ 障がいを理解している人が少ない
- ・ 世界中でさっきで満ちている
- ・ 大学を中退せざるしかなかった。
- ・ くつをぬがなくても良い施設をのぞみます。
- ・ 障害者であることは事実ですが、市役所の窓口で職員から大声で「障害者！障害者！！」と何度も言われた。障がい者という言葉は大変デリケートな言葉であることを意識して対応すべき
- ・ 障がい者の入居できる物件がない。コンビニ、ATMが利用しにくい。

問 36 あなた（障がい者ご本人）は、「障がい」に対する地域、学校、職場などでの理解は進んでいると思いますか。（○は1つだけ）

「以前よりも進んできているが、まだ十分とはいえない」の割合が30.9%と最も高く、次いで「わからない」の割合が28.4%、「あまり進んでいない」の割合が12.1%となっています。

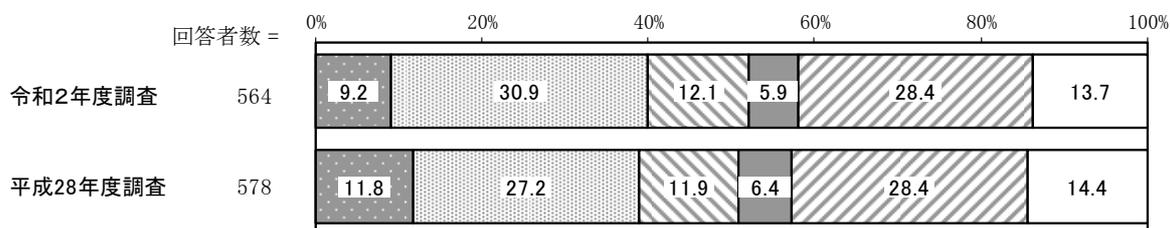
所持手帳別で見ると、他に比べ、療育手帳で「以前よりも進んできているが、まだ十分とはいえない」の割合が高くなっています。

- だいぶ進んできている
- ▨ 以前よりも進んできているが、まだ十分とはいえない
- ▧ あまり進んでいない
- 全然進んでいない
- ▩ わからない
- 無回答



【平成 28 年度調査との比較】

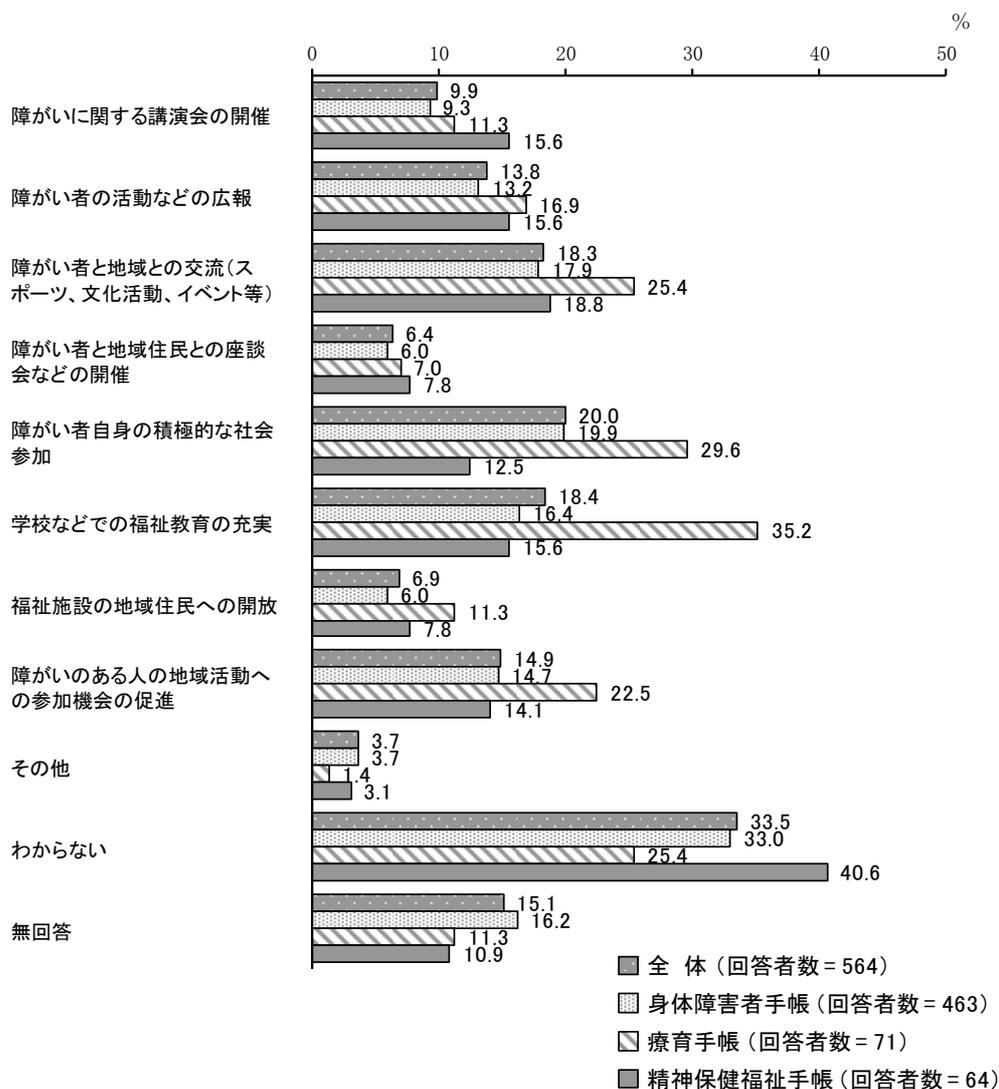
平成 28 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 37 あなた（障がい者ご本人）は、「障がい」に対する地域の理解を深めるためには、どんなことが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

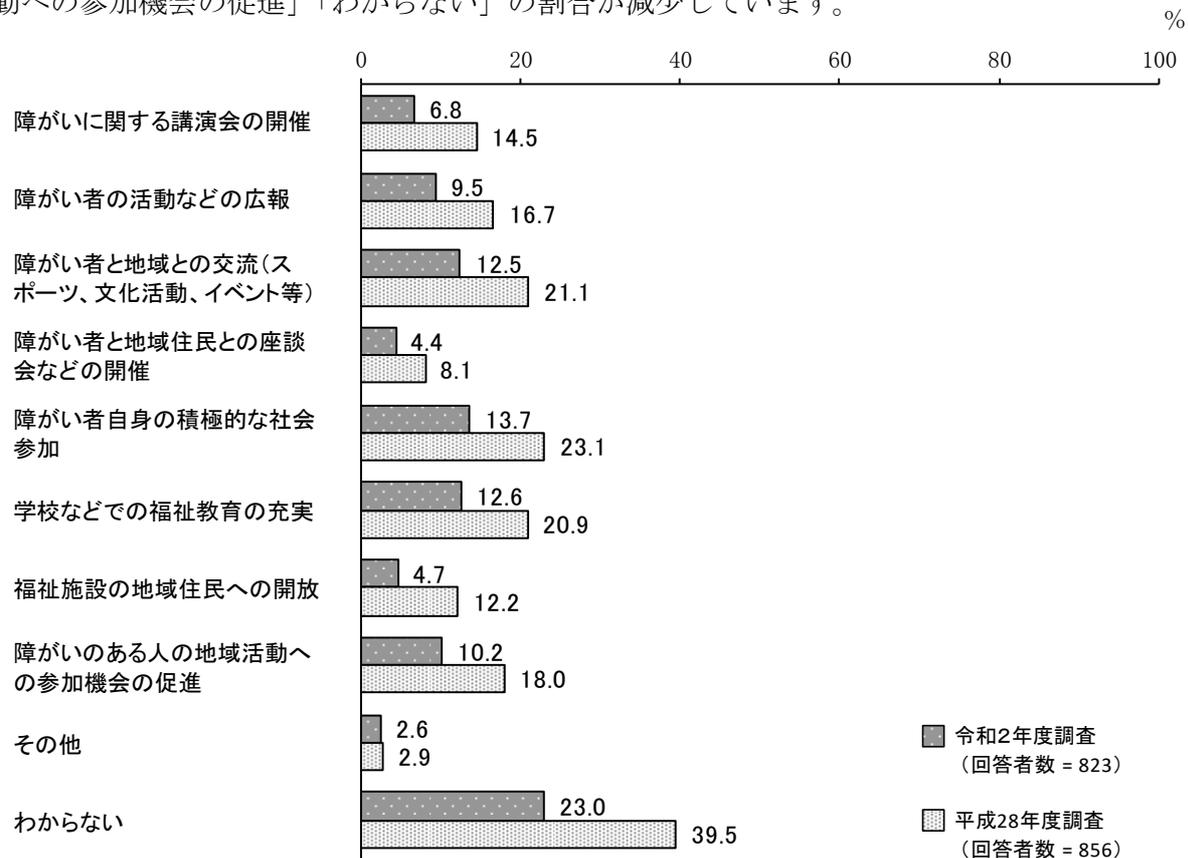
「わからない」の割合が 33.5%と最も高く、次いで「障がい者自身の積極的な社会参加」の割合が 20.0%、「学校などでの福祉教育の充実」の割合が 18.4%となっています。

所持手帳別で見ると、他に比べ、療育手帳で「学校などでの福祉教育の充実」の割合が高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

平成 28 年度調査と比較すると、「障がいに関する講演会の開催」「障がい者の活動などの広報」「障がい者と地域との交流（スポーツ、文化活動、イベント等）」「障がい者自身の積極的な社会参加」「学校などでの福祉教育の充実」「福祉施設の地域住民への開放」「障がいのある人の地域活動への参加機会の促進」「わからない」の割合が減少しています。

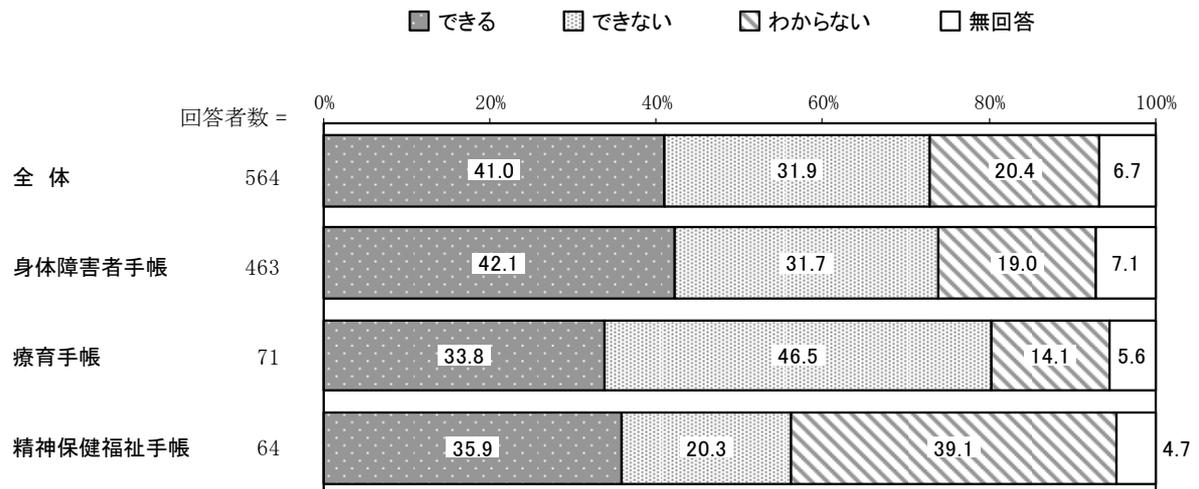


10 災害時の対応について

問 38 もし地震や火災などが起きたら、あなた（障がい者ご本人）は、ひとりで避難することができますか。（○は1つだけ）

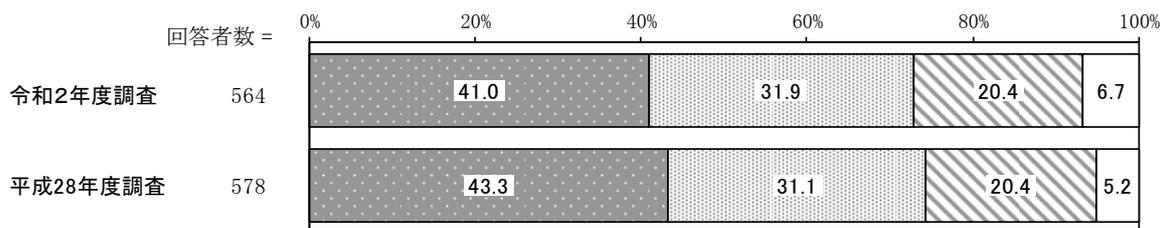
「できる」の割合が 41.0%と最も高く、次いで「できない」の割合が 31.9%、「わからない」の割合が 20.4%となっています。

所持手帳別で見ると、他に比べ、療育手帳で「できない」の割合が高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

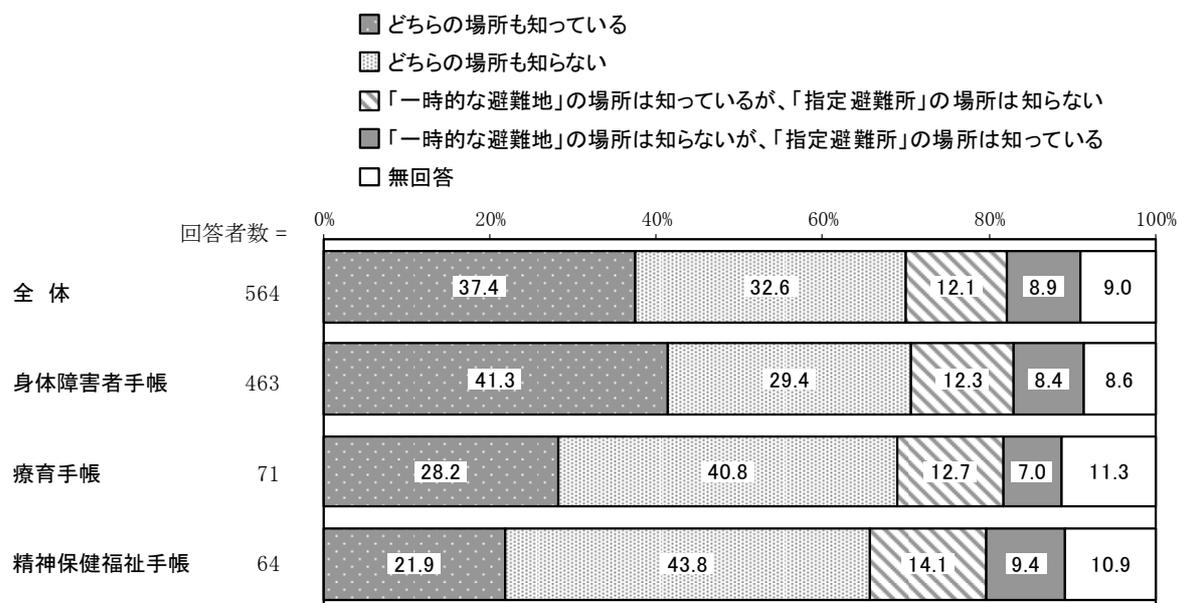
平成 28 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 39 あなた（障がい者ご本人）は、地域で決められた「一時的な避難地」や市が定める「指定避難所」がどこの場所か知っていますか。（○は1つだけ）

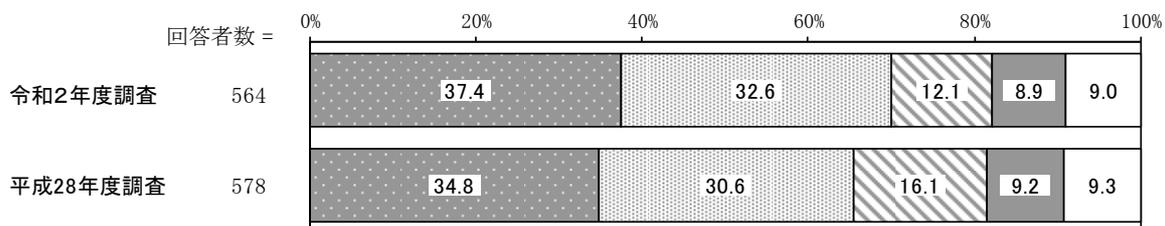
「どちらの場所も知っている」の割合が 37.4%と最も高く、次いで「どちらの場所も知らない」の割合が 32.6%、「一時的な避難地」の場所は知っているが、「指定避難所」の場所は知らない」の割合が 12.1%となっています。

所持手帳別でみると、他に比べ、精神保健福祉手帳で「どちらの場所も知らない」の割合が高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

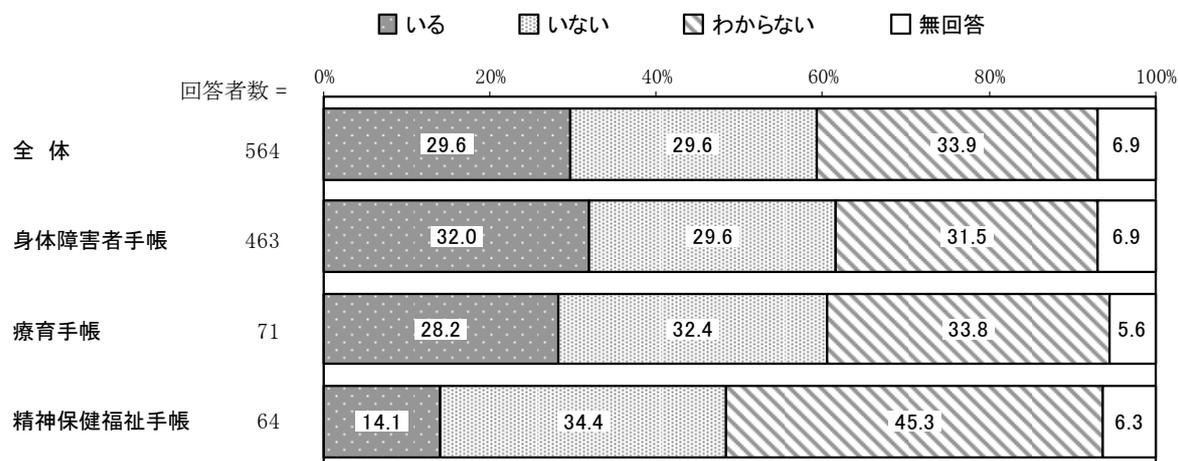
平成 28 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 40 もし家族が留守のときに災害が起きたら、近所にあなた（障がい者ご本人）を助けてくれる人がいますか。（○は1つだけ）

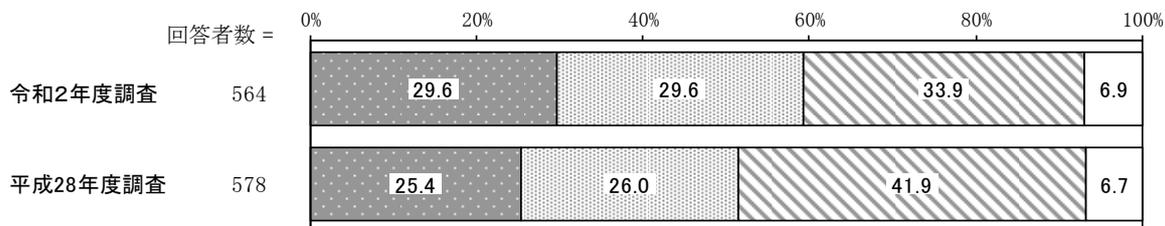
「わからない」の割合が33.9%と最も高く、次いで「いる」、「いない」の割合が29.6%となっています。

所持手帳別で見ると、他に比べ、精神保健福祉手帳で「わからない」の割合が高くなっています。



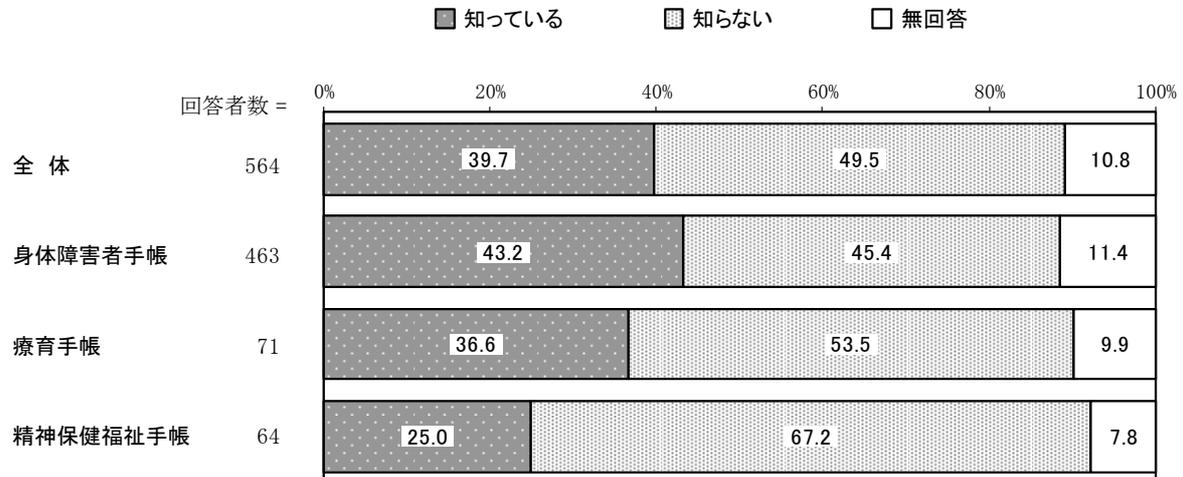
【平成 28 年度調査との比較】

平成 28 年度調査と比較すると、「わからない」の割合が減少しています。



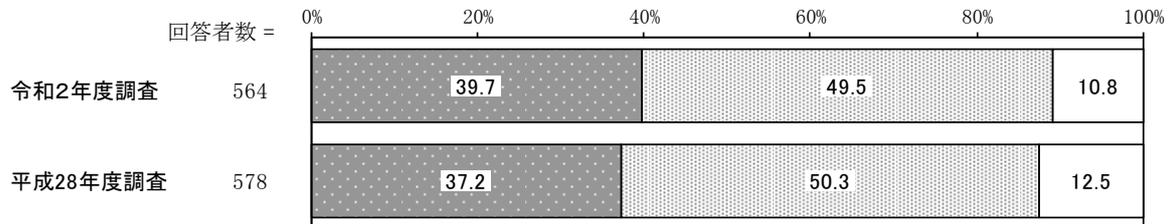
問 41 あなた（障がい者ご本人）は、災害が起きたときに地域の役員などに助けを求められることができる「避難行動要支援者登録」の制度を知っていますか。（○は1つだけ）

「知っている」の割合が39.7%、「知らない」の割合が49.5%となっています。
所持手帳別で見ると、他に比べ、精神保健福祉手帳で「知らない」の割合が高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

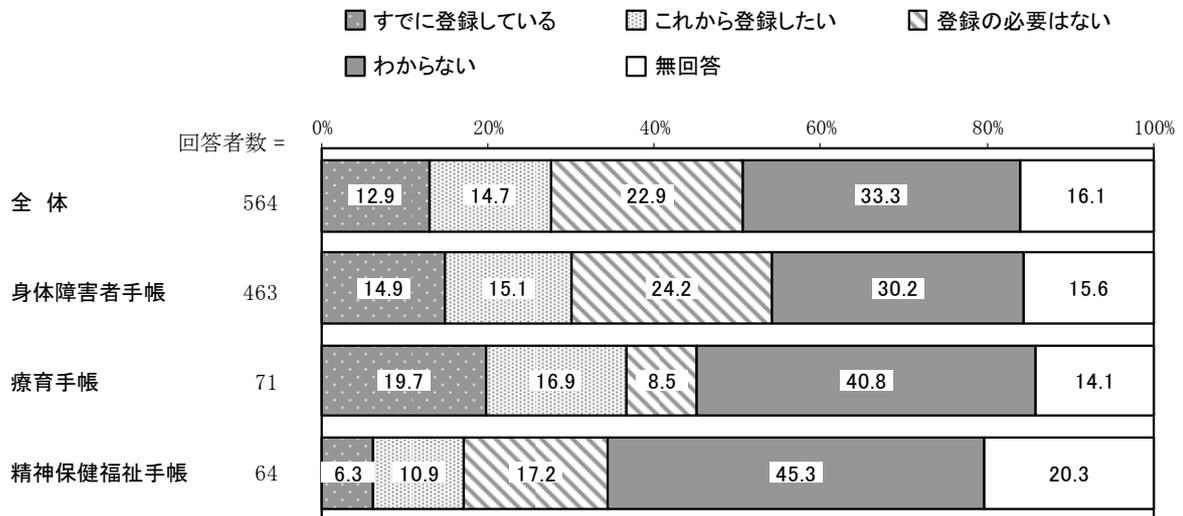
平成 28 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 41 これから登録を希望しますか。(○は1つだけ)

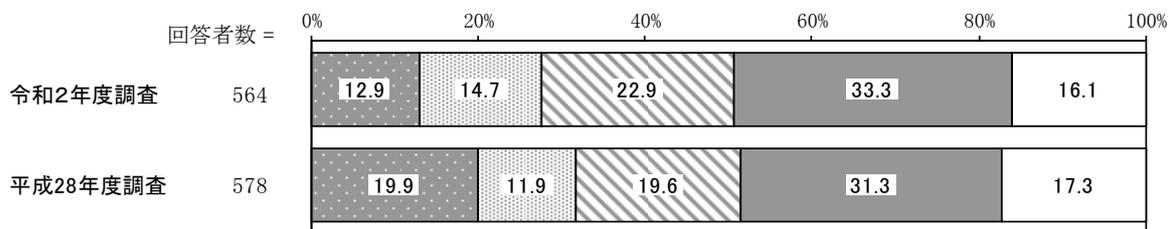
「わからない」の割合が 33.3%と最も高く、次いで「登録の必要はない」の割合が 22.9%、「これから登録したい」の割合が 14.7%となっています。

所持手帳別で見ると、他に比べ、身体障害者手帳で「登録の必要はない」の割合が高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

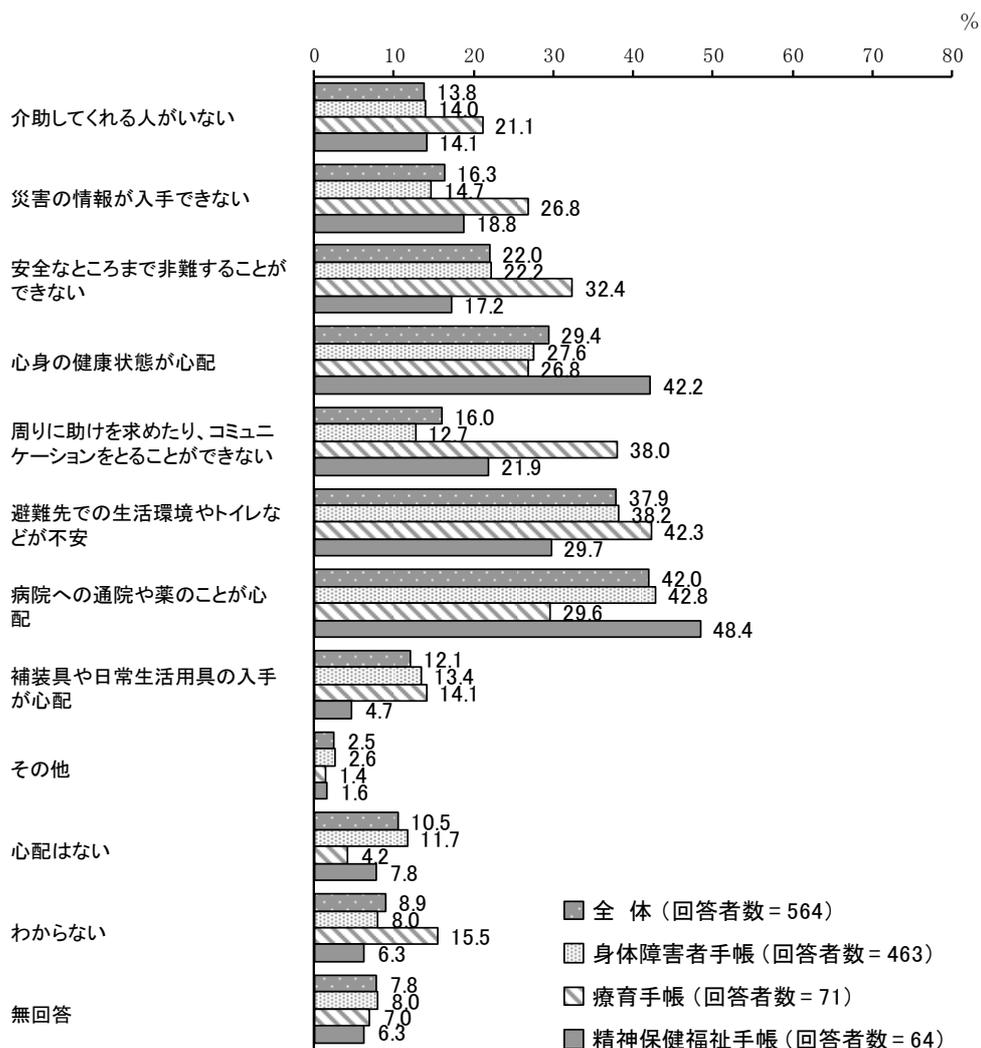
平成 28 年度調査と比較すると、「すでに登録している」の割合が減少しています。



問 42 もし大規模な災害が起きた場合、あなた（障がい者ご本人）が不安に思うことは
 どんなことですか。（〇はいくつでも）

「病院への通院や薬のことが心配」の割合が42.0%と最も高く、次いで「避難先での生活環境やトイレなどが不安」の割合が37.9%、「心身の健康状態が心配」の割合が29.4%となっています。

所持手帳別で見ると、他に比べ、精神保健福祉手帳で「病院への通院や薬のことが心配」の割合が高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

平成 28 年度調査と比較すると、「災害の情報が入手できない」「安全なところまで非難することができない」「心身の健康状態が心配」「周りに助けを求めたり、コミュニケーションをとることができない」「避難先での生活環境やトイレなどが不安」「病院への通院や薬のことが心配」「補装具や日常生活用具の入手が心配」「心配はない」「わからない」の割合が減少しています。

